

盛岡市総合計画実施計画

— 令和元年度実績（まちづくりの取組） —

目 次

1	施策体系のしくみ	1
2	まちづくりの取組	4
	(1) 施策別	4
	(2) 主要事業の実績額一覧（基本目標・施策別）	96
3	計画額と実績額の差が1億円以上となった主要事業	100
4	令和元年度完了事業	102

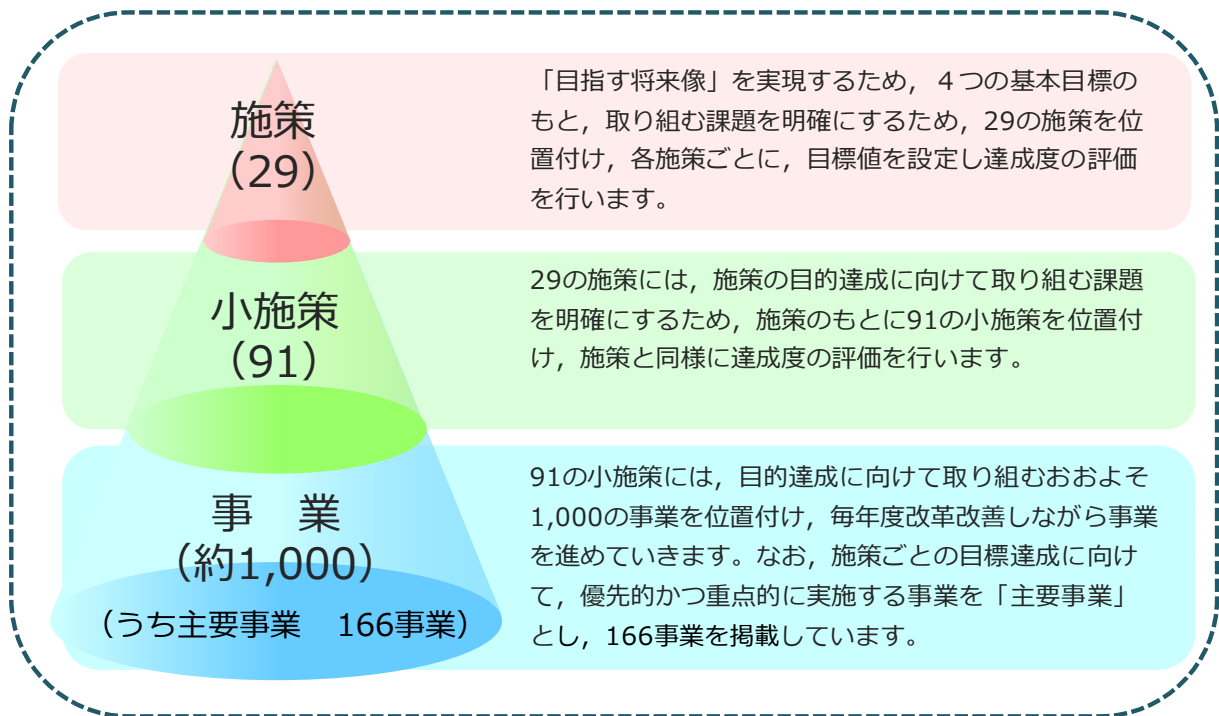
1 施策体系のしくみ

(1) 施策体系のしくみ

基本構想に定める「目指す将来像」を実現するために、次のような体系を構成し、施策を展開します。



まちづくりの取組



(2) 施策体系図

4つの基本目標のもと、取り組む施策間で十分に連携を図り、効果的にまちづくりを進めていくことが必要です。ここでは、それぞれの施策と基本目標との関連性を示し、「目指す将来像」の実現に向けて各施策がどのように取り組んでいくかを示します。

また、それぞれの施策がどの「基本目標」に関係するかを示すだけでなく、施策間で連携することを意識できるように示しています。

< 目指す将来像の実現に向けた4つの基本目標と29の施策 >

目指す将来像	ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡			
4つの基本目標	1 人がいきいきと暮らすまちづくり	2 盛岡の魅力があふれるまちづくり	3 人を育み未来につなぐまちづくり	4 人が集い活力を生むまちづくり
29の施策	<ul style="list-style-type: none"> 1 地域福祉の推進 2 子ども・子育て、若者への支援 3 高齢者福祉の充実 4 健康づくり・医療の充実 5 障がい者福祉の充実 6 生活困窮者への支援 7 人権尊重・男女共同参画の推進 8 安全・安心な暮らしの確保 9 地域コミュニティの維持・活性化 10 生活環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 11 歴史・文化の継承 12 芸術文化の振興 13 スポーツの推進 14 「盛岡ブランド」の展開 15 良好な景観の形成 16 計画的な土地利用の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 17 子どもの教育の充実 18 生涯学習の推進 19 社会を担う人材の育成・支援 20 地球環境の保全と自然との共生 	<ul style="list-style-type: none"> 21 農林業の振興 22 商業・サービス業の振興 23 工業の振興 24 観光の振興 25 雇用の創出 26 都市基盤施設の維持・強化 27 交通環境の構築 28 国際化の推進 29 都市間交流の促進

※ 施策 関係施策

2 まちづくりの取組

(1) 施策別

施策別の見方

施策の方針について掲載しています。

施策1 地域福祉の推進

誰もが住み慣れた地域で、それぞれの個性や尊厳を認め合いながら、共に生活を続けることが・・・

主要事業の主な取組と、各事業内容、実績を掲載しています。

- ・「新市」欄の「★」は、玉山村との合併時に策定した「盛岡市・玉山村新市建設計画」に記載されている主要事業です。なお、「(★)」は、事業の一部が「盛岡市・玉山村新市建設計画」に記載されている主要事業です。
- ・「計画額」は令和元年度当初予算額です。「実績額」は令和元年度予算額に対する実績額です。「翌年度繰越額」は、令和2年度へ繰り越した予算額です。「計画額」「実績額」「翌年度繰越額」とも、四捨五入しているため、計と合致しない場合があります。なお、100万円未満の場合は、切り上げています。

■ 主要事業の実績

地域福祉コーディネーターを中心とした市内の相談支援機関が、・・・

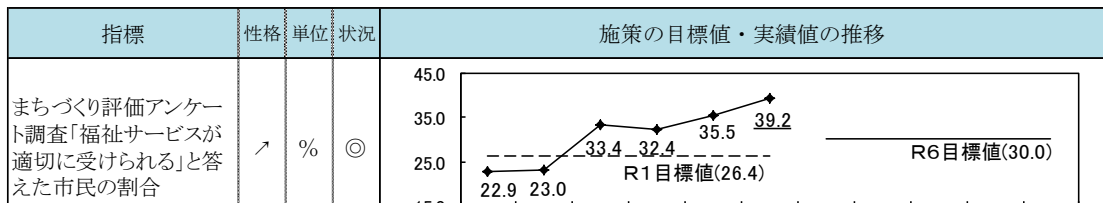
(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	地域トータルケアシステム構築事業（地域福祉コーディネーターネットワーク構築事業）	一般		地域福祉コーディネーター等のネットワーク構築の推進	32	31	0

まちづくり指標（成果指標）の状況を掲載しています。

- ・指標は、統計値やアンケート調査の結果に基づいています。
- ・「性格」欄の「↗」は数値を上げていくことを、「↘」は数値を下げていくことを、「→」は現状を維持していくことを目標としています。
- ・「状況」欄の「◎」は非常に順調に進捗、「○」は順調に進捗、「△」は遅れが生じていることを表します。
- ・「当初値」は、基本的に平成25年度の実績値を用いています。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



施策に対する市民の実感の状況を掲載しています。

- ・施策への取組状況などについて、市民の皆さんがどのように感じているか、無作為抽出した市民3,000人を対象に毎年アンケート調査を行い、その結果を「市民の実感」として掲載しています。
- ・小数点第2位を四捨五入して算出していますので、合計が100%とならない場合があります。

■ 施策に対する市民の実感

「共に支え合い安心して暮らすことができる地域社会の実現に向けた取組が行われている」と感じる市民の割合

R1	1.7%	20.3%	58.6%	11.0%	2.8%	5.6%
H30	1.1%	22.1%	58.3%	10.0%	2.8%	5.7%

施策を構成する小施策毎に、現状の成果、問題点や今後の方向性を掲載しています。

■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

支援を必要とする人が福祉サービスを受けられる仕組みづくり

小施策毎の分析結果を踏まえた施策全体の総括と、今後の方向性を掲載しています。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

地域における包括的な相談支援システムの構築には、・・・

基本目標 1 人がいきいきと暮らすまちづくり

施策 1 地域福祉の推進

誰もが住み慣れた地域で、それぞれの個性や尊厳を認め合いながら、共に生活を続けることができるように、地域住民が互いに支え合う地域社会の形成を推進します。

■ 主要事業の実績

地域福祉コーディネーターを中心とした市内の相談支援機関が、民生委員や包括支援センターなどから寄せられた相談ごとを連携して支援できる体制構築を推進しました。また、「地域力強化推進事業」として、モデル地区を3地区選定し、地域住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを支援しました。さらに、高齢者や子育てをしている人を地域で支える取組としてシルバーサロン事業の推進及びボランティア養成等に取り組みました。

地域における日常生活の支え合いの可能性を高めるとともに、コミュニティベースの経済循環にも寄与する仕組みの構築に向けた自主財源の確保策等について調査研究することを目的とした「地域福祉の推進とコミュニティ経済の循環促進調査研究事業」にモデル地区を3地区選定し、おでかけバス事業等を実施しました。

災害の発生に備え、避難行動要支援者名簿を更新し、災害時の支援が必要な方の把握に努めました。

将来的に地域福祉を支える人材である高校生の育成に取り組み、地域福祉や地域共生社会の形成促進を図りました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	地域トータルケアシステム構築事業（地域福祉コーディネーターネットワーク構築事業）	一般		地域福祉コーディネーター等のネットワーク構築の推進	32	31	0
2	盛岡市社会福祉協議会運営費補助事業	一般	(★)	(社福)盛岡市社会福祉協議会の運営費補助	130	126	0
3	社会福祉法人指導監督等事業	一般		社会福祉法人の指導監督や設立認可など	12	12	0
4	地域再犯防止推進計画事業	一般		市民向けシンポジウム等、再犯防止推進事業をモデル事業として実施	6	4	0
5	地域福祉団体育成事業	一般		地域福祉の推進拠点である地区福祉推進会に対する運営費補助	3	3	0
6	地域福祉人材等育成事業	一般		地域福祉活動の中核的な担い手の育成など	6	6	0
施策の計（一般会計 6事業）					189	182	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「福祉サービスが適切に受けられる」と答えた市民の割合	↑	%	◎	<p>当初値 22.9 H27 23.0 H28 33.4 H29 32.4 H30 35.5 R1 39.2 R1目標値(26.4) R6目標値(30.0)</p>
まちづくり評価アンケート調査「地域で支え合いが進んでいる」と答えた市民の割合	↑	%	○	<p>当初値 29.4 H27 24.0 H28 26.3 H29 27.8 H30 30.2 R1 29.5 R1目標値(31.7) R6目標値(34.0)</p>

・ 「福祉サービスが適切に受けられる」と答えた市民の割合／◎ 非常に順調に進捗

当初の目標値を越えて福祉サービスが適切に受けられると回答している背景には、高齢化社会の進展により、介護サービス等を受けたいと考える方、もしくは家族に受けさせたいと考える方が増加し、地域における福祉サービスの需要が高まっていることが背景にあると考えられます。また、ゴミ屋敷など、複合的な要因により解決困難な事例に対しても、多様な支援機関同士が連携して支援する取組が、社会福祉協議会や民生委員などを通じて、地域に浸透しつつあります。

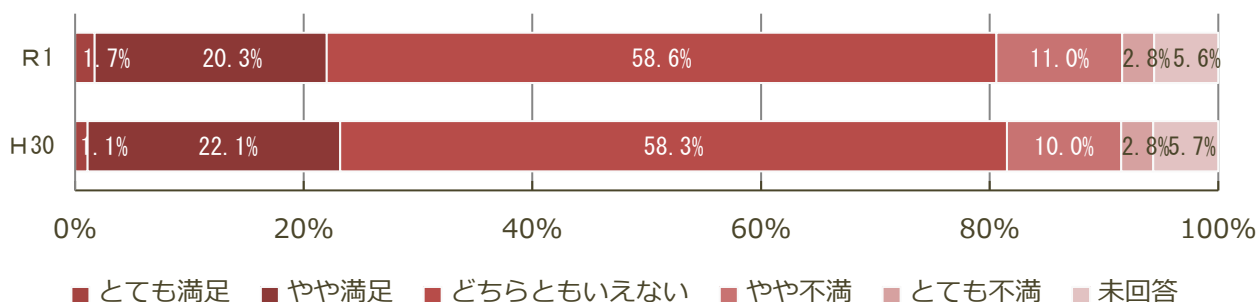
さらに、福祉総合ワンストップ窓口を社会福祉協議会への委託事業で設置したことも実績値が上昇した要因です。

・ 「地域で支え合いが進んでいる」と答えた市民の割合／○ 順調に進捗

平成27年度から平成30年度までは増加傾向にありましたが、令和元年度は横ばいとなったものの、地域福祉コーディネーターが主体となって、ふれあいサロンの開催等が年々増加していることは、地域力強化に向けた取組の成果と考えられます。地域住民が自主的に支え合えるような環境づくりについて、関係機関と連携して更に進める必要があることからモデル事業の成果や課題を検証し、市全区域の地域活動にいかに関与させていくことが目標達成に向けた今後の課題と考えます。

■ 施策に対する市民の実感

「共に支え合い安心して暮らすことができる地域社会の実現に向けた取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

支援を必要とする人が福祉サービスを受けられる仕組みづくり

(現状の成果、問題点)

地域福祉コーディネーターによるゴミ屋敷への対応など、複合的な要因により解決困難な事例に対し、必要と思われる部門と連携して、必要なサービスに結び付ける仕組みの構築が推進されました。また、多様な支援主体が相互に連携できる体制の構築が推進されました。

一方、ひきこもり者を抱える世帯などは、問題が表面化しにくく、相談につながりにくい点が課題となっています。

(今後の方向性)

令和3年度から社会福祉法の改正に伴う「重層的支援体制整備事業」の実施により、既存の特定の分野の相談機関において、属性によらない相談を受け付けることとなったことから、多機関と連携し、相談機能の向上を図っていきます。また、民生児童委員の相談業務の複合化・多様化等により、見守りなどの事例が増加していることなどから、包括的な相談窓口の周知や活用を図り、必要な福祉サービス等の利用につなげていきます。

共に支え合うことができる地域環境づくり

(現状の成果、問題点)

全国的に災害が発生している中、災害発生時に避難行動をとる際の補助となる「あんしん連絡パック」を配布しました。

「災害時における人工呼吸器等在宅医療者への支援に関する協定」を締結しました。

個人情報流出を懸念する方等により、避難行動要支援者情報提供同意者の人数が増加しません。

(今後の方向性)

従来事業を継続し、民生委員による避難行動要支援者実態調査等により寝たきりの要支援者の把握に努めるとともに避難行動要支援者情報提供同意者の増加に向けた勧奨を推進します。

地域福祉を担うひとづくり

(現状の成果、問題点)

将来の地域福祉活動の担い手である高校生に地域福祉人材育成事業の養成講座への参加を広く呼びかけ、参加校が増加しました。

講座への参加等、地域活動へ興味を示す人は多くなりましたが、実際の活動まで結びついていません。

(今後の方向性)

「重層的支援体制整備事業」において、地域のつながりの創出を目的とした支援を実施するなかで、ボランティアを担う人材の発見や育成に努めるとともに実際の地域福祉活動につながるよう取組を推進します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

地域における包括的な相談支援システムの構築には、地域力を高めながら、個別支援だけでなく、地域資源を活かした仕組みづくりを推進し、各分野の相談支援機関などが有機的に連携できるような仕組み（地域トータルケアシステム）を構築して、「共に支え合うことができる地域環境づくり」に取り組みます。

その主軸となる地域福祉コーディネーターの設置を着実に進めるとともに、地域住民が自ら課題解決に取り組む意識の醸成に取り組みます。

施策2 子ども・子育て、若者への支援

子どもの最善の利益を第一に、希望を持って子どもを産み育て、全ての子どもが健やかに成長できるように、子ども・子育て支援を進めます。

また、困難を抱える若者が自立できるように、社会全体で支援する仕組みを構築します。

■ 主要事業の実績

子ども未来基金を活用し、市民、団体などが行う子ども・子育て支援活動に補助を行いました。また、子どもの医療費について、小学生の現物給付化、乳幼児の無料化を実施しました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	私立児童福祉施設等運営事業	一般		認可された私立保育所、母子生活支援施設、助産施設の運営委託	5,414	5,415	0
2	認定こども園等運営費給付事業	一般		認定こども園や地域型保育事業による保育施設への給付	3,042	3,335	0
3	保育所管理運営事業	一般		市内公立保育所の管理運営	372	343	0
4	特別保育事業	一般	★	保育所での延長保育、一時預かりの実施	338	248	0
5	地域子育て支援センター事業	一般	★	市内の保育所8園での保育所開放、交流の場の提供、子育て講座、子育て情報の提供など	63	63	0
6	子育て世代包括支援センター事業	一般		妊婦相談や乳幼児家庭訪問、出張子育て相談、子育て支援サービス等の情報提供、ケアプラン作成など	10	10	0
7	子ども未来基金事業	一般		市民等が実施する子ども及びその保護者に対する支援活動に要する経費の助成	28	34	0
8	子育て応援プラザ運営事業	一般		室内遊び場や託児機能を備えた子育て支援エリアと、子どもと離れずに働くことができるワーキングスペースを運営する民間事業エリアの運営	25	25	0
9-1	医療費給付事業（妊産婦）	一般		妊産婦医療費給付	144	126	0
9-2	医療費給付事業（乳幼児）	一般		乳幼児医療費給付	468	473	0
9-3	医療費給付事業（小学生）	一般		小学生医療費給付	224	248	0
9-4	医療費給付事業（中学生）	一般		中学生医療費給付	77	88	0
10	母子保健事業	一般		妊婦健康診査、産婦健康診査、母親教室などの開催、子育て相談、産後ケアの実施	245	243	0
11	乳幼児健康診査事業	一般	★	3歳児までの各健康診査など	102	98	0
12	小児救急輪番制病院事業	一般		休日、夜間などに入院治療を必要とする小児重症救急患者を輪番制で診療する病院への運営費補助	20	20	0
施策の計（一般会計 12事業）					10,570	10,770	0

・ 認定こども園等運営費給付事業

地域型保育施設が年度途中から3園新規開設したこと及び新たに加算できる項目が増えた施設があったことにより、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
子育て支援サービス利用者数	↗	人	○	
まちづくり評価アンケート調査「子育てをづらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	↘	%	○	
まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合	↗	%	△	

・ 子育て支援サービス利用者数／○順調に進捗

平成27年度以降、平成30年度まで令和元年度の目標値を上回っていました。元年度は、新型コロナウイルス感染の影響により3月はma*mallをはじめ、子育て支援施設を開館しなかったことや「にっこ」の移転に伴う休館期間の影響により、30年度より大きく減少しました。

※利用者数の大幅な減少は新型コロナウイルス感染症の影響による一時的なものであり、今後の新型コロナウイルス感染症の状況の改善により令和6年度目標値は達成できる見込みであることから、順調に推移していると評価しています。

・ 「子育てをづらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合／△遅れが生じている

平成30年度に引き続き減少しました。「乳児家庭全戸訪問等事業」や平成30年度に開設した「子ども家庭総合支援センター」により育児不安等の早期解決の成果が表れたと思われます。一方で、センターの開設に伴い、虐待や養育相談の件数が増加していることから、引き続き対策の強化が必要です。

なお、令和2年度から指標を「まちづくり評価アンケート調査「子育てを楽しいと感じている」と答えた子どものいる親の割合」に変更しています。

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
【参考】 まちづくり評価アンケート調査「子育てを楽しいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	↗	%	◎	

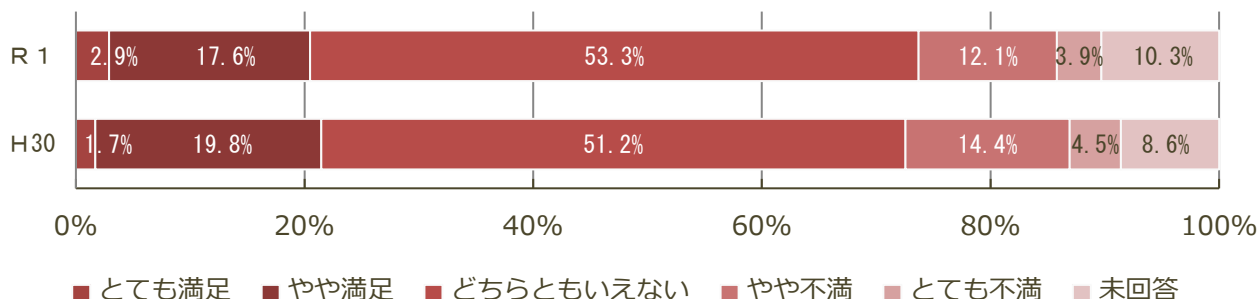
・ 「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合

／△遅れが生じている

待機児童対策緊急プロジェクトや子ども未来基金を活用した子ども・子育て支援活動への補助など、多方面に渡る子育て支援事業の展開を行ったことにより、令和元年度実績は当初値よりは若干あがったものの、依然として、令和元年度目標値とは差がある状況です。引き続き、利用のニーズ把握に努めるとともに、取組及び周知の強化が必要です。

■ 施策に対する市民の実感

「安心して産み・育てられる子育て支援の取組が充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

保育環境の充実

（現状の成果、問題点）

国の定義に基づく4月1日時点の待機児童は5年連続0人ですが、空き待ち児童も含めると、年間を通じた保育所入所希望者全員の入所には至っていません。

保育所定員の拡大に伴い保育士が必要となりますが、保育士が見つかりにくく、確保が難しい状況は変わっていません。

（今後の方向性）

第2期盛岡市子ども・子育て支援事業計画における地域ごとの教育・保育の必要な量の見込みと、空き待ち児童の現状を比較しながら、施設整備や保育所定員の弾力化などに引き続き支援を行います。

保育士確保対策について、これまで様々な支援策を講じてきたことから、事業効果の分析を行うとともに保育関係者からの意見を伺い、保育士の定着を図りながら今後の支援策を検討していきます。

育児不安の軽減

（現状の成果、問題点）

まちづくり評価アンケートにおける「子育てをつらいと感じている」割合は、2年連続で改善が見られたものの、依然として目標値に到達していません。

虐待等の相談件数が増加しており、今後更に増加していくことが予想されるため、発生予防に努める必要があります。

子育て応援プラザma*mallの利用者数（新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の令和2年2月まで）が増加しており、地域子育て支援拠点を更に充実する必要があります。

（今後の方向性）

増加する児童家庭相談への対応を強化するため、関係機関との連携を深めながら組織体制の整備を検討します。

児童虐待の発生予防のため、要保護児童及び要支援児童のいる世帯を対象とした養育支援訪問（家事援助）事業の対象エリアを拡大し、支援が必要な世帯へ行きわたるようにします。

地域子育て支援拠点の充実（盛南地区への新設、新盛岡バスセンターへの開設）を図ります。

支援体制の充実

（現状の成果、問題点）

医療費給付事業において、子どもの医療費助成について令和元年8月から小学生の現物給付化及び乳幼児の無料化を実施し、制度の拡充を図りました。また、対象拡大、給付方式の変更（償還→現物給付）及び全額無料化を望む声がありますが、実施するためには継続して多額の費用を要することが課題となっています。

医療費給付事業の給付方式の変更は、国民健康保険療養費等国庫負担金の減額措置があり、国保財政に負担が生じます。

(今後の方向性)

令和2年8月から県内市町村が統一して、中学生までの現物給付化を開始します。

中学生現物給付化による国民健康保険療養費等国庫負担金の減額措置については、県が1/2を補助することになりましたが、減額措置制度自体の廃止について、継続して国に働きかけます。

母子保健・予防の推進

(現状の成果、問題点)

妊産婦健康診査や乳幼児健康診査の受診率は高い水準を維持し、適時、保健指導を実施することにより、健康の保持増進が図られました。

産後ケア事業について、訪問型の利用は増加していますが、デイサービス型、宿泊型についても実施に向けて関係機関との検討会を立ち上げました。

令和元年6月から、新生児聴覚検査事業を開始し、保護者の費用負担を軽減することができました。

(今後の方向性)

母子健康手帳交付時に妊産婦健康診査の重要性を説明し、受診勧奨を継続します。

医療機関と連携し、産後ケア（訪問型）についての周知を図ります。また、デイサービス型、宿泊型の産後ケアについて、関係機関との検討会を継続し、実施に向けて取り組んでいきます。

新生児聴覚検査については、引き続き、事業の周知をし、受診率の向上を図ります。

困難を抱えた子ども・若者の支援

(現状の成果、問題点)

青少年相談員による相談対応件数が年々増加しており、困難を抱えた子ども・若者の支援を行うことができました。

不登校、引きこもりなど、困難を抱えた子ども・若者は増加傾向にあると認められますが、子ども・若者に関する相談件数は目標値に達していない状況にあります。

(今後の方向性)

子ども家庭総合支援センター等の関係部署と連携し、積極的に訪問活動を行うなど相談対応を強化します。

児童・青少年の健全育成

(現状の成果、問題点)

少年センターの街頭巡回において、多くの子どもたちに声かけをすることで、少年非行の未然防止と早期発見に結びつきました。一方で、困難や悩みを抱える少年の現状が見えにくくなり、インターネット利用から犯罪に巻き込まれる事案が増加しています。

補導件数の目標値は達成しているものの、補導件数が平成30年度より11件増加しました。

(今後の方向性)

出前講座の開催などにより、インターネット利用の弊害について普及啓発を図ります。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

子育て支援サービスはこのような状況だからこそ、育児不安や孤立を防ぐためにも、安全対策を取りながら充実させるべきものと感じています。まちづくり評価アンケートの数値は、少しずつ目標値に近づいているので、更に子育て施策の充実を図ります。

施策3 高齢者福祉の充実

高齢者が健康で生きがいを持ち、安心して暮らすことができる長寿社会の実現を目指し、高齢者の社会参加を促進するとともに、介護予防や認知症対策などを推進するほか、介護サービス提供体制を強化するなど、高齢者福祉の充実を図ります。

■ 主要事業の実績

平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービス、通所型サービス、介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業）に取り組んでおり、より一層の事業の周知を図り、利用者数の増加を図りました。

地域包括支援センターを市内11か所に設置し、年間約1万9千件の多種多様な相談へ対応し、相談者を必要なサービスにつなぐなど、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう「地域包括ケアシステム」の構築に努めました。

生きがい活動を支援する「老人福祉センター管理運営事業（28施設）」、「老人クラブ活動促進事業」、「もりおか老人大学開催事業」等を通じ、高齢者の社会参加を促進しました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	地域包括ケアシステム構築事業 (地域支援事業)	介護		介護予防事業、地域包括支援センターの運営など	922	911	0
2	生きがい活動推進事業	一般		老人作品展・老人芸能大会等の支援、敬老バスの運行、スポーツ振興など	29	27	0
3-1	介護保険事業（繰出金）	一般		介護保険特別会計への一般会計繰出金	3,576	3,813	0
3-2	介護保険事業（施設整備）	一般		老人福祉施設整備に対する補助	112	65	8
3-3	介護保険事業（特別会計）	介護		介護保険制度の周知、介護保険サービスの運用など	24,371	25,323	0
施策の計（一般会計 3事業）					3,716	3,905	8
施策の計（一般会計以外 2事業）					25,293	26,233	0

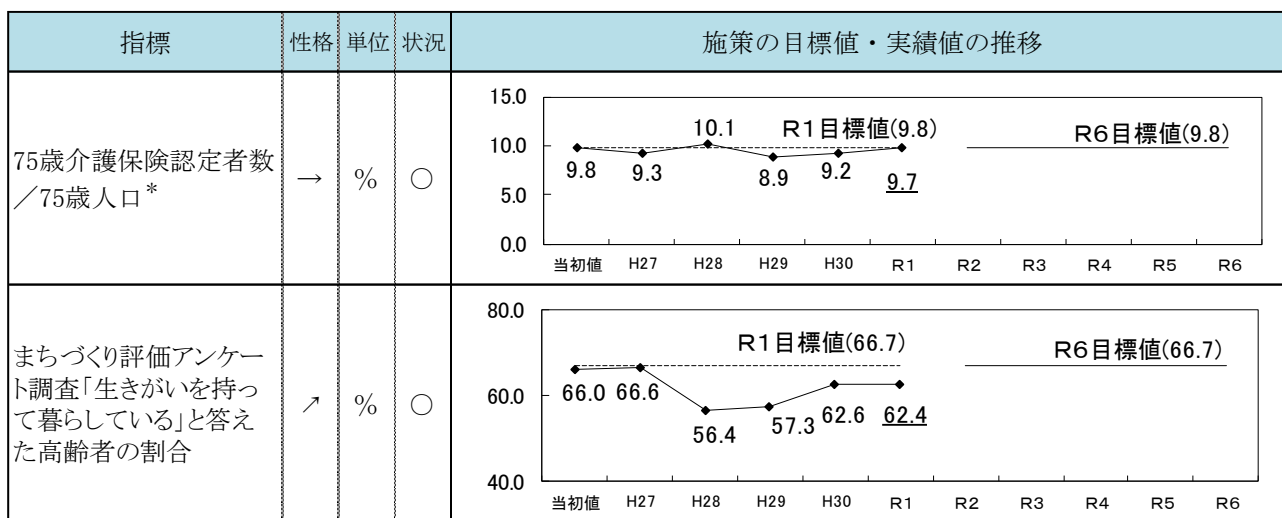
・ 介護保険事業（施設整備）

地域密着型サービス施設等の整備に関し、一部の種別に応募がなかったこと及び選定候補者1者の辞退があったことにより、実績額が小さくなりました。

・ 介護保険事業（繰出金、特別会計）

医療の高度化、被保険者の高齢層の増加等により、保険給付費が増大したため、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



* 「75歳介護保険認定者数／75歳人口」は27年度から新たに設定した指標です。当初値は26年度の実績値としています。

・ 75歳介護保険認定者数／75歳人口／○ 順調に進捗

目標値前後で推移しています。要因としては、医療の進歩、食生活の向上や健康に対する高齢者の意識の変化等により健康寿命が延び、元気な高齢者の割合が維持されていることが考えられます。

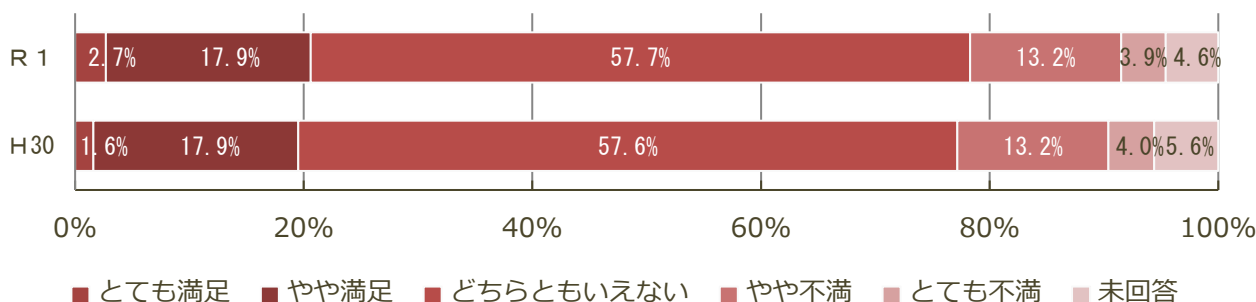
・ 「生きがいを持って暮らしている」と答えた高齢者の割合／○ 順調に進捗

目標値を下回り、平成30年度から令和元年度は0.2ポイント下降しているものの、継続している元気はなまる教室の開催や29年度から実施している介護予防・日常生活支援総合事業に加え、30年度から着手したシルバーリハビリ体操は、実施回数が、30年度の37回から元年度の513回に増加するなど、着実に効果をあげているものと考えられます。

依然として目標値を下回っていることから、高齢者の身近な地域における住民主体の通いの場を増やし、目標達成に向けた取組が必要です。

■ 施策に対する市民の実感

「高齢者が積極的に社会参加できる取組や高齢者福祉サービスが充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

地域包括ケアシステムの構築

（現状の成果、問題点）

地域包括支援センターの設置について平成30年度の9圏域から令和元年度は11圏域と増設するとともに、相談件数が、27年度の14,795件から元年度は19,806件となり、相談機関周知の効果が表れています。

住民アンケートによると地域包括支援センターの認知度は50%以下と低いものの、高齢者人口が増加している中で地域包括支援センターの業務負担が過大との指摘もあり、認知度を上げることで地域包括支援センターの業務量が更に過大となることが懸念されます。

(今後の方向性)

今後も更に地域包括支援センターの周知を行なうとともに、高齢者が相談しやすい環境づくりに努めます。また、生活支援コーディネーター兼認知症地域支援推進員が十分に機能することで地域包括ケアシステムの構築につなげます。

高齢者の健康・生きがい対策の充実

(現状の成果, 問題点)

平成30年度から着手したシルバーリハビリ体操は、実施回数が、30年度の37回から令和元年度は513回に増加し、高齢者が生きがいを感じる機会を大きく増加することにつながっています。

生きがい活動の場を増やすには、地域での担い手を増やす必要があります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月から3月にかけて老人福祉センター等を利用した様々な活動が自粛されたことにより、生きがい活動をしている高齢者数が、30年度は237,799人、元年度は225,314人となり、前年度と比較すると減少しています。

(今後の方向性)

シルバーリハビリ体操の指導者の養成をすすめるなど、担い手となる高齢者が増加するような事業を継続します。また、新型コロナ感染症拡大防止に努めながら、様々な生きがい活動を実施することができる環境づくりに努めます。

高齢者福祉サービスの充実

(現状の成果, 問題点)

「介護予防訪問介護」と「介護予防通所介護」の介護予防・日常生活支援総合事業への移行により、利用数が平成30年度は39,347人、令和元年度は49,003人と増加しています。しかし、介護サービス利用者が増加傾向にある中で、介護職員の人材不足が深刻化しています。

(今後の方向性)

サービス利用者が安定した介護サービスを受けられるよう、介護従事者確保事業の拡充を行います。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

高齢者人口が急速に増加する中、特に団塊世代の高齢化に対応するためにも、高齢者が元気に安心して生活できる環境の構築が必要となっており、健康寿命の延伸には介護予防施策の充実が必要であるほか、認知症対策の中では、成年後見制度について、令和2年4月に盛岡広域成年後見センターを設置し、支援を必要とする人が制度を適切に利用できるよう周知及び実績の強化に取り組みます。

また、介護サービス提供体制を支える担い手の不足が顕著なものとなっており、国の施策とともに、市としての具体的な取組が求められています。

施策4 健康づくり・医療の充実

生涯にわたり健やかに暮らすことができるように、健康相談や健康診査などを実施するとともに、医療体制の拡充や医療費を助成するなど、健康づくりと医療の充実を図ります。

■ 主要事業の実績

胃がん個別検診については、胃がんエックス線と内視鏡検診の選択を導入し、内視鏡検診の選択者が増加傾向にあることから、より正確な検診結果となり、早期治療へとつなぐことができました。

予防接種事業では、子どもや高齢者に対する定期予防接種を実施したほか、幼児・小学生を対象としてインフルエンザ予防接種の一部助成を行い、感染症のまん延防止に努めました。

盛岡市医師会及び盛岡市歯科医師会へ在宅当番医の業務を委託するとともに、夜間の初期救急医療体制（内科・小児科）を年中無休で運営することにより、初期救急医療体制の充実を図りました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	各種健康診査事業	一般	★	女性健康診査や各種がん検診など	478	491	0
2	健康教育事業	一般	★	保健所フェスタ健康講座、ウォーキング教室、地区健康教室、病態別栄養教室などの開催	2	2	0
3	精神保健福祉事業	一般		こころの健康についての保健相談、自殺対策強化など	4	4	0
4	予防接種事業	一般		インフルエンザなどの各種予防接種	808	800	0
5	感染症対策事業	一般		感染症に関する検診や予防対策の周知など	31	51	0
6	食品衛生指導事業	一般		食品営業施設の監査指導や食品営業許可など	7	6	0
7	生活衛生指導事業	一般		公衆浴場に対する営業許可や井戸水の検査など	1	1	0
8	医務業務指導事業	一般		医療施設の開設許可や医薬品販売業などの許可・登録、病院への立入検査	1	1	0
9	第二次救急医療事業	一般	★	休日、夜間などに入院治療を必要とする重症救急患者を輪番制で診療する病院への運営費補助	44	44	0
10	在宅当番医制事業	一般		休日などに開院する内科、小児科、外科・整形外科、歯科の在宅当番医による診療	8	8	0
11	夜間急患診療所管理運営事業	一般		夜間の初期救急患者のための内科、小児科の診療（年中無休）	74	73	0
12-1	国民健康保険事業（繰出金）	一般		国民健康保険費特別会計への一般会計繰出金	1,690	1,657	0
12-2	国民健康保険事業（特別会計）	国保		国民健康保険の被保険者への保険給付、人間ドック等の保健事業など	25,430	25,772	0
13-1	後期高齢者医療事業（繰出金など）	一般		医療給付に要する費用、健康診査等助成及び特別会計への一般会計繰出金など	3,438	3,400	0
13-2	後期高齢者医療事業（特別会計）	後期高齢		申請受付、保険料の徴収及び保険基盤安定負担金を含む広域連合納付金など	3,102	3,164	0
施策の計（一般会計 13事業）					6,585	6,538	0
施策の計（一般会計以外 2事業）					28,532	28,937	0

・ 国民健康保険事業（特別会計）

医療の高度化、被保険者の高齢層の増加等の影響により、保険給付費が増加したため、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
3大死因 ^{*1} の死亡率(人口10万対年齢調整死亡率 ^{*2}) ^{*3}	↘	割合	◎	
まちづくり評価アンケート調査「身近に健康について相談できる人がいる」と答えた市民の割合	→	%	○	
まちづくり評価アンケート調査「いつでも受診できる医療機関がある」と答えた市民の割合	→	%	○	

*1 3大死因

悪性新生物，心疾患，脳血管疾患のことです。

*2 年齢調整死亡率

人口構成の異なる集団間で比較するために，死亡率を一定の基準人口にあてはめて算出した指標です。

*3 令和元年度の実績値は，令和3年3月に公表予定です。

・ 3大死因の死亡率（人口10万対年齢調整死亡率）／◎ 非常に順調に進捗

がん検診の受診率は横ばい傾向ですが，医療機関の充実や医療の進化等により死亡率は減少傾向にあるものと考えます。

・ 「身近に健康について相談できる人がいる」と答えた市民の割合／○ 順調に進捗

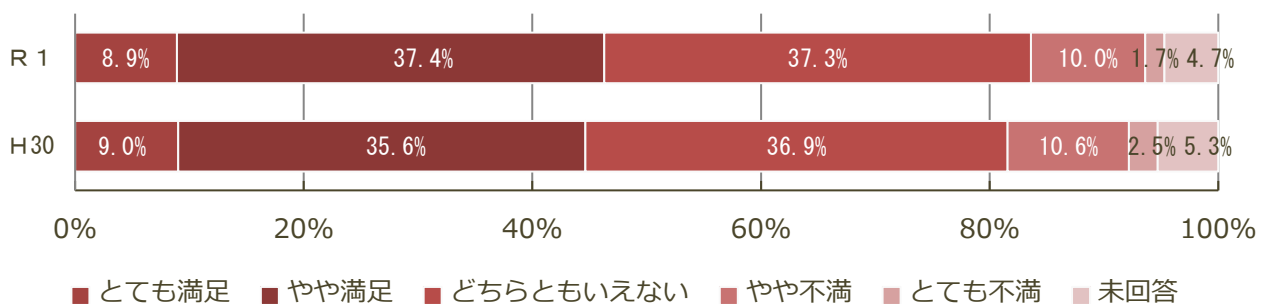
健康相談の相談者数は前年度実績と同数で推移していましたが，新型コロナウイルス感染症のために予定通りの相談事業が実施できず，実績が下がりました。今後もコロナ禍の状況が続く限り，気軽に相談できる環境にはなりづらいと考えます。

・ 「いつでも受診できる医療機関がある」と答えた市民の割合／○ 順調に進捗

在宅当番医制事業や夜間急患診療所運営事業による初期救急医療体制，二次救急医療事業や小児救急輪番制病院事業による重症救急患者の診療体制を継続しています。指標が下がっている原因は不明ですが，24時間，365日受診できる医療体制にあることを市民に対してさらに周知する必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「健康診断や予防接種，健康相談がしやすい」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

健康の保持増進

（現状の成果、問題点）

3大死亡率の推移は当初値から減少傾向で推移し、身近に相談できる人やいつでも受診できる医療機関があると回答した割合は若干減少しておりますが、80%以上と高い水準を維持しています。しかしながら、各種検診の受診率が向上しません。

（今後の方向性）

受診率向上のため、情報を届けたい対象に検診の必要性や健康管理の大切さを伝える周知に取り組みます。

保健・予防の推進

（現状の成果、問題点）

全結核罹患率が低下傾向にあり、令和元年度で目標値から3.29%下回りました。

乳幼児に係る定期予防接種の接種率は、高い水準を維持しています。

若年時に感染し、休眠していた結核菌が、高齢化に伴う免疫低下などにより発症することが一因となって結核患者における高齢者の割合が全国的に増加傾向にあります。

定められた期間内に予防接種を受けそびれる人がいます。

（今後の方向性）

加齢に伴う免疫低下はやむを得ない現象ですが、定期的にレントゲン検診を受ける機会を増やすことで、症状の発症・進行を早期に発見し、さらに要精密検査となった対象者へ受診勧奨を行い、速やかな再検査、治療に結び付け重症化及び感染の抑制に繋げ、DOTS（直接服薬確認療法）事業の推進により、治療成功率を高めます。

乳幼児について、新たに定期予防接種が追加されることに伴い、開始時期や対象者について市民に適切に情報提供し、盛岡市医師会等と連携しスムーズな実施に向け準備を行います。また、新たに幼児等おたふくかぜ予防接種助成について検討します。

生活衛生対策の推進

（現状の成果、問題点）

食品関係事業者等の衛生意識の向上の結果、不良食品苦情件数は40件、収去検査の不備件数は9件と、低い水準で維持できています。

監視対象施設が約9,500件と多く、すべての施設の監視が困難となっています。

（今後の方向性）

重点監視対象施設を中心に、引き続き計画的に監視指導を実施します。

改正食品衛生法の施行に合わせ、監視対象施設の見直しを検討します。

収去検査及び検査結果に応じた衛生指導を継続します。

食品事業者等への監視指導及び衛生講習による食品衛生の普及啓発を継続します。

医療機関との連携強化

（現状の成果、問題点）

まちづくり評価アンケート調査において「身近に健康について相談できる人がいる」、「いつでも身近に受診できる医療機関がある」と応えた市民の割合が80%以上と高い水準です。

令和元年9月の岩手医科大学附属病院の矢巾移転後、一部の二次救急医療機関の患者数は増えたものの大きな影響はありませんでした。また、盛岡市夜間急患診療所の患者数は、岩手医科大学附属病院移転直後には若干増加しましたが、その後、新型コロナウイルス感染症の影響で3月の患者数は例年の半数ほどに減少しています。

夜間急患診療所は保健所内に設置されていますが、構造上、感染症の疑いのある患者とそれ以外の患者を分けることができません。また常勤医師がおらず、一貫性のある感染症対策を実施することが難しい状況です。

（今後の方向性）

今後は、夜間急患診療所の機能を受け入れ可能な医療機関に業務委託を打診し、委託へ向けて協議します。または、二次救急のように、夜間に診療してくれる医療機関に補助金を交付する方法も検討します。

健康保険制度の健全運営

（現状の成果，問題点）

75歳に到達した方の後期高齢者医療保険への移行や高齢者の雇用環境が整備され、被用者保険に加入する方が増えたこと等の影響により、保険者負担額総額は減少傾向にあります。また、保険税収納率は、目標値を上回る数値で上昇傾向に推移しています。

高齢化の進行や医療技術の高度化等により、一人当たりの療養諸費費用額が年々増加傾向にあります。

（今後の方向性）

生活習慣病予防など保健事業を強化し、医療費抑制に向けた施策の充実を図ります。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

健康の維持・予防においては、病気の早期発見・早期治療のための健診受診率の向上がさらに求められます。また、生活習慣病予防や介護予防等、将来安定したQOL（生活の質）の向上を獲得するため、市民が気軽に参加できる健康教育・健康相談等の実施や健康づくりをサポートする関係機関等と連携を図りながら、市民自らが主体的に健康づくりに取り組む環境づくりを進め、健康寿命の延伸を図る必要があります。

施策5 障がい者福祉の充実

障がい者が地域の一員として安心して暮らすことができるように、障がいや障がい者への市民の理解と交流を促進するとともに、障がい者福祉サービスの充実を図ります。

■ 主要事業の実績

障がい福祉サービス受給者は 3,474人となり、平成25年度と比べて1.41倍に増加しました。また、平成29年4月から盛岡市基幹相談支援センターを設置し、令和元年度の実績は、障がい者からの相談 1,126件、相談支援事業者に対する助言65件、相談支援事業者以外の関係機関からの相談 203件あり、相談支援体制の充実を図りました。

施設整備については、就労系事業所及び短期入所事業所に対し助成を行いました。

(単位 百万円)

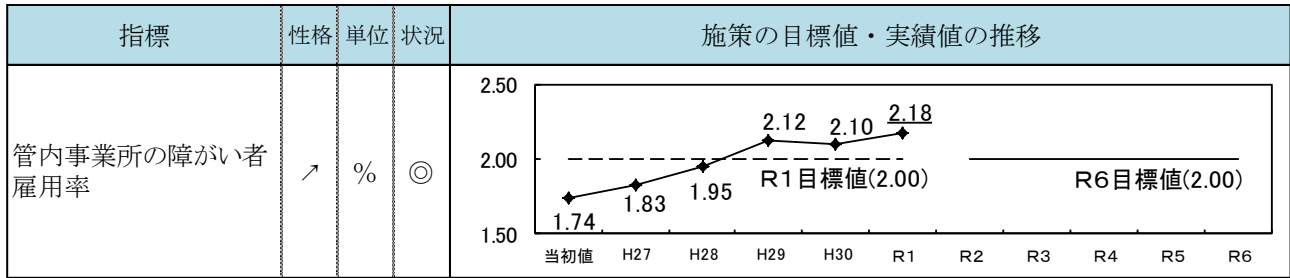
No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	地域生活支援事業	一般		意思疎通支援, 日常生活支援, 移動支援, 地域活動支援センター機能強化など	242	247	0
2	障がい者相談支援事業	一般		身体・知的・精神に係る相談事業, 福祉サービスなどに関する情報提供, 基幹相談支援センター業務委託	35	35	0
3	障がい者福祉施設整備助成事業	一般		障がい者福祉施設整備に対する助成	93	93	0
4	介護給付等給付事業	一般		障がい者に対する居宅介護や生活介護, 施設入所支援などのサービス給付	3,152	3,350	0
5	訓練等給付事業	一般		障がい者の機能訓練, 生活訓練, 就労支援など	2,295	2,411	0
6-1	医療費給付事業 (重度心身)	一般		重度心身障がい者医療費給付	720	719	0
6-2	医療費給付事業 (中度身体障がい者)	一般		中度身体障がい者医療費給付	206	213	0
施策の計 (一般会計 6事業)					6,743	7,068	0

・ 介護給付等給付事業, 訓練等給付事業

利用者の増加に伴い、給付金額が計画額を上回ったため、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標 (成果指標) の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
障がい福祉サービス受給者数	↑	人	◎	
施設から地域への移行*	↑	人	◎	
施設から一般就労への移行	↑	人	◎	



* 国の目標値に合わせ、障害者施設からの地域移行者数としています。

・ **障がい福祉サービス受給者数／◎ 非常に順調に進捗**

障がい福祉サービス受給者は、上昇傾向に推移し、令和元年度で3,474人となり、令和元年度目標値を超えました。理由としては、サービスを提供する事業所が増えていることが要因と考えられます。

特にも、居宅介護の事業所は、平成30年度53事業所が元年度には61事業所となり、8事業所が増加したほか、生活介護事業所は、30年度17事業所が元年度には20事業所となり、3事業所が増加しています。

・ **施設から地域への移行／◎ 非常に順調に進捗**

地域での受け入れ先が増えたことにより、施設を退所し、グループホームやアパート・一般住宅等地域での生活へ移行する人は増加しています。一方、障がい者の高齢化・重度化により、施設入所支援のニーズはあり、身体障がい者施設の待機者(令和2年6月現在15人)がいる状況が続いています。

・ **施設から一般就労への移行／◎ 非常に順調に進捗**

障がい者雇用の法定雇用率は、平成30年度から、民間企業では2.0%から2.2%、国や地方公共団体では2.3%から2.5%と引き上げになったことが、一般就労への移行の底上げにつながった要因のひとつと考えられます。

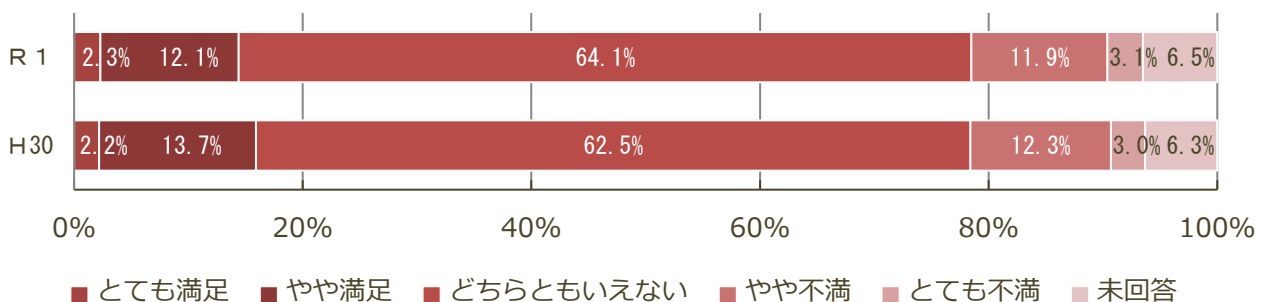
一方、福祉施設から一般就労への移行者数は9人減少しており、これは就労移行支援事業所で、指導時間が短い事例も散見されており、一般就労に必要な知識や能力が備わらなかった利用者がいたことなどが要因として考えられます。また、別の調査では年度内に2割が離職しているという結果もあり、就労を継続するための支援が必要となっています。

・ **管内事業所の障がい者雇用率／◎ 非常に順調に進捗**

ハローワーク盛岡管内の実雇用率は、平成30年度から0.08ポイント上昇し、令和元年度目標値を超えた状態を維持しています。これは、精神障がい者の雇用の伸びが大きいことと、受け入れ企業が増えていることによります。

■ **施策に対する市民の実感**

「障がい者が安心して暮らすことができるまちづくりや障がい福祉サービスが充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

障がい者への理解と交流の促進

（現状の成果，問題点）

障がい者スポーツ大会に参加する高校生等のボランティアが減少（平成30年度は118人，令和元年度は68人）しましたが，高校生を中心に障がい者との交流が行われました。

まちづくり評価アンケート調査「障がいや障がい者について知っている」と答えた市民の割合は40.7%となり，微減となっています。

（今後の方向性）

障がい者スポーツ大会や芸術文化祭などの催事を工夫するなどし，障がい者と市民との交流を進めます。

障がい者への理解を得られるように自立支援協議会を活用し，多方面から市民への周知活動を行います。

障がい者福祉サービスの充実

（現状の成果，問題点）

障がい福祉サービス利用者は増加しており，目標に到達してさらに増加傾向にあります。

就労継続支援A型事業所における利用者の生産活動が賃金を支払える水準に達していないため，市から事業所に支払われる報酬を利用者の賃金に充てている場合があります。

（今後の方向性）

障がい福祉サービスを利用者が適正に受けられるようにするため，指導監督を強化します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

障がい者がサービスを受ける環境や働く環境は，整備が進み良好に推移していますが，障害者差別解消法について，一般市民の理解が横ばい傾向にあることから，同法の周知を推進する必要があります。また，医療的ケアが必要な在宅の重症心身障がい児（者）等について，ライフステージにおける様々な相談への対応や日中活動等サービスについて，引き続き関係機関等との協議・調整を行い，体制整備を進めていく必要があります。

施策6 生活困窮者への支援

生活困窮者が自立し安定した暮らしができるように、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度などによる支援を推進します。

■ 主要事業の実績

生活保護受給者を対象とした就労支援事業において、ハローワークと連携した就職による経済的自立の実現、求職活動へのステップアップ、社会参加を促す職場体験といった対象者の状況に応じた支援を行いました。

平成27年度に開始した生活困窮者自立支援制度において、「盛岡市くらしの相談支援室」による自立相談支援事業のほか、就労準備支援事業、学習支援事業など、生活困窮者に対し「第2のセーフティネット」として、生活保護に至る前の段階から支援を行いました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	生活保護事業	一般		生活困窮者への生活扶助費、住宅扶助費、教育扶助費、医療扶助費などの支給	7,304	7,375	0
2	生活困窮者自立支援事業	一般		生活困窮者の就労、住宅確保、学習等の支援及び自立に関する相談支援など	66	64	0
3-1	医療費給付事業（ひとり親家庭）	一般		ひとり親家庭等医療費給付	140	145	0
3-2	医療費給付事業（寡婦・寡夫）	一般		寡婦・寡夫医療費給付	59	57	0
4	公営住宅整備事業	一般		青山三丁目アパート1号館の建設、青山三丁目既存アパートの解体、既存市営住宅の改修工事など	1,014	754	134
施策の計（一般会計 4事業）					8,582	8,395	134

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
生活保護受給世帯から自立した世帯の割合(死亡・移管・失踪などを除く)	↗	%	◎	
生活困窮者の自立支援相談の解決率*	→	%	◎	

* 平成27年度から新たに設定した指標です。生活困窮者自立支援法の施行(27年4月)に伴い実施する事業において実績を把握するため、当初値は表示していません。目標値については、類似事業の実績値を基に設定しています。

・ 生活保護受給世帯から自立した世帯の割合／◎ 非常に順調に進捗

勤労収入の増加による保護廃止は、就労支援事業による就職の実現、生活福祉第一・第二課に隣接した常設窓口「ハローワーク盛岡就労支援コーナー」の活用、経済情勢の好転による求人の増大などが要因と考えられます。

令和元年度において勤労収入の増加による保護廃止は、前年度の77件から91件に増えており、引き

取り扶養など他の自立要因による保護廃止も合わせて当初の目標値より高い割合を維持しています。

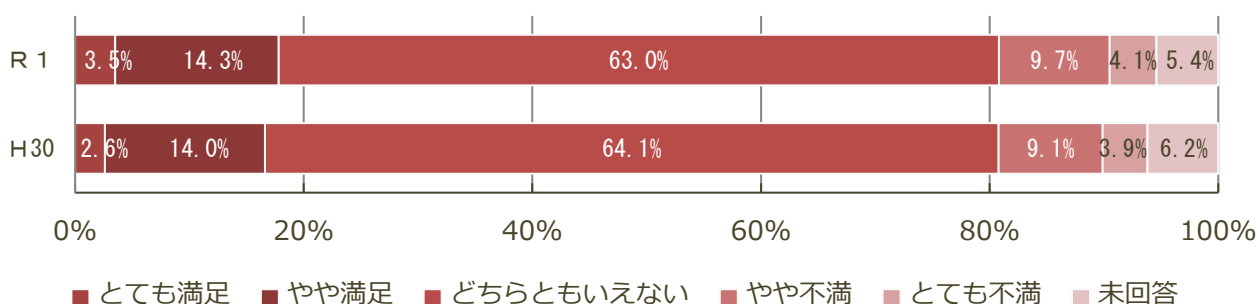
・ **生活困窮者の自立支援相談の解決率／◎ 非常に順調に進捗**

「盛岡市くらしの相談支援室」における自立支援相談の解決件数は、現年度、過年度分を合わせ628件であり、生活困窮者の抱えている課題を評価・分析した上で、ニーズに応じて計画的かつ継続的に丁寧な支援を行い、目標値を上回る解決率（当該年度の新規相談件数と過年度分の繰越件数の合計に対する当該年度の解決件数の割合）を維持しています。

学習支援事業においては、生活困窮世帯を対象とした学習会を開催していますが、参加者数が実人員で前年度の71人から99人と増加しており、貧困の連鎖の防止に一定の成果を上げています。令和元年度から学習会に参加する生徒のために、通年の無料送迎サービスを実施したことにより、参加者数を増加することができました。

■ **施策に対する市民の実感**

「生活保護や医療助成などの生活の自立を支援する取組が行われている」と感じる市民の割合



■ **現状の成果、問題点と今後の方向性**

生活困窮者の自立支援

（現状の成果、問題点）

生活困窮者自立支援制度で対応している相談者の解決率が、目標値を上回っています。一方で、相談者の抱える問題が複雑なものが多くなり、全体の支援件数が増加していることから、十分なアウトリーチが困難になっています。

（今後の方向性）

生活保護受給者を対象とした就労支援事業については、引き続きハローワークと連携して事業の充実を図ります。

生活困窮者自立支援制度に基づく各事業については、盛岡市生活困窮者自立支援庁内連携会議を構成する庁内関係課や関係機関との連携を密にし、支援の充実を図ります。また、生活困窮者のより多くの新規相談に対応し、支援の充実を図るため、令和元年度から実施している家計改善支援事業において、家計管理に課題を抱える世帯への働きかけを行い、利用者増に結び付けるとともに、自立相談支援の解決率を上げます。

学習支援事業については、参加者の増加や学習会会場の増設の声があることから、会場増設に向けた検討を行います。

「盛岡市くらしの相談支援室」にアウトリーチ支援員を令和2年度から配置し、就職氷河期世代への支援の一環として、ひきこもりに陥った方への支援を行います。

安定した生活の確保

（現状の成果、問題点）

老朽化した市営住宅が、建替えや改修工事の実施により、良質な住宅に改善されました。

老朽化等に伴い、入居募集できない空き住戸が年々増加傾向にあります。

（今後の方向性）

市営住宅長寿命化計画に則し、適切な改修工事を進めながら、募集戸数の増加を図ります。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

生活困窮者自立支援制度により、生活保護の対象にならない生活困窮者を救うための事業が実施され、働く意欲を促すなど実績を上げています。

その反面、家庭における解決しなければならない課題が多種多様で複雑なものが多い現状もあることから、生活困窮者支援の関係機関と庁内関係部局の連携の強化によるチーム支援により迅速かつ包括的な支援体制の構築に取り組んでいく必要があります。

施策7 人権尊重・男女共同参画の推進

お互いを理解しながら個人が尊重される社会を実現するため、人権尊重の精神と平和の尊さの意識啓発に取り組むとともに、男女が、均等に利益を享受し、責任も分かち合いながら、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画を推進します。

■ 主要事業の実績

原爆写真パネル展を市内3箇所で開催したことにより、多くの市民に戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、そして平和の尊さを啓発することができました。また、戦没者追悼式には211人の市民が参列し、恒久平和を願う機会とすることができました。

盛岡人権擁護委員協議会への事業補助金により、同協議会の円滑な運営が図られたほか、多くの市民に対し、各種人権啓発活動による人権擁護思想の普及や人権相談による人権擁護活動が行われました。また、盛岡・二戸・宮古地域人権啓発活動ネットワーク協議会盛岡部会が行う人権啓発活動や、盛岡人権擁護委員協議会が行う各種啓発活動に積極的に協力しました。

男女共同参画社会の実現のため、盛岡市男女共同参画推進条例を令和元年6月に制定するとともに、施策を総合的かつ計画的に推進するため、第3次盛岡市男女共同参画推進計画の策定に取り組みました。(令和2年7月策定)

男女共同参画の意識醸成や性の多様性についての関心と理解を深めるため、市民向け講座、イベント等の啓発事業及び市職員を対象とした研修を実施しました。

審議会等における女性委員の登用率向上のため市内に働きかけを行ったほか、女性活躍の取組が進むよう、先進的取組事例の紹介や講演会等を通じ、市内企業の取組支援を行うとともに、働く女性向けの人材育成セミナーや講座等を開催しました。

女性センターや子ども青少年課での女性相談等において、児童虐待とDVの各担当部署、関係機関及び盛岡広域市町と連携を図りながら、適切な助言や支援を行うとともにDV被害者の安全確保を図りました。また、市内窓口関係課を対象に職員研修を実施したほか、DV防止のための人権出前講座や啓発活動を行いました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度線越額
1	人権擁護事務	一般		人権の花運動、幼稚園・保育園での人権啓発事業、盛岡市人権擁護委員協議会活動補助	1	1	0
2	男女共同参画意識啓発事業	一般		男女共同参画意識を高めるために、情報紙「あの・なはん」の作成や男女共同参画に資する人材を育成するための講座の開催など	1	1	0
3	配偶者等暴力防止事業	一般		DV相談、指導及び被害を予防するための啓発など	4	4	0
施策の計(一般会計 3事業)					5	5	0

■ まちづくり指標(成果指標)の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
人権相談件数(女性センター女性相談、子ども青少年課女性相談、子ども家庭総合支援センター児童家庭相談)	→	件	◎	<p>14,000 12,000 10,000 8,000 6,000 4,000 2,000</p> <p>当初値 4,345 H27 5,807 H28 6,358 H29 6,046 H30 8,950 R1 10,862 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(4,350) R6目標値(4,350)</p>

・ 人権相談件数（女性センター女性相談，子ども青少年課女性相談，子ども家庭総合支援センター児童家庭相談）／◎ 非常に順調に進捗

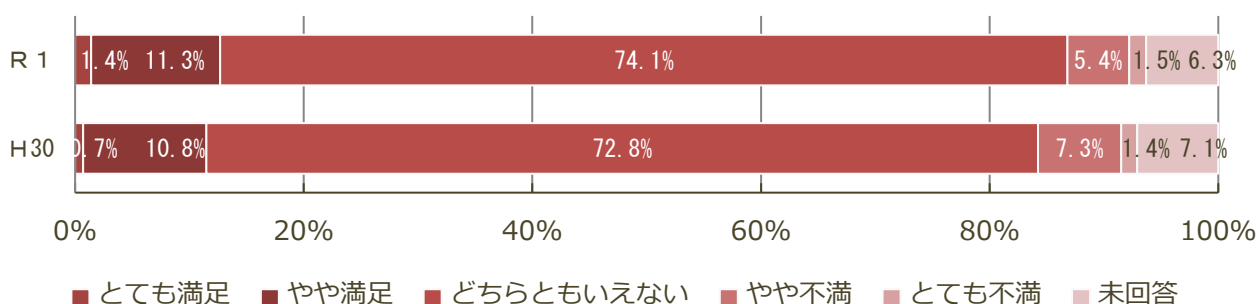
子ども家庭総合支援センターの開設（平成30年）や，女性相談窓口の周知啓発活動の継続により，相談件数は平成30年度以降高めに推移しています。

長期的には，「人権に関する困りごとそのもの」を減少させることを大きな目標としていますが，潜在的な相談需要の掘り起こしの観点から，今後も意識啓発（街頭キャンペーン）や広報による相談窓口の周知や相談体制の強化を進めることで，一定数の新規相談件数を保ちつつ，継続相談を解決に結びつけていくことが必要です。

また，相談の内容が，児童虐待や精神障がいなどが絡み複雑化・多様化する状況にあることから，引き続き，関係機関等と連携した支援が必要です。

■ 施策に対する市民の実感

「男女共同参画社会の推進や人権問題への取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

平和・人権啓発の推進

（現状の成果，問題点）

原爆写真パネル展や戦没者追悼式の開催により，多くの市民に戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ，平和の尊さなどを啓発することができましたが，終戦からすでに70年以上が経過し，戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさに対する理解が風化してしまうおそれがあります。

各種人権啓発活動や人権相談により，人権擁護思想の普及や市民の人権擁護・救済が図られ，指標の人権相談件数は増加していますが，まちづくり評価アンケートの「人権擁護委員がいることを知っている」と答えた市民の割合は低く，人権擁護委員の活動への認知があまり広がっていません。

（今後の方向性）

日本非核宣言自治体協議会から資料提供を受けることにより，次世代へ向けた非核平和の啓発を図ります。

人権擁護委員が行う各種啓発活動について，報道機関への情報提供や市の広報媒体を活用して積極的に周知を行うほか，人権擁護委員が行う人権相談事業について，市民が利用する商業施設等で開催するなど，人権擁護委員の認知度の向上を図ります。

男女共同参画の推進

（現状の成果，問題点）

男女共同参画への関心や理解が進んできているものの，性別等に関する固定的な役割分担意識や，価値観，慣習，無意識の偏見が依然として残っています。

審議会等の女性委員登用率向上のため，女性人材リストの活用を担当課に働きかけるなど，人材活用への機運の醸成が図られてきていますが，いまだに女性委員がいない審議会もあります。

女性が能力を発揮しやすい環境整備により，優秀な人材確保や企業イメージ向上など企業の成長に

繋がるという認識を持つ市内事業所が、徐々にではあるが増え始めています。

DV防止対策については、街頭キャンペーン等の啓発活動により、市民への意識啓発と相談につながっていますが、相談内容が児童虐待や精神障がい等が絡み、複雑化・多様化しています。

(今後の方向性)

男女共同参画や性の多様性への関心と理解を深めるため、啓発事業や情報提供など、意識醸成のための啓発活動に取り組みます。

女性人材リストへの新規登録のための情報収集を行うとともに、審議会等への女性委員登用に継続して取り組みます。

市内事業所における女性活躍推進の取組が進むよう、啓発や環境整備のための講演会等を通じ、事業所の取組支援を行います。

DV相談について、幅広い相談ニーズに対応するため、メール等を活用した相談に対応するとともに、適切な被害者支援と庁内連携の構築及び関係機関との連携を進めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

人権相談や非核平和の推進に係る各事業の認知度を向上させるためには、前例にとらわれず、SNSなどのツールを活用した周知を図るとともに、幅広い世代が関心を持つように、事業内容を工夫します。

また、盛岡市男女共同参画推進条例に基づき、男女共同参画の意識醸成を図るとともに、性の多様性への関心と理解を深めるための啓発及び女性活躍推進のための啓発事業を行います。また、DV相談の複雑化・多様化に対応するため、市配偶者暴力相談支援センターを中心に、国、県、関係機関及び盛岡広域市町とのさらなる連携を図り、適切な被害者支援に取り組みます。

施策8 安全・安心な暮らしの確保

市民の安全・安心な暮らしを確保するため、自然災害や火災、健康被害など、あらゆる危機に対し強いまちを目指し、防災や防犯対策、消防力の充実などに取り組みます。

■ 主要事業の実績

河川整備等による危険箇所の解消を進めるとともに、土砂災害警戒区域等の指定に伴い、土砂災害ハザードマップの作成・配布済み箇所が増えました。

防災訓練やシェイクアウト訓練などの実施により、防災意識の向上を図りました。また、自主防災組織の結成促進に取り組み、組織結成率が向上しました。

盛岡市職員の新採用職員を対象とした消防団体験入団の継続、学生消防団活動認証制度及び消防団員を優遇する店舗の登録事業の実施等により、消防団員の確保に努めました。また、町内会・自治会等の研修等の機会を捉えて救命講習の実施を働きかけ、救命講習の受講者数が増加しました。

交通安全教室の開催、交通指導員による朝夕の街頭指導等の実施により、人口1万人当たりの交通事故発生件数が減少するとともに、交通事故死者数も減少しました。

防犯ボランティア団体等への防犯パトロール用品の支給や防犯研修会の実施等、自主防犯活動の支援を継続するとともに、広報啓発活動等を実施し、人口1万人当たりの刑法犯認知件数が減少しました。

空き家等の所有者等を対象とした相談会の開催や指導・助言を行い、空き家等の周辺的生活環境が改善されました。

消費者被害の救済のための生活相談や積極的な啓発活動を実施し、消費者の安全安心や市民の権利が確保されました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	急傾斜地崩壊対策事業	一般		繋地区の対策工事及び山岸地区の用地測量	5	2	0
2	都市基盤河川改良事業	一般		一級河川南川の改修工事に係るJR東日本工事負担金	591	340	251
3	自主防災組織育成事業	一般		防災資機材等の交付、地域防災組織育成助成事業補助など	10	5	0
4	危機管理防災事業	一般		危機管理及び防災体制の構築・推進、危機管理指針の運用	29	27	0
5	防災施設整備事業	一般		避難場所標識整備、防災ラジオ及び避難所備蓄品(アルファ化米、生理用品)の購入など	217	214	27
6	盛岡地区広域消防組合負担金事務	一般		消防署等の運営、消防施設整備など	3,774	3,718	0
7	消防団管理事務	一般		消防団員報酬、出動手当、消防団装備購入など	198	187	0
8	消防施設整備事業	一般		消防ポンプ自動車・小型動力ポンプ付積載車の更新、消防屯所の地質調査・設計など	107	99	0
9	交通安全教育事業	一般		交通安全教室の開催	10	10	0
10	交通指導員活動事業	一般		交通指導員活動(行事、登下校時等における街頭指導)	44	43	0
11	防犯活動事業	一般		市防犯協会事業費助成、防犯活動支援	6	6	0
12	空き家等対策推進事業	一般		空き家等の相談受付、現地確認、周辺環境に悪影響を及ぼしている空き家等の所有者に対する適正管理に係る助言、空き家バンク物件購入者への改修費補助	11	8	0
13	消費者行政推進事業	一般		消費生活相談、多重債務者対策、食品に係る放射性物質の検査など	36	34	0
施策の計(一般会計 13事業)					5,040	4,694	278

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																					
まちづくり評価アンケート調査「避難場所を知っている」と答えた市民の割合	↗	%	◎	<table border="1"> <caption>避難場所を知っている市民の割合</caption> <tr><th>時期</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>69.0</td><td>72.7</td><td>76.2</td><td>76.2</td><td>80.6</td><td>80.7</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R1目標値(75.0)</td><td>R6目標値(80.0)</td></tr> </table>	時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	値	69.0	72.7	76.2	76.2	80.6	80.7	目標値					R1目標値(75.0)	R6目標値(80.0)
時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1																			
値	69.0	72.7	76.2	76.2	80.6	80.7																			
目標値					R1目標値(75.0)	R6目標値(80.0)																			
まちづくり評価アンケート調査「防災対策をしている」と答えた市民の割合	↗	%	△	<table border="1"> <caption>防災対策をしている市民の割合</caption> <tr><th>時期</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>60.7</td><td>57.9</td><td>62.1</td><td>54.4</td><td>42.0</td><td>42.8</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R1目標値(70.0) R6目標値(80.0)</td></tr> </table>	時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	値	60.7	57.9	62.1	54.4	42.0	42.8	目標値						R1目標値(70.0) R6目標値(80.0)
時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1																			
値	60.7	57.9	62.1	54.4	42.0	42.8																			
目標値						R1目標値(70.0) R6目標値(80.0)																			
人口1万人当たりの火災発生件数	→	件	◎	<table border="1"> <caption>人口1万人当たりの火災発生件数</caption> <tr><th>時期</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>1.7</td><td>1.6</td><td>1.5</td><td>1.4</td><td>1.2</td><td>1.4</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R1目標値(1.7) R6目標値(1.7)</td></tr> </table>	時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	値	1.7	1.6	1.5	1.4	1.2	1.4	目標値						R1目標値(1.7) R6目標値(1.7)
時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1																			
値	1.7	1.6	1.5	1.4	1.2	1.4																			
目標値						R1目標値(1.7) R6目標値(1.7)																			
人口1万人当たりの刑法犯発生件数	→	件	◎	<table border="1"> <caption>人口1万人当たりの刑法犯発生件数</caption> <tr><th>時期</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>68.4</td><td>57.6</td><td>51.2</td><td>43.6</td><td>41.5</td><td>34.6</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R1目標値(68.4) R6目標値(68.4)</td></tr> </table>	時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	値	68.4	57.6	51.2	43.6	41.5	34.6	目標値						R1目標値(68.4) R6目標値(68.4)
時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1																			
値	68.4	57.6	51.2	43.6	41.5	34.6																			
目標値						R1目標値(68.4) R6目標値(68.4)																			
不適正な管理状態にある空き家等の相談件数	↗	件	◎	<table border="1"> <caption>不適正な管理状態にある空き家等の相談件数</caption> <tr><th>時期</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>60</td><td>178</td><td>140</td><td>122</td><td>102</td><td>128</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R1目標値(85) R6目標値(85)</td></tr> </table>	時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	値	60	178	140	122	102	128	目標値						R1目標値(85) R6目標値(85)
時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1																			
値	60	178	140	122	102	128																			
目標値						R1目標値(85) R6目標値(85)																			
消費生活相談の解決率（解決した件数／消費生活相談件数）	↗	%	○	<table border="1"> <caption>消費生活相談の解決率</caption> <tr><th>時期</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>98.5</td><td>98.8</td><td>98.9</td><td>98.4</td><td>98.5</td><td>98.5</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R1目標値(99.0) R6目標値(99.0)</td></tr> </table>	時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	値	98.5	98.8	98.9	98.4	98.5	98.5	目標値						R1目標値(99.0) R6目標値(99.0)
時期	当初値	H27	H28	H29	H30	R1																			
値	98.5	98.8	98.9	98.4	98.5	98.5																			
目標値						R1目標値(99.0) R6目標値(99.0)																			

・ 「避難場所を知っている」と答えた市民の割合／◎ 非常に順調に進捗

平成30年度に全戸配布した「防災マップ」の浸透，町内会等を対象とした防災講座の実施，自主防災組織等を中心とする地域での防災・減災への取組の普及，避難場所等掲示板の設置などにより，避難場所の周知が図られたものと考えられます。

・ 「防災対策をしている」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

市民が取り組める具体的な防災対策の浸透が不十分なこと，東日本大震災からの時間経過による防災意識の低下などが考えられます。

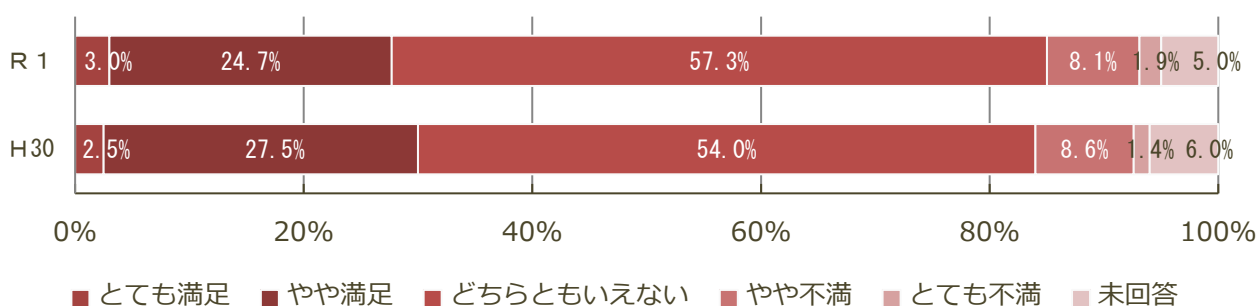
・ 人口1万人当たりの火災発生件数／◎ 非常に順調に進捗

消防署や消防団の車両による山火事防止パトロールや火災予防広報活動のほか，火災が発生するおそれがある場合に依頼する集客施設での店内放送を活用した火災予防広報，火災予防運動などの期間に消防署，消防団，婦人防火クラブ及び婦人消防協力隊が集中的に行う一般家庭の防火点検などの活動が，火災件数減少の効果を現しているものと考えられます。

- ・ 人口1万人当たりの刑法犯発生件数／◎ 非常に順調に進捗
自主防犯活動の継続的な支援により、地域における自発的な防犯活動が根付いてきたことが、刑法犯発生件数の減少に繋がっているものと考えられます。
- ・ 不適正な管理状態にある空き家等の相談件数／◎ 非常に順調に進捗
市からの指導、助言等のほか、空き家等の所有者を対象とした相続、活用に関する相談会の開催などにより、空き家等が改善されたことで、一時的に相談件数は減少してきています。
令和元年度は町内会等との意見交換会を実施し、空き家の適正管理に関する市の取組を広く周知したことから、相談件数が増加したものと考えられます。
- ・ 消費生活相談の解決率（解決した件数／消費生活相談件数）／○ 順調に進捗
消費生活相談の解決率は、令和元年度目標値を下回っているものの、概ね目標値で推移しており、出前講座の実施などの積極的な啓発活動が、消費者の自立につながってきているものと考えられます。

■ 施策に対する市民の実感

「安全・安心な暮らしを確保するための防災対策や防犯、交通安全、消費者相談などの取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

危険箇所の解消

（現状の成果、問題点）

準用河川や南川の整備は少しずつ進んでいます。

県が進める急傾斜地崩壊対策事業の進捗が図られました。また、土砂災害ハザードマップの作成及び配布が44箇所増加しましたが、土砂災害ハザードマップの作成の前提となる土砂災害警戒区域等の指定について、地元への説明に時間を要しています。

（今後の方向性）

準用河川については、河川状況を把握の上、予算配分や施工方法を検討して、効率的な事業の進捗を図ります。一級河川については、引き続き国及び県に対して要望及び調整を行い、予算を確保します。急傾斜地崩壊対策事業及び土砂災害警戒区域等の指定では、進捗が図られるよう、県に協力していきます。

地域防災力の強化

（現状の成果、問題点）

防災マップの浸透や町内会等を対象とした防災講座の実施などにより、避難場所の周知は十分に図られてきていますが、防災対策をしている市民の割合が目標値に達しておらず、防災対策への意識の低下が見受けられます。

（今後の方向性）

市民参加型の防災訓練やシェイクアウト訓練、土砂災害訓練などの継続実施及び内容充実を図るとともに、自主防災組織の結成促進や活動強化により、防災対策の啓発や防災意識の向上を図ります。

消防・救急の充実

(現状の成果, 問題点)

航空支援隊（ドローン）の編成等消防団の装備の充実や処遇の改善を進めていますが、全国的な傾向である消防団員の減少が続いています。

準市街地での防火水槽の設置が進まず、大規模災害時に上水道が断水した場合の火災への対応が心配されます。

(今後の方向性)

令和2年度は救助用ゴムボートを配備し消防団の装備の充実を進めるとともに、市新採用職員の消防団体験入団の継続、学生消防団活動認証制度の周知、消防団員を優遇する店舗の登録事業の促進等により、消防団員の確保を図ります。

消防水利の整備について、引き続き協議を行うとともに、救命講習については、インターネットを通じて応急手当の基礎的知識を学ぶeラーニングの周知宣伝などにより、受講者数の増加を図ります。

交通安全の推進

(現状の成果, 問題点)

交通安全教室の開催による交通安全知識の普及や街頭指導の事故防止活動により、交通事故発生件数は減少傾向にあり、交通事故死亡者数も減少しています。

高齢化の進展により、高齢の歩行者や運転免許保有者が増加し、高齢者が関係する交通事故の割合が増加しています。

(今後の方向性)

高齢者の交通安全啓発について、高齢の歩行者に加え、高齢車両運転者に対する啓発活動を警察等交通安全関係団体と連携し実施します。

病院など高齢者が利用する施設において交通安全啓発活動を実施します。

防犯対策の推進

(現状の成果, 問題点)

防犯ボランティア団体等への防犯パトロール用品の支給や研修会の実施などの支援、防犯協会や警察、町内会など関係機関との顔の見える取組が根付いてきたことが、刑法犯認知件数の減少に繋がっていると考えられますが、子供に対する声かけ事案については増加傾向が見られました。

(今後の方向性)

防犯パトロールに対する支援を継続するほか、防犯パトロールだけでは不十分な場所をカバーするため、地域防犯カメラを設置する町内会等への支援を行い、犯罪の抑止を図ります。

空き家等対策の推進

(現状の成果, 問題点)

適正に管理されていない空き家等について、空き家等の所有者に対して指導や助言を行い、周辺的生活環境の改善を行いました。

問題がある空き家等の中には、管理方法が分からない、相談相手がない等の理由により所有者の対応が遅れるケースがあります。

(今後の方向性)

適正に管理されていない空き家等の所有者に対して、更なる指導、助言を行います。

家財道具の整理や相続手続等に関する講座を開催します。

必要に応じて、応急措置や代執行を行います。

消費者の自立支援

（現状の成果，問題点）

市民の消費生活の自立に貢献し，消費者の安全安心や市民の権利が確保されましたが，消費者をめぐる社会状況に応じた（成人年齢引下げに伴う，若年層への啓発など）消費者教育の啓発を推進する必要があります。

（今後の方向性）

若年層向けの啓発については，令和元年度に作成した啓発チラシを各学校に配布して，出前講座の周知を図るとともに，新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえて，新たな啓発手法等についても教育委員会と協議して検討していくものとします。そのほかの世代に向けた啓発についても，新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて，啓発手法を検討します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

全国各地で発生する大規模災害を始め，生活の身近なところで発生する火災や交通事故，刑法犯罪，消費生活被害など，あらゆる事案から市民の安全・安心な暮らしを確保するため，引き続き，市と関係機関や組織団体，市民が連携して取り組んでいく必要があります。

施策9 地域コミュニティの維持・活性化

地域コミュニティがこれまで担ってきた多岐にわたる役割を維持し、活動を活性化するため、地縁又は目的を共にする団体などへの支援に取り組みます。

■ 主要事業の実績

町内会の負担軽減を目的に実施した町内会・自治会協働推進奨励金制度の浸透に取り組みました。

町内会の所有・管理する街路灯のリース契約を締結し、維持管理を行いました。

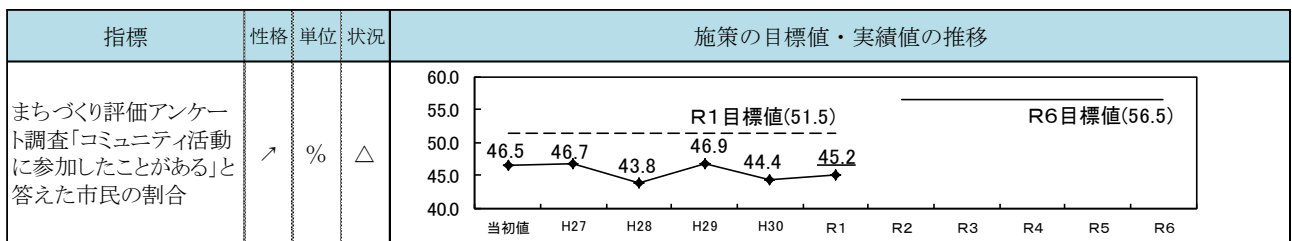
コミュニティ推進地区組織の活動促進に向けて、コミュニティリーダー研修会など地域課題の解決につながる情報提供等を行いました。

地域担当職員制度の周知を進め、出席する地域の会議等の範囲を拡大し、地域からの相談・要望の取次の件数を増やしました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	地区行政事務	一般		町内会, 自治会活動に対する協働推進奨励金交付など	78	78	0
2	コミュニティ推進事業	一般		30のコミュニティ推進地区に対する活動費助成, 相談受付及び情報提供など	28	23	0
3	公衆街路灯関連事業	一般		町内会などに対する公衆街路灯のLEDリース料, 電気料及び設置費補助	94	91	0
4	地域協働推進事業	一般		地域づくり計画に基づく事業に対して事業費を補助	14	12	0
施策の計 (一般会計 4事業)					214	204	0

■ まちづくり指標 (成果指標) の状況



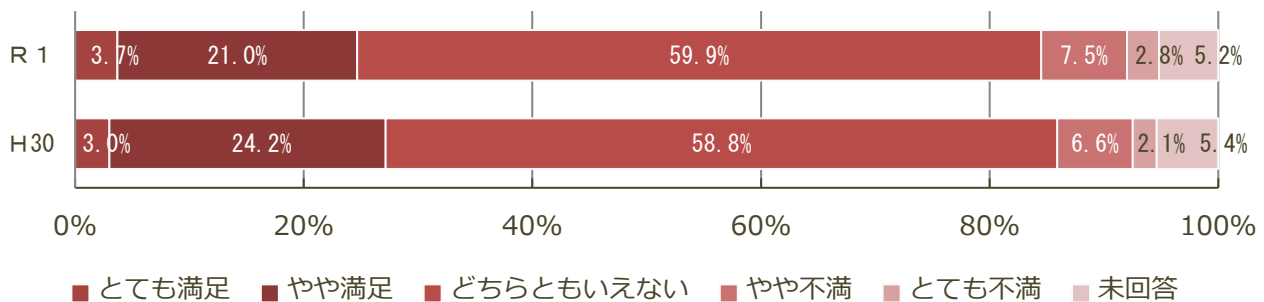
- 「この1年間に地域のコミュニティ活動に参加したことがある」と答えた市民の割合
 /△ 遅れが生じている

令和元年度まちづくり評価アンケートにおける「コミュニティ活動に参加した市民の割合」は45.2%となり、当初値(平成25年度)から毎年横ばいで推移しています。

別の調査では、地域活動への参加について「日程が合わない」、「忙しい」などの理由から参加を見送っている方が多いという結論であり、今後、参加を促す環境づくりを町内会・自治会等と共に取り組む必要があることから、盛岡市町内会・自治会協働推進計画及び盛岡市地域協働推進計画の見直しの中で検討します。

■ 施策に対する市民の実感

「町内会などの地域活動を支援する取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

コミュニティ活動の支援

（現状の成果、問題点）

盛岡市町内会・自治会協働推進奨励金制度について、制度実施4年目を迎え、町内会・自治会の制度に対する理解が進みました。

町内会等で世帯数が少ないなどの理由から、活動が低調な町内会等の活動促進が課題です。

コミュニティリーダー研修会について、参加者アンケートの結果が好評でした。

講座等の開催がコミュニティリーダー研修会のみであったため、市民参加の機会につながるよう講座等を増やす必要があります。

（今後の方向性）

盛岡市町内会・自治会協働推進奨励金制度の周知を通して、個別に町内会活動への助言を行います。

また、内容について、検証及び関係課協議等を行い、見直しを検討します。

人材養成講座の内容について、地域活動に参加している市民のニーズに合わせたものにします。また、開催について、市民が参加しやすいような時期・場所の選定に努めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

社会の多様化などにより地域活動の担い手不足や硬直化が進み、地域活動を維持することが難しくなっている中、これまで担ってきた団体へ持続的な活動を支援するとともに、地域や社会の実相やその環境を把握し、NPOや企業などを含めた地域協働のあり方や地域活動の活性化に繋がるような施策について、町内会・自治会協働推進計画及び地域協働推進計画の見直しの中で検討します。

施策10 生活環境の保全

大気汚染、水質汚濁、騒音などの監視の継続や廃棄物の適正処理などを図り、良好で快適な生活環境の保全に取り組みます。

■ 主要事業の実績

廃棄物処理施設の老朽化の進行に対応した設備改修及び維持管理により、廃棄物の適正処理に努めました。

盛岡地域を9地区に分割して収集を業者に委託し、速やかな収集に努め、街の衛生環境の確保に努めました。

各一部事務組合に負担金を支出したほか、各組合と連携を取りながら廃棄物（し尿を含む。）の適正処理に努めました。

不法投棄やタバコなどのポイ捨てに対して、監視やモラル向上への周知、啓発に取り組みました。

環境負荷を低減させ良好な生活環境を保つため、大気、水質、騒音、振動などの監視、事業所への指導を行いました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	クリーンセンター設備改修事業	一般		焼却施設改修工事などの施設整備	286	265	0
2	公害防止対策事業	一般		大気、水質、騒音、振動などの測定、監視	23	23	0
施策の計（一般会計 2事業）					310	287	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「清潔で衛生的、公害がないといった点で、きれいなまちだと思う」と答えた市民の割合	↑	%	◎	
焼却処理施設での年間処理量*	↓	t	◎	

* 盛岡市一般廃棄物処理基本計画の改訂にあわせ、平成28年度に目標値を変更しています。

- ・ 「清潔で衛生的、公害がないといった点で、きれいなまちだと思う」と答えた市民の割合
 /◎ 非常に順調に進捗

「環境衛生の確保」と「公害の防止」という観点で上記取組を行い、焼却処理施設での年間処理量のように「処理量の減少」が達成されつつある分野もありながら、アンケート結果としては平成27年度に目標値を達成後、翌年から減少に転じていました。令和元年度は実施している事務事業に大きな変化はないところですが、目標達成に転じています。

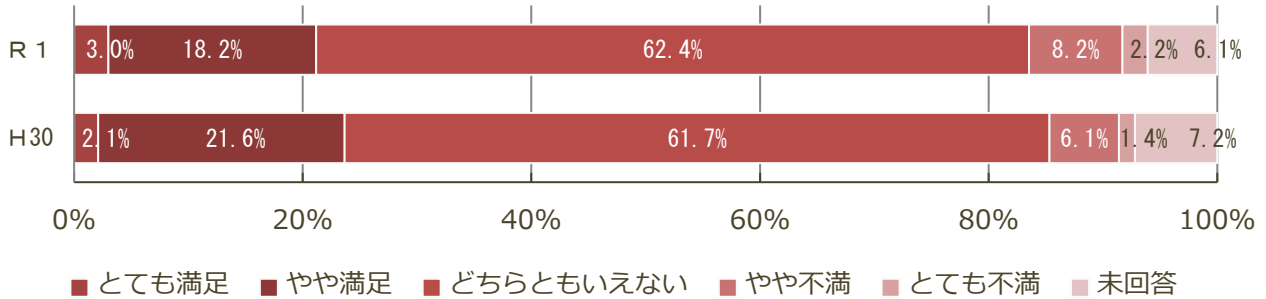
市民の認識が現れる指標であり、認識への影響が大きいと思われる取組などについて、盛岡市環境部のサイト「ecoもりおか」のコンテンツの充実や更新頻度を増やすことで、情報提供に努めているところですが、さらなる情報提供の仕方を含めた対応方法の検討が必要です。

・ 焼却処理施設での年間処理量／◎ 非常に順調に進捗

ごみ減量及び資源化に向けた各種取組により、焼却処理されるごみが減少し、令和元年度の目標を達成しました。今後も重点的に取組を推進します。

■ 施策に対する市民の実感

「身近な生活環境が保全されている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

環境衛生の確保

(現状の成果、問題点)

市クリーンセンターは、施設稼働開始から22年が経過し老朽化が進行しており、適正処理継続のために計画的な設備改修が必要です。資源ごみ処理施設及び粗大ごみ処理施設についても老朽化が進んでおり、安定的な処理の継続には計画的な設備改修が必要です。

(今後の方向性)

市クリーンセンターの設備改修事業は、現在、総合計画実施計画における主要事業に位置付けられており、県央ブロックごみ・し尿処理広域化基本構想の進捗を見据え、改修費用の抑制と財源の確保に努め、引き続き計画的に実施します。

資源ごみ処理施設及び粗大ごみ処理施設については、個別施設計画の策定を通じ、施設の更新の方向性について検討を行います。

公害の防止

(現状の成果、問題点)

大気及び水質については概ね良好な状況にありますが、一部環境基準の超過(光化学オキシダント、BOD、大腸菌群数)が見られるとともに、騒音についても道路に面する地域で環境基準の超過が見られます。

(今後の方向性)

大気、水質、騒音等その他の環境項目について環境測定を継続するとともに、環境基準超過については原因の分析や、県や他の中核市等の取組状況の把握を継続して行います。

環境基準超過の改善に向けては、事業者の指導や市民への周知を継続して行います。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

大気、水質等について、環境基準適合率は概ね良好ですが、監視指導を継続するとともに、効果的な環境教育、環境啓発に取り組みます。

可燃ごみの午前中収集の実施により、集積場所周辺の良い環境維持に寄与していると考えられます。今後も、適正排出、適正処理することにより、快適な生活環境の保全に努めます。

基本目標2 盛岡の魅力があふれるまちづくり

施策11 歴史・文化の継承

地域に受け継がれている歴史や文化に誇りを持ち、次世代に伝えていくため、文化財の保護に取り組むとともに、市民が歴史や文化に理解を深め、身近に感じることができるよう、文化財の幅広い活用を図ります。

■ 主要事業の実績

文化財の保護と活用については、文化財の指定により保護を行い、青少年郷土芸能フェスティバル等の開催を支援し、活用を図り、無形民俗文化財保持団体の一部では後継者が増加しました。また、埋蔵文化財については、適切な調査・記録と保存・展示を行いました。

博物館等施設の整備・充実については、各館とも事業の企画や案内周知に積極的に取り組み、9施設中、6施設で入館者が前年度より増加しました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	盛岡城跡保存整備事業	一般		石垣変位調査, 石垣基礎調査など	7	5	0
2	志波城跡保存整備事業	一般		史跡整備, 復元建物の補強など	1	0	0
3	遺跡の広場整備事業	一般	★	遺跡環境保全, 整備	1	1	0
4	玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館整備事業	一般	★	改訂版基本計画策定の準備	5	5	0
施策の計 (一般会計 4事業)					12	10	0

・ 志波城跡保存整備事業

建物復元の補強を事務局で実施したため、施設修繕費が発生しなかったことや、緊急性のある史跡整備、史跡現状変更等に係る文化庁協議の案件も発生しなかったことにより、事業費が皆減しました。

■ まちづくり指標 (成果指標) の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
文化財数(国・県・市指定)	↑	件	○	<p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(276) R6目標値(281)</p>
まちづくり評価アンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合	↑	%	○	<p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(61.8) R6目標値(65.0)</p>

・ 文化財数 (国・県・市指定) / ○ 順調に進捗

指定の文化財は、前年度に比べ増減はありませんでした。既に指定となっている文化財等は存続できました。

・ 「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合減少／○ 順調に進捗

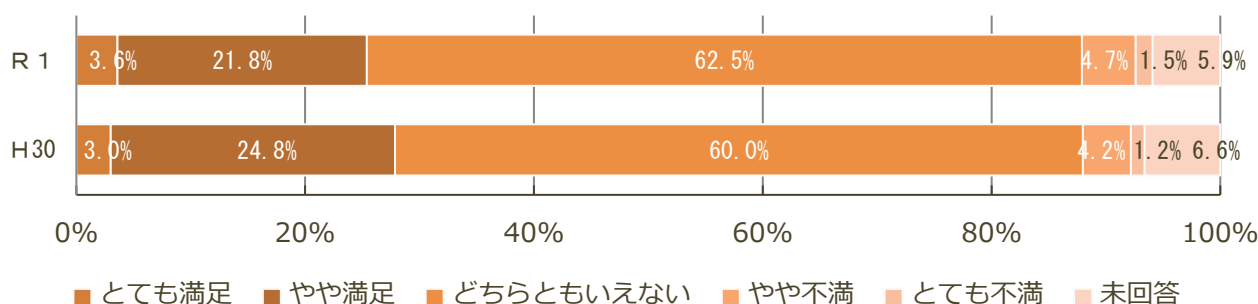
まちづくりアンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合が、1.6%減少しました。

平成30年度に、国は明治・戊辰150年記念事業を推進し、大々的な情報発信が行われ、博物館施設等では関連事業を計画し推進したことで、市民の歴史への関心が高まり、同年度の実績値が増加しました。令和元年度は、市民に歴史・文化財を活用した事業や学習機会を提供しましたが、前年度の国の記念事業の関連事業の終了が背景にあり、実績値が減少したものと考えます。

今後、成果を向上させるためには、情報発信の方法を工夫するほか、市民のニーズをどう捉えて事業の企画に反映させていくかが目標達成に向けた課題と考えます。

■ 施策に対する市民の実感

「文化財の保護や活用が図られている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

文化財の保護と活用

(現状の成果、問題点)

文化財の指定候補案件の調査を進めたほか、補助金の支援等により文化財の保護が図られました。

有形文化財等において、周辺の環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなっているものがあります。

無形民俗文化財は、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、民俗芸能保持団体の特性に応じた対策が必要となっています。

埋蔵文化財の出土資料は増え続け、従来の施設には収まりきれず、仮設の施設にも仮置きしている状況です。

(今後の方向性)

文化財等の保存・修繕のため、必要に応じて、町内会等地元住民への協力要請を行います。

盛岡市歴史的風致維持向上計画等に基づき、補助制度を活用しながら、文化財の保護と活用に取り組みます。

民俗芸能保持団体の後継者不足について、盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と連携しながら支援策を講じます。また、地域における行事等を捉えて、発表の機会を確保し、民俗芸能の周知を図ります。

埋蔵文化財発掘の出土資料を、活用頻度等により再配置を行うとともに、空き教室等を利用するなど、収蔵場所の確保を図ります。

未指定の文化財も含め、文化財をまちづくりに生かしつつ、地域社会との協働でその承継に取り組む必要があるため、文化財保存活用地域計画を策定します。

博物館等施設の整備・充実

（現状の成果，問題点）

令和元年度は即位の礼など時事に合わせた展示や子供向けの講座などのイベントを工夫し，9施設のうち6施設の入館者が増加しました。

各施設とも施設・設備の老朽化が進み，修繕が必要な箇所が増え，来館者の受入れ環境が改善できない箇所があります。

入館者からは，魅力的でわかりやすい展示説明等をはじめ，使いやすい快適な施設環境の維持・整備が求められています。

（今後の方向性）

各種企画展をはじめ，魅力的で話題性を捉えたイベントの開催のほか，各施設の情報案内・広報の強化を図るとともに，施設外へ出向く「出前講座」の充実に取り組みます。

学校や他団体のイベント等と連携するなど，機会を捉えて幅広くPRを行い，利用促進を図ります。

玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館の複合施設の整備を進めます。

施設や設備の修繕については，優先順位を検討し，計画的に対応していきます。

文化財保存活用地域計画において，博物館等施設における歴史資料の保存・活用のあり方を検討します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

地域に受け継がれている歴史や文化に親しむこと，そして，それを次世代に継承することは，地域づくりにとって大切なことですが，市民の関心はあまり高まっていないと捉えています。企画展や各イベントについて，更に創意工夫，改善し，意識啓発を図ります。

また，博物館等施設については，市民が関心を持ち訪れてみたいと思うような魅力的な施設であり続けるよう，計画的に施設の修繕・改修・整備を行います。

今後も，市民が地域の歴史や文化に興味を持ち，文化財の大切さを意識させ，施設の来館者の増加にもつながるよう，ソフト・ハード両面から，施策展開に努めます。

施策12 芸術文化の振興

誰もが芸術文化に親しみ、豊かな生活が送れるように、優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民の自主的、創造的な芸術文化活動を支援します。

■ 主要事業の実績

市民にとって芸術文化をより身近なものとすることを目指し、盛岡市芸術文化推進指針に基づき、盛岡市芸術文化推進計画を策定し、市の芸術文化振興の基本的な方向性を具体的な取組内容としてまとめました。

盛岡の魅力を再発見する取組として、令和元年8月に第1回盛岡国際俳句大会を開催し、国内外に向けた魅力発信に努めました。

盛岡芸術協会が主催する盛岡芸術祭を共催し、市民の優れた芸術文化活動の成果を発表する機会と広く市民に鑑賞の機会を提供するための支援を行いました。

文化振興事業団と連携し、鑑賞機会や芸術文化体験の充実に努めたほか、文化施設利用者へのサービス向上のため、施設の修繕及び舞台照明設備の更新を行いました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	芸術文化活動振興事業	一般	★	芸術団体などが行う芸術文化活動の振興	12	12	0
2	文化会館活動事業	一般	★	パイプオルガン・演劇・合唱等関連講座の開催、舞台公演・美術展など芸術鑑賞機会の提供、情報誌の発行	25	25	0
施策の計（一般会計 2事業）					38	37	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合	↑	%	○	

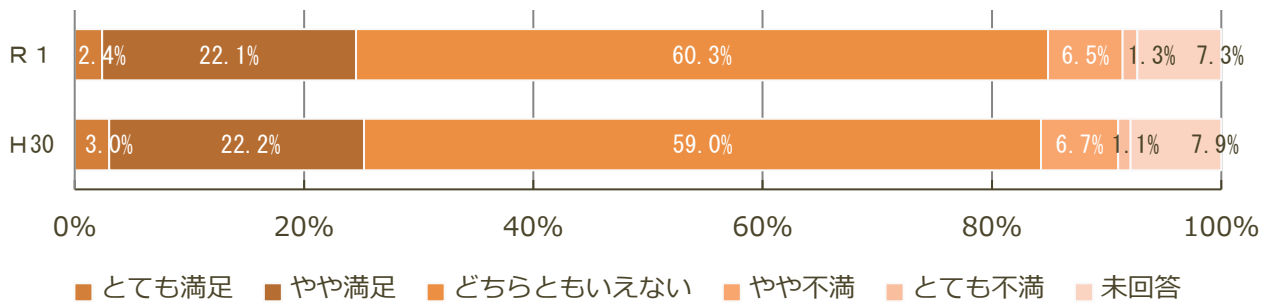
・ 「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合／○ 順調に進捗

まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合は微増であり、芸術文化を身近に感じ親しむ市民が増加傾向にあります。

芸術文化推進計画の初年度にあたる令和元年度は、盛岡市芸術文化創造都市宣言を行い、新しく策定した計画を広報等により広く周知したほか、第1回盛岡国際俳句大会を開催し、市民に対し盛岡市を芸術文化が生きる魅力あるまちとしてアピールすることができました。

■ 施策に対する市民の実感

「芸術文化に親しむ機会が身近にある」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

芸術・文化活動の充実

（現状の成果、問題点）

盛岡芸術協会をはじめ、芸術活動団体が主催する催しに共催・後援するなどして活動支援の充実を図ることができました。

芸術文化団体の活動支援については団体によってニーズが多様であることから、内容を適切に把握し、社会情勢を踏まえた上で支援策を講じる必要があります。

より多くの市民に広く芸術文化に親しんでもらうため、限られた市民や団体だけでなく誰もが気軽に芸術文化に触れ体験できる取組を充実する必要があります。

（今後の方向性）

指定管理者や芸術文化関係団体との意見交換を踏まえて策定した盛岡市芸術文化推進計画について、適切に関係団体等のニーズを把握しながら、着実に計画を推進します。

特に、芸術文化ポータルサイトを先行して構築し、芸術文化イベント及び各種助成事業等の情報提供に努め、芸術文化に興味のある方々の連携を支援します。また、個人や団体の活動を配信することによる発表・鑑賞機会の創出を支援します。

文化施設の整備と活用

（現状の成果、問題点）

施設の老朽化に伴い、安全・快適で機能的な活動環境を提供するため、適正な管理運営と計画的な施設設備の修繕や更新に努める必要があります。

（今後の方向性）

市民の自主的・創造的な芸術文化活動を支える既存の施設や付帯設備については、引き続き計画的・効率的な修繕が必要であることから、盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化計画に基づいた修繕を進めるとともに、舞台装置等についても計画的な修繕を進めます。

また、ふるさと納税など民間資金の活用により、修繕に必要な財源の確保に努めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

令和元年度は、盛岡市芸術文化創造都市宣言を行い、新しく策定した盛岡市芸術文化推進計画を広報等により広く周知したほか、第1回盛岡国際俳句大会の開催により、市民に対し盛岡市を芸術文化が生きる魅力あるまちとしてアピールすることができ、その結果、芸術文化を身近に感じ親しむと回答した市民の割合も増加したものと考えられます。今後においても、市民が喜びや感動、心の潤いや安らぎを享受しながら暮らすことができる環境の構築に向けて、活動団体の有機的なつながりの支援を行うとともに、老朽化した施設の更新を計画的に進めるなど、芸術文化活動への積極的な支援を進めます。

施策13 スポーツの推進

誰もがスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるように、スポーツをする環境やスポーツを支える環境づくりを進めるとともに、スポーツを通じたまちの魅力の創出などに取り組めます。

■ 主要事業の実績

全ての市民がスポーツに参画する機会の提供を目指し、(公財)盛岡市スポーツ協会を中心とした各種競技団体やスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等と連携し各種事業に継続的に取り組むとともに、第1回のいわて盛岡シティマラソンを開催しました。

市民が継続してスポーツを楽しめるよう、老朽化した施設の大規模改修を計画的に行い、利用者の利用環境の向上を図りました。

東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業としてラグビーカナダ女子セブンズの合宿を受入れ、日本代表候補との合同合宿やエキシビジョンマッチを行うとともに、ラグビーワールドカップ2019™におけるナミビアの公認チームキャンプの受入れを行いました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	生涯スポーツ推進事業	一般	★	指導者養成, スポーツ教室開催, 体育団体育成, 学校体育施設開放事業, スポーツ大会開催支援, スポーツ・パル事業など	84	91	0
2	都南東部体育館(仮称)整備事業	一般		用地取得予定地の不動産鑑定評価	46	0	0
3	盛岡南公園野球場(仮称)整備事業	一般		民間活力導入に係るアドバイザー業務委託	24	23	0
4	盛岡広域連携スポーツツーリズム推進事業	一般		スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致, ホストタウン周知啓発, ラグビーワールドカップ2019公認キャンプの受入れ	40	35	0
施策の計(一般会計 4事業)					194	148	0

・ 都南東部体育館(仮称)整備事業

建設予定地について、隣接地との境界確認が未完のままとなっており、用地取得に至らなかったことから、実績額が皆減となりました。

■ まちづくり指標(成果指標)の状況

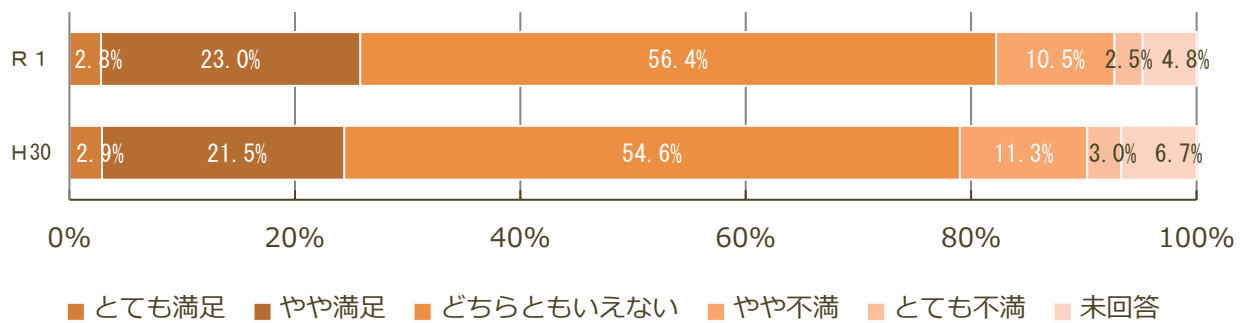
指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合	↑	%	△	<p>当初値 31.1 H27 28.9 H28 27.3 H29 31.4 H30 45.3 R1 44.6 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(56.0) R6目標値(71.0)</p>

・ 「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合/△遅れが生じている

「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合は、平成29年度、30年度と増加傾向にありましたが、令和元年度において若干低下しています。29年度から割合が増加しているのは、スポーツの範囲が競技スポーツだけではなく健康づくりのために行うウォーキング(散歩等を含む)やラジオ体操等の運動も含む旨アンケートの項目を分かりやすく表記したことで、これまで判断を迷っていた方々を取り込むことができたためですが、元年度においては割合が増加しませんでした。今後においては、健康づくりの習慣化としてのスポーツが行われている割合が把握できるような調査項目とする必要があると考えます。

■ 施策に対する市民の実感

「スポーツ・レクリエーションを楽しむ機会の確保や施設の整備が整っている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進

（現状の成果、問題点）

令和元年度の市の事業数は平成30年度からさらに増加し、中間年の令和元年度の目標を大きく上回っています。また、各種スポーツ大会やスポーツ教室等に保護者も一緒に参加できるスポーツ機会の提供に努めました。

事業内容が類似・重複していないか検討する必要があります。

事業参加者は子供や高齢者の参加が多いが、働く世代の参加者が少ない傾向にあります。

（今後の方向性）

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会で生まれた有形・無形の様々な遺産（レガシー）を発展させ、着実に次世代に引き継ぐ取組が必要であり、市や（公財）盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが行っている各種スポーツ大会やスポーツ教室の周知促進を図ります。

各種スポーツ団体や健康づくりに関連する担当部署等と協議を行いながら、スポーツに親しむ機会の少ない人が気軽にスポーツに取り組めるよう努めます。

スポーツ施設の整備充実

（現状の成果、問題点）

施設照明のLED化を進めましたが、利用者が快適に利用できるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を行うとともに、不具合備品や競技用具の更新のほか、施設を計画的に修繕する必要があります。

令和元年度の施設利用者は増加傾向にありましたが、令和2年3月に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から施設利用を制限したことにより利用者が激減し結果として令和元年度の施設利用者総数は前年度より減少しました。

（今後の方向性）

施設利用者増加につながる自主事業の拡大について指定管理者に要請します。

公共施設保有最適化・長寿命化計画の着実な推進を図ります。

施設の維持管理に係る費用の確保について検討します。

スポーツ団体等との連携強化

（現状の成果、問題点）

（公財）盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の事業数が微増となりました。

総合型地域スポーツクラブの活動拠点支援を行いました。引き続き各競技団体や総合型地域スポーツクラブとの連携が必要です。

総合型地域スポーツクラブは平成29年度に1団体増加したところですが、それ以降の増加は見られず目標達成が難しい状況にあります。

(今後の方向性)

(公財)盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが各教室や大会を開催しやすいようにするため、連携を強化し、情報提供を行っていきます。

総合型地域スポーツクラブの活動状況について継続して周知を図りながら、人材確保に努めるとともに、総合型地域スポーツクラブの地域性等を生かした健康づくり習慣化推進事業を委託し、市民のスポーツ活動の機会の提供に努めます。

総合型地域スポーツクラブの創設に向けた研修会の開催や設立時における国等の補助制度等の周知を図ります。

プロスポーツ等との連携

(現状の成果, 問題点)

プロスポーツチームの会員数がbリーグは増加しているがJリーグは減少傾向にあるため、特にJリーグの会員数を増やすための支援(P R等)が必要です。

プロスポーツチームが市のスポーツ推進事業を受託した実績がありませんが、施設使用料の全額免除を行うことにより無料試合を実施し、集客への支援に努めました。

(今後の方向性)

練習環境の確保、ホームゲームの開催、広報活動に係る支援を継続します。

プロスポーツ団体を受託者としたスポーツ推進事業及びプロスポーツ支援事業を検討します。

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産の継承

(現状の成果, 問題点)

ホストタウン事業としてラグビーカナダ女子セブンズの合宿の受入れを行い、その中で日本代表候補との合同合宿やエキシビジョンマッチを行い、700人を超える市民等が来場しました。

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、選手と市民の交流に関して大会優先であるため、市民の参加や交流には工夫を要する場合があります。

(今後の方向性)

事前キャンプの受入れを始めとするホストタウン事業に際し市民交流や周知啓発の充実を図ることと、東京2020オリンピック・パラリンピックの感動を共有し、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産(レガシー)を未来へ継承していきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

市民が継続してスポーツを楽しむための利用環境の向上を図るため、施設の修繕を計画的に行うとともに、(公財)盛岡市スポーツ協会を中心とした各競技団体や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等と連携を図りながら市民の競技力の向上やスポーツを通じた健康づくりの機会の提供を進めていきます。

また、希望郷いわて国体・いわて大会の遺産(レガシー)を次世代に継承するため、ラグビーワールドカップ2019™の公認チームキャンプやラグビー日本代表合宿受入れ等の実績を生かし、1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたカナダを相手国とするホストタウン事業を推進することで継続してスポーツの振興に取り組みます。

施策14 「盛岡ブランド」の展開

盛岡が住みたいまち、住んでみたいまち、訪ねてみたいまちとなるため、盛岡ならではの魅力や価値である「盛岡ブランド」を市民と共に磨き、育み、都市ブランド*の確立を目指します。

さらに、効果的に市内外に発信することにより「盛岡ブランド」を展開します。

*観光地や地場産業、文化・暮らしなどの個別のブランドにより生み出される都市の価値観やイメージのことです。

■ 主要事業の実績

小学校の総合学習で盛岡ブランドを取り上げ、子どもたちの郷土愛の醸成を図りました。

盛岡ブランドフォーラムやもりおか暮らし物語表彰により、市民への普及啓発を行いました。

首都圏の若者世代を中心とした「対象者」に、盛岡の価値や魅力を伝えるプロモーション素材を作成し、それを活用したプロモーション活動を行いました。

地域おこし協力隊の活動により、東京を始めとした外国人観光客に人気のある都市におけるPR活動や、SNSを活用した情報発信の仕掛け作り、ウェブへの記事の提供などを行いました。

関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトを立ち上げ、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成など、多角的なアプローチで情報発信やネットワーク形成を行いました。

令和2年度から6年度を計画期間とする「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」を策定しました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	盛岡ブランド確立事業	一般	★	首都圏等における盛岡市の認知度向上につながるプロモーション活動、ブランドフォーラムの開催（共催）など	4	3	0
施策の計（一般会計 1事業）					4	3	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																								
まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合	↑	%	○	<table border="1"> <caption>まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>78.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>77.7</td> <td>R1目標値(80.0)</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>78.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>76.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>81.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>79.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>R6目標値(80.0)</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	目標値	当初値	78.0		H27	77.7	R1目標値(80.0)	H28	78.5		H29	76.9		H30	81.4		R1	79.2		R6		R6目標値(80.0)
年度	実績値	目標値																										
当初値	78.0																											
H27	77.7	R1目標値(80.0)																										
H28	78.5																											
H29	76.9																											
H30	81.4																											
R1	79.2																											
R6		R6目標値(80.0)																										
地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」	↑	位	◎	<table border="1"> <caption>地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>58</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>63</td> <td>R1目標値(50)</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>117</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>62</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>90</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>46</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>R6目標値(50)</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	目標値	当初値	58		H27	63	R1目標値(50)	H28	117		H29	62		H30	90		R1	46		R6		R6目標値(50)
年度	実績値	目標値																										
当初値	58																											
H27	63	R1目標値(50)																										
H28	117																											
H29	62																											
H30	90																											
R1	46																											
R6		R6目標値(50)																										
観光客入込数	↑	万人回	◎	<table border="1"> <caption>観光客入込数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>472</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>509</td> <td>R1目標値(500)</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>500</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>500</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>508</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>519</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>R6目標値(520)</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	目標値	当初値	472		H27	509	R1目標値(500)	H28	500		H29	500		H30	508		R1	519		R6		R6目標値(520)
年度	実績値	目標値																										
当初値	472																											
H27	509	R1目標値(500)																										
H28	500																											
H29	500																											
H30	508																											
R1	519																											
R6		R6目標値(520)																										

・ 「盛岡が好き」と答えた市民の割合／○ 順調に進捗

広報もりおかの特集ページ制作にあたり、市内デザイン会社の協力を受け、若年層向けの紙面作りに努めたことにより効果的な情報発信を行うことが出来たほか、ブランドフォーラム・もりおか映画祭と企画を連動させることで、フォーラムの集客につながりました。

子どもたちに向けた郷土愛の醸成として、緑が丘小学校の総合学習に協力し、毎年連携する関係性を構築できたほか、活動を周知するチラシを小学校に配布したことで、新規の学校での周知を行うことができました。

一方で、取組の成果が指標の上昇に結び付きませんでした。また、もりおか暮らし物語読本の刊行にあたり地域への周知が不足し、執筆希望者とのマッチングが行えなかったことから発刊できませんでした。

・ 地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」／◎ 非常に順調に進捗

外国人を中心に盛岡の認知度を向上させることを目的に、英語版フォトブックを企画制作し、外国人観光客の割合が高い地域のゲストハウスに配架することにより、効果的にプロモーション活動を行うことができました。

「地域おこし協力隊」の活動により、首都圏における写真展開催や、SNSを活用した情報発信、ウェブへの記事の提供などを行い、県外に向けた発信力を強化することができました。

関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトを立ち上げ、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成など、多角的なアプローチで情報発信やネットワーク形成を行いました。

それぞれの活動に対し、訴求する相手方（ターゲット）を設定したことで、効果的な訴求につながりました。

・ 観光客入込数／◎ 非常に順調に進捗

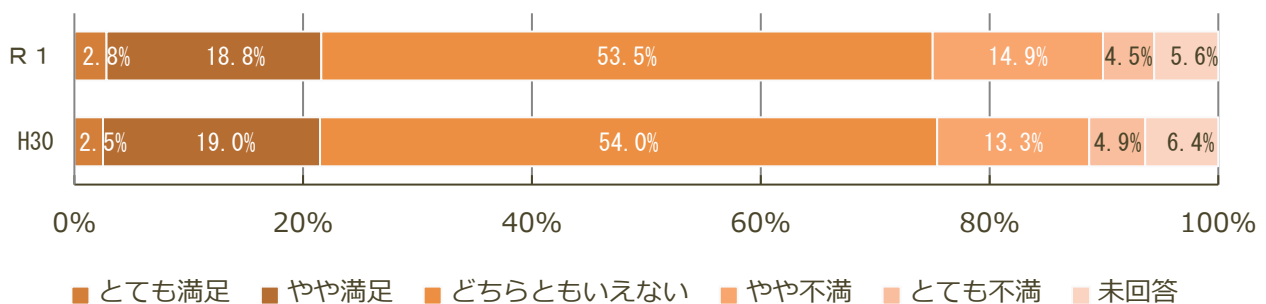
若者に人気の高いインフルエンサーを活用して、首都圏の若者をターゲットとした観光情報を発信するなど、それぞれの活動に対し、訴求する相手方（ターゲット）を設定したことで、効果的な情報発信につながりました。

民間事業者などと連携し、「盛岡という星で」プロジェクトの一環として、ターゲット等プロモーションの方向性を構築したうえで移住体験ツアーを実施することで、市への来訪のきっかけ作りを行うことができました。

地元団体、国土交通省、市による舟運実行委員会を組織し、舟運実現に向けた組織強化が図られたことにより、木造船「もりおか丸」を活用したフェスタや、小学生を対象とした体験運航等5回の社会実験を実施し、マスコミ等にも取り上げられ、舟運の魅力を市内外にPRできました。

■ 施策に対する市民の実感

「盛岡の価値や魅力を育み、市内外へ発信している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

市民・事業者との意識共有

（現状の成果，問題点）

広報もりおかの情報発信と，ブランドフォーラムのテーマを結びつけることで参加者数が増加するなど，個別の事業に関連性を持たせることにより，多くの市民への普及啓発を行うことができました。

しかし，個別の取組の成果が，指標の上昇に繋がっていません。

（今後の方向性）

「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき，市内住民に向けたインナープロモーションを行うための手法の検討・構築を行います。

子どもたちに向けた郷土愛の醸成を図るため，小学校との連携を継続的に行えるよう，関係の構築に努めます。

盛岡ブランドフォーラムの実施時期や内容，周知方法を見直し，より集客できるよう努めます。

情報発信の強化

（現状の成果，問題点）

外国人に向けた，英語版フォトブックによるプロモーション活動や，首都圏の若者に向けたSNS等による情報発信など，訴求する相手方（ターゲット）によって手法を使い分け，効果的な情報発信を行うことができました。

広告宣伝や周知イベント等の回数や参加人数が限られており，大規模なプロモーションに繋がっていません。

（今後の方向性）

「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき，市外住民に向けたアウタープロモーションを行うための手法の検討・構築を行います。

訴求する相手方（ターゲット）の設定や，ターゲットに適した情報発信手法など，マーケティング手法を用いながら効果的なプロモーションの実施に努めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

観光客の入込数は増加し，魅力度における盛岡市の順位も向上して目標値を達成している一方，市民の関心が低下しています。事業効果を検証しながら情報発信の手法の構築を目指します。

シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成を図るために，令和元年度に策定した「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づく事業を着実に推進します。

施策15 良好な景観の形成

市民と共に、自然環境と歴史的環境とが調和した盛岡らしい魅力ある景観を保持するなど、良好な景観の形成を図ります。

■ 主要事業の実績

都市景観シンポジウム、都市景観賞などを通し市民への景観に対する意識の向上を図り、景観計画区域内行為届の審査・指導により良好な景観形成となるよう誘導し、併せて景観計画の周知を行いました。

景観重要建造物、景観重要樹木等の維持保全を図り、市所有の景観重要建造物等を公開しました。

屋外広告物の許可により、景観計画との整合と公衆への危害防止を図りながら、官民が連携する啓発イベントを行い、屋外広告物制度の周知を図りました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	都市景観形成指導事業	一般	★	景観指導、都市景観シンポジウムの開催、都市景観賞の決定・表彰など	1	1	0
2	景観計画推進事業	一般		盛岡ふれあい覆馬場プラザ指定管理、紺屋町番屋改修実施設計、景観重要建造物や景観重要樹木の適切な維持管理、保存建造物修復事業補助など	31	26	0
3	屋外広告物事務	一般		屋外広告物の許可、屋外広告物業の登録、簡易除却ボランティア活動の推進など	3	3	0
施策の計（一般会計 3事業）					35	30	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合	↑	%	△	<p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p>
まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合	↑	%	△	<p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p>
まちづくり評価アンケート調査「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合	↑	%	△	<p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p>
まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示・設置されているはり紙や看板など)は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民の割合	↑	%	△	<p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p>

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民の割合	▽	%	△	

- 「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

市所有の景観重要建造物等の公開により景観意識の向上を図っていますが、老朽化が進み、計画的な改善が必要となってきています。また、建設費用の高騰などを背景に特徴的なデザインを取り入れるのではなく、画一的な建物の建設などが増える傾向が見られることも、誇れる市街地の景観があるとの評価につながらない一因と考えられます。
- 「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

田園・丘陵地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、建物の建設の際には、形態・意匠及び屋根・外壁の色彩は、田園・丘陵地の自然景観に調和するよう指導しています。

眺望景観保全地域においては、田園・丘陵地の保全に努めていますが、居住地からは見えないなど個々に視点場の違いがあることが誇れる田園・丘陵地の景観があるとの評価につながらない一因と考えられます。
- 「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

山間地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、建物の建設の際には、形態・意匠及び屋根・外壁の色彩は、山間地の自然景観に調和するよう指導しています。

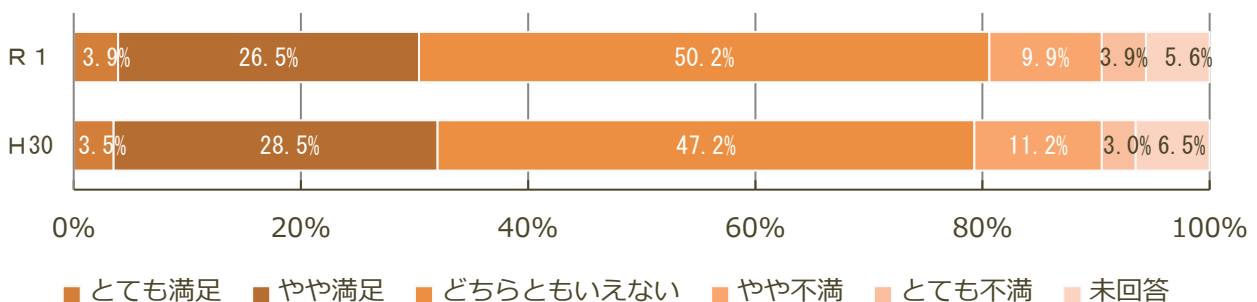
眺望景観保全地域においては、山間地の景観の保全に努めていますが、居住地からは見えないなど個々に視点場の違いがあることが誇れる山間地の景観があるとの評価につながらない一因と考えられます。
- 「屋外広告物は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

官民が連携する啓発イベントを通じて屋外広告物制度について周知啓発を行いました。まだ制度が広く浸透しているとは言えない状況であり、さらに屋外広告物の制度の周知を徹底し、適正な屋外広告物の設置を進める必要があります。
- 「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

改善したい景観が市街地、田園・丘陵地、山間地のいずれであるかを把握する必要がありますが、市街地においては、景観に対する配慮が不足している建設等や、景観重要建造物等の老朽化による腐朽や解体により、次世代に継承すべき魅力ある盛岡固有の景観が失われつつあることも一因と考えられます。

■ 施策に対する市民の実感

「盛岡らしい景観が形成されている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

景観保存対策の充実

（現状の成果，問題点）

市所有の景観重要建造物を公開することにより，景観重要建造物の認識を高めました。

景観重要樹木の樹勢診断により，樹木の状態を把握することで適切な維持保全につながりました。

歴史的街並み整備事業（修景補助）を1件実施し，歴史的街並みの修景を図りました。

景観重要建造物の改修が進まず老朽化が進むことが，まちづくり評価アンケート調査において誇れる景観があると回答した割合が年々減少している要因のひとつと考えられます。

（今後の方向性）

景観重要樹木について，より一層の樹勢診断等の活用を図り，枯渇のないよう維持保全に努めます。

歴史的町並み整備事業の周知を図り，鉾屋町の歴史的街並みの修景を進めます。

市所有の景観重要建造物の維持保全のため，計画的な改修を図ります。

良好な景観形成の誘導

（現状の成果，問題点）

都市景観シンポジウム，都市景観賞等により市民の都市景観に関する意識の向上を図りました。

官民が連携する啓発イベントを行い，屋外広告物制度について周知を図りましたが，広く浸透しているとはいえない状況です。

（今後の方向性）

市民がより一層盛岡の景観に興味を持ってもらえるよう，都市景観シンポジウムや都市景観賞の内容の充実を図ります。

屋外広告物の制度の周知の方法を検討し，屋外広告物の適正化を継続的に取り組みます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

都市景観シンポジウム，都市景観賞等を開催し都市景観に関する意識の向上を図っていますが，成果指標である，まちづくり評価アンケートの多くが前年度より低下しています。引き続き都市景観シンポジウム，都市景観賞の内容の充実化等について検討するとともに，成果指標低下の要因の把握に努めます。

景観重要建造物等については，老朽化に対応するために計画的な改修を進める必要があり，その先鞭をつける紺屋町番屋改修では，利活用のあり方も指標向上に一定の役割を果たすことが期待されます。

また，屋外広告物については，令和3年度施行の条例改正と併せて，あらためて広く市民等への制度周知に努めます。

施策16 計画的な土地利用の推進

地域の特性をいかし、機能的で魅力的な都市を形成するため、自然環境の保全と人々の営みとの調和を考慮しながら、コンパクトで効率的な市街地を形成するなど、計画的で適正な土地利用を推進します。

■ 主要事業の実績

都市計画法に基づく区域区分等の見直しに向けた都市計画基礎調査や開発許可制度、国土利用計画法に基づく土地取引事後届出制度、国土調査法に基づく地籍調査などにより、国土利用計画盛岡市計画や都市計画マスタープランに基づく適正な土地利用が図られました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	都市計画区域区分変更事業	一般		区域区分編入予定箇所の現地調査及び選定作業, GISシステムの更新	4	1	0
2	開発許可事務事業	一般		都市計画法に基づく開発・建築の許可事務, 宅地造成等規制法に基づく許可	1	1	0
施策の計 (一般会計 2事業)					4	2	0

■ まちづくり指標 (成果指標) の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合 (市域における都市計画区域の割合 ^{*1})	→	%	◎	<p>当初値 50.3 H27 50.3 H28 50.3 H29 50.3 H30 50.3 R1 50.3 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(50.3) R6目標値(50.3)</p>
農用地として保全し土地利用する割合 (市域における農用地区域の割合 ^{*2})	→	%	◎	<p>当初値 8.4 H27 8.5 H28 8.5 H29 8.5 H30 8.5 R1 8.5 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(8.4) R6目標値(8.4)</p>
森林として保全し土地利用する割合 (市域における森林区域の割合)	→	%	◎	<p>当初値 73.2 H27 73.2 H28 73.2 H29 73.2 H30 73.2 R1 73.2 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(73.2) R6目標値(73.2)</p>

*1 都市計画区域内の市街化調整区域と農用地区域、森林区域とが重複している区域があるため、3区域の割合の合計は100.0%を超えます。

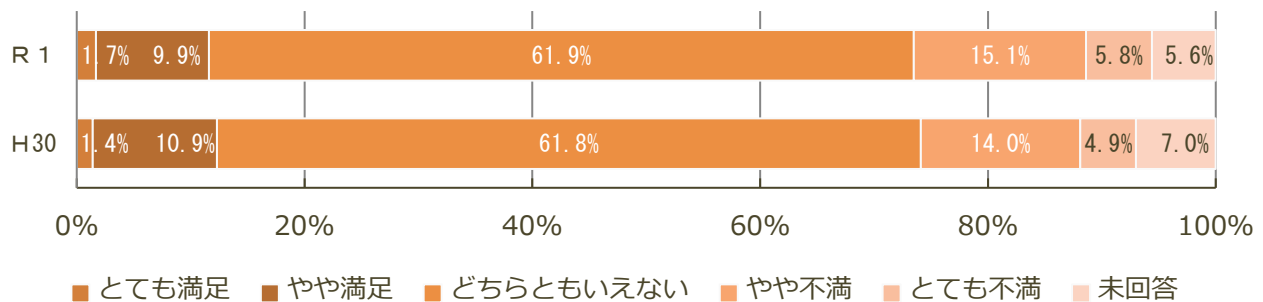
*2 「農用地として保全し土地利用する割合」の当初値当初値は、平成26年度の速報値としています。

- ・ 市域における都市計画区域の割合／◎ 非常に順調に進捗
- ・ 市域における農用地区域の割合／◎ 非常に順調に進捗
- ・ 市域における森林区域の割合／◎ 非常に順調に進捗

関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を図ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られています。また、開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られました。

■ 施策に対する市民の実感

「地域の特性を生かした土地利用の計画、管理などが行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

土地利用に関する計画の策定・見直し

（現状の成果、問題点）

目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られています。

将来における都市部及び農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になることが予想されます。

将来における森林資源の保全維持管理を図る必要があります。

（今後の方向性）

近年の社会情勢の変化や各種関連計画の策定等を踏まえ、市の都市計画の方針を定めている盛岡市都市計画マスタープランの全体構想の見直しのほか、都市再生特別措置法の改正を踏まえた盛岡市立地適正化計画の見直しを進めます。

農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として保全・活用され、市街地の集約化と相乗効果が得られるような総合的で一体的に土地利用を進めます。

土地利用の管理・指導

（現状の成果、問題点）

市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られました。

開発許可及び建築許可の件数が多く、相談内容が多岐に及び時間を要するため予約制を導入したことにより、相談者の待ち時間の解消が図られました。

審査基準の緩和に関する相談や調査、資料収集が必要で、複雑な相談内容への対応に時間を要しています。

（今後の方向性）

より効率的な窓口対応を図るため、開発建築相談の予約制を推進し、説明資料等の工夫等を検討します。

市街化調整区域における開発許可基準については、国の動向や他都市の事例、岩手県との協議等を参考に地域の実情等に応じた運用について、継続して検討します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

成果指標による進捗評価は良好に推移していますが、令和元年度に策定した立地適正化計画の確実な運用や法律改正を踏まえた見直しを進めるほか、社会情勢の変化等や市民意見を踏まえた都市計画マスタープランの見直しが急務です。

また、このマスタープラン見直しと合わせて、農村部コミュニティ維持等の課題に対応する市街化調整区域における土地利用について、関係部署と連携しながら検討を進めます。

基本目標3 人を育み未来につなぐまちづくり

施策17 子どもの教育の充実

子ども一人ひとりの個性をいかし、学力を定着させ、生きる力を育むことができるように、学校や家庭、地域などが連携しながら、子どもの教育の充実と健全な育成を図ります。

■ 主要事業の実績

教員の指導力向上のための取組を行い、児童生徒の学力向上を図るとともに、道徳教育・先人教育の充実などにより、豊かな心の育成を進めました。

また、スクールアシスタントや不登校生徒等対策相談員を配置し、個別に配慮が必要な児童生徒への支援に取り組みました。

学校等の施設については、校舎の大規模改修工事、プール改修工事、トイレ改修工事等を行ったほか、施設の適切な維持保全に努めました。

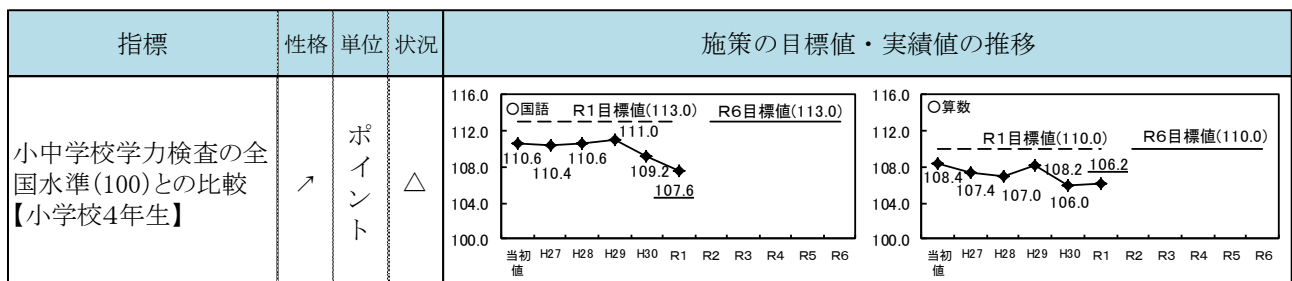
(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	教育振興事業（小学校・中学校）	一般		児童生徒の学力検査，知能検査の実施，小学校社会科副読本「わたしたちの盛岡」の印刷など	18	20	0
2	先人教育推進事業	一般		先人カレンダーの作成など	1	1	0
3	生徒指導強化推進事業	一般		スクールアシスタント，不登校生徒等対策相談員の各小中学校への配置，スクールガードリーダーの委嘱など	55	55	0
4	教育活動推進事業	一般		少人数指導非常勤講師2名の配置，読書活動推進員11名の配置など	12	12	0
5	小学校整備事業	一般		大新小（校舎大規模改修工事），飯岡小（校舎増築等工事实施設計及び地質調査），トイレ改修工事	546	218	533
6	中学校整備事業	一般		仙北中（第二屋内運動場等整備に係るプール及び木造校舎等解体工事），トイレ改修工事	36	30	84
7	学校プール整備事業	一般		見前小，中野小（プール改修等工事）	129	112	108
8	小中学施設防災対策事業	一般		好摩小・見前中（屋内運動場等非構造部材地震対策工事），玉山小・生出小・巻堀小・玉山中（屋内運動場等非構造部材地震対策工事实施設計・工事）	96	85	125
9	（仮称）盛岡学校給食センター建設事業	一般		PFIアドバイザー一業務委託，測量設計及び許認可協議等業務委託，汚水枳設置工事など	28	25	0
施策の計（一般会計 9事業）					921	557	851

・ 小学校整備事業，中学校整備事業，小中学施設防災対策事業

国庫補助の追加決定に合わせて、令和2年度に予定していた事業の前倒し補正を行ったため、事業費が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生】	↗	ポイント	△	<p>○国語 R1目標値(107.0) R6目標値(107.0) 当初値 103.8 H27 105.0 H28 105.8 H29 104.6 H30 104.4 R1 104.2</p> <p>○数学 R1目標値(105.0) R6目標値(105.0) 当初値 102.2 H27 101.4 H28 102.2 H29 103.0 H30 102.2 R1 102.6</p> <p>○英語 R1目標値(105.0) R6目標値(105.0) 当初値 103.2 H27 104.2 H28 104.2 H29 103.4 H30 104.0 R1 102.6</p>
体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生】	↗	ポイント	△	<p>○男 R1目標値(101.0) R6目標値(101.0) 当初値 97.8 H27 99.7 H28 97.8 H29 97.6 H30 97.9 R1 95.8</p> <p>○女 R1目標値(101.0) R6目標値(101.0) 当初値 100.5 H27 100.1 H28 99.5 H29 100.1 H30 100.2 R1 99.4</p>
体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生】	↗	ポイント	△	<p>○男 R1目標値(102.0) R6目標値(102.0) 当初値 100.4 H27 99.9 H28 101.0 H29 99.6 H30 101.0 R1 98.1</p> <p>○女 R1目標値(102.0) R6目標値(102.0) 当初値 100.2 H27 100.1 H28 99.9 H29 100.0 H30 101.7 R1 98.2</p>

- ・ 小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【小学校4年生：国語】／△ 遅れが生じている
 叙述に即して、言葉と言葉との関係を言葉の意味や働き等に注目させながら文章を読むことや事実と意見を区別して書くこと、自分の考えを支える理由や事例を明確にして書くことの学習活動の充実が必要です。
- ・ 小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【小学校4年生：算数】／△ 遅れが生じている
 学習内容を関連付けて考えることや総合的・発展的に考えることの学習活動の充実が必要です。
- ・ 小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：国語】／△ 遅れが生じている
 文章全体をとらえること、事実と感想、意見などとの関係を押さえて読むこと、要点をまとめたり書くことの学習活動の充実が必要です。また、話し合いの進め方を意識して言語活動を展開することが必要です。
- ・ 小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：数学】／△ 遅れが生じている
 計算技能の確実な定着を図る指導が必要です。
 授業における考えを数学的に表現し伝え合うことや問題解決の方法について説明したり検討したりすることの学習活動の充実が必要です。
- ・ 小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：英語】／△ 遅れが生じている
 正しい文法について、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスよく指導することが必要です。
 「聞くこと」「話すこと」の領域で目的や場面、状況等に応じて考え表現する学習活動を充実させることが必要です。
- ・ 体力運動能力調査の全国水準（100）との比較【小学校5年生：男】／△ 遅れが生じている
 過去の体力調査結果では、落ち込みがみられる学年ではありますが、筋力（握力）が全国との比較において高い結果となりました。また、全身持久力（20mシャトルラン）とスピード（50m走）は、改善が図られてきていますが、全国との比較において低い結果となりました。
 普段から、望ましい姿勢づくりや体育の授業での運動量を確保するとともに、盛岡市とスポーツ協

会と協力し、SAQトレーニングの取組をさらに改善・充実させる必要があります。

- ・ **体力運動能力調査の全国水準（100）との比較【小学校5年生：女】**／△ 遅れが生じている

筋力（握力）、敏捷性（反復横跳び）、瞬発力（立ち幅跳び）が全国との比較において高い結果となりました。また、全身持久力（20mシャトルラン）とスピード（50m走）は、改善が図られています。全国との比較において低い結果となりました。普段から、望ましい姿勢づくりや体育の授業での運動量を確保するとともに、盛岡市とスポーツ協会と協力し、SAQトレーニングの取組をさらに改善・充実させる必要があります。
- ・ **体力運動能力調査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：男】**／△ 遅れが生じている

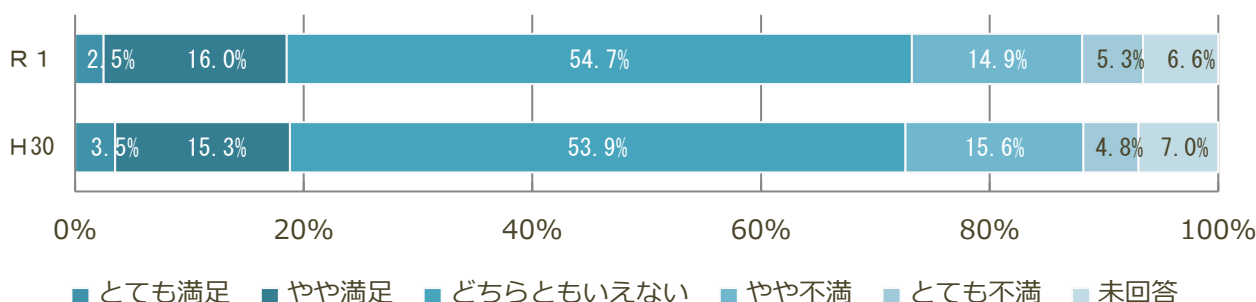
投力（ハンドボール投げ）が全国との比較において高い結果となりました。また、全身持久力（20mシャトルラン）とスピード（50m走）は、改善が図られているが、全国との比較において低い結果となりました。体育の授業において、準備運動で敏捷性に係る運動を取り入れたり、正しい姿勢で走ることを意識した活動を取り入れたりするなど、指導改善を推進する必要があります。
- ・ **体力運動能力調査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：女】**／△ 遅れが生じている

筋力（握力）、筋持久力（上体そらし）、柔軟性（長座体前屈）に課題がみられましたが、改善が図られ、全国との比較において高い結果となりました。また、全身持久力（20mシャトルラン）とスピード（50m走）は、改善が図られています。全国との比較において低い結果となりました。

体育の授業において、準備運動で敏捷性に係る運動を取り入れたり、正しい姿勢で走ることを意識した活動を取り入れたりするなど、指導改善を推進する必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「将来を担う子どもたちを育てる小中学校の教育内容や施設の整備が充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

小中学校教育の充実

（現状の成果、問題点）

学力検査では、NRT検査結果において指標項目全てが全国平均よりも高い水準でしたが、「叙述に即した読み取り」「二等辺三角形の説明」「比例の利用・活用」「適語選択 be動詞」等の誤答率や無答率が多い小問内容があります。

体力運動能力調査では、体育の授業での運動量確保やSAQトレーニングによって改善が図られていますが、正しい姿勢で歩いたり走ったりする児童の減少、運動に対して正しく身体を動かすことができない生徒が多いことが課題となっています。

（今後の方向性）

校内研究会において、全市的共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、数学的に表現し伝え合いながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行います。また、「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまた

いだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させます。

家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に学ぶ生徒を育成します。

小学校における体力運動能力調査に関しては、徒歩の登下校の呼びかけをし、基礎体力の向上を図るほか、体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に啓発しながら体力向上を図ります。また、研究発表会での実践では、9年間を見通して「走る」に特化し、研究を推進します。

中学校における体力運動能力調査に関しては、小学校に引き続き、「走る」に特化し、体力の向上を図るほか、体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図ります。また、体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に啓発しながら体力向上を図ります。

幼稚園教育の充実

(現状の成果、問題点)

保護者の満足度は向上していますが、一部の幼稚園では、園児の減少に伴い、発達段階に応じた幼児教育が保障されにくい状況が生じています。また、子育て支援として保護者のニーズに対応した保育サービスの充実が求められていますが、運営効率の面から取組拡大は困難です。

(今後の方向性)

幼児理解に基づく個の特性に応じた指導や保護者への積極的な情報発信、小学校教育との円滑な接続を図る幼児教育を提供します。

市立幼稚園各園の今後の在り方について方針を定めます。

高等学校教育の充実

(現状の成果、問題点)

進路指導が充実し、希望する進学・就職の目標達成率が向上しています。

総合生活力・人生設計力の育成が求められるとともに、特別進学コースの安定的な国公立大学等への合格率を維持することが必要です。

(今後の方向性)

「総合的な探究の時間」等を通して、生徒自ら課題を見つけ、解決する力の育成や将来について深く考える機会を充実させます。また、教職員大学院との連携等を通して、生徒の意欲を高める授業改善を目指すとともに、教員の実践的指導力の向上を図ります。

教職員研修の充実

(現状の成果、問題点)

令和元年度から、夏季のみ年1回の開催としたが、目標値を上回る参加を得ることができました。

また、参加者アンケートでは、満足度は高く、4段階評価で平均3.76でしたが、夏期休業中の開催では、中学校の運動部の東北大会や高校体験入学等が重なることによる負担感についての声が聞かれ、開催期日や受講環境の満足度における課題が見られました。

(今後の方向性)

従来の講座に加え、次のような時宜を得たテーマを取り入れて開催します。

- ・ 学習指導要領の改訂…小学校プログラミング教育に係る講座、道徳科に係る講座
- ・ 今日的課題…幼・保・小接続、教育相談に係る講座、自殺予防に係る講座、LGBTへの理解と対応、ICT教育に係る講座

岩手県立総合教育センターの研修、授業力改善研修、教育課程説明会、学校行事等の開催期日や内容、実施の有無（コロナ禍）等について確認しながら、令和2年度は人数、講座数共に縮小して開催します。

学校施設の整備・充実

（現状の成果，問題点）

新たな事業の着手（基本設計の実施）はありませんでしたが，既に着手している事業に係る工事及び実施設計を実施することができました。

学校施設について，限られた財源を効果的に活用し，計画的な保全の実施と施設の長寿命化を図り，次世代に大きな負担を強いることなく，「公共施設の保有の最適化」を推進し，持続可能な市民サービスの提供を目指す必要がありますが，限られた財源の中，「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」のスケジュールに基づく大規模改修を実施できておらず，進捗が遅れています。

（今後の方向性）

「長寿命化工事実施マニュアル」に基づき，事業費の精査を行い，限られた財源を効果的に活用することにより，将来にわたって様々なニーズに対応できる施設整備に努めていきます。また，「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」の見直しを受け，改修内容等について検討します。

「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」と整合を図りつつ，施設の複合化が円滑に進むよう関係団体，関係部署等と緊密な調整を進めていきます。

学校プール老朽化への対応として，大規模改修のほかに，民間プールの活用，学校プールの共用化及び市営プールの使用等について検討を進めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

盛岡市学校教育の目標を，「子どもたち一人一人に，自立して社会で生きていくための基礎を育む」とし，全市的な取組を総合的に進めており，一定の効果が出ているものと認識しています。

成果指標としている小中学校の学力については，学力向上推進事業による授業改善等の取組により，全ての指標で全国水準を上回る傾向が維持されましたが，体力運動能力については，平成30年度に比べ低下した項目が見られます。

学力，体力運動能力とも，なお課題があることから，要因を分析し，取組方法を研究しながら，引き続き全市的な取組を展開します。

施策18 生涯学習の推進

誰もが楽しみや生きがいを持ち、豊かに暮らすことができるように、いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築を図ります。

■ 主要事業の実績

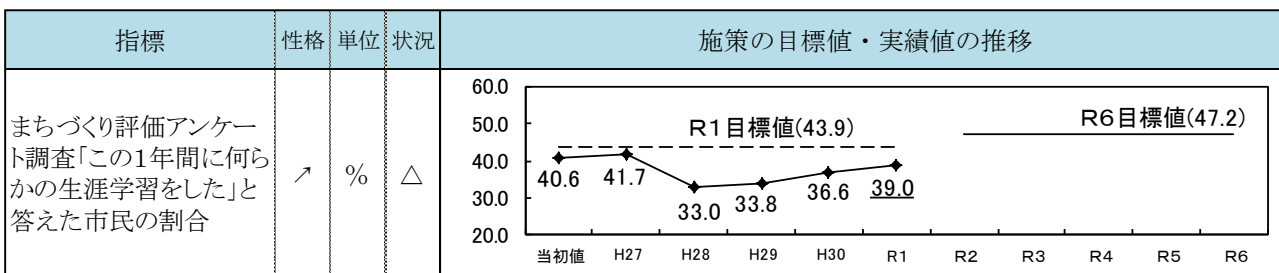
市民ニーズを把握しながら、各公民館等において、家庭教育支援・青少年教育・成人教育・高齢者教育・芸術文化活動・生涯学習推進・地域連携など幅広いテーマで学習機会の提供に努めました。

中央公民館の大規模改修工事（企画展示室を除く）及び飯岡地区公民館の長寿命化修繕（20年目）を実施するなど、市民の良好な学習環境の整備に努めました。

（単位 百万円）

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	社会教育促進事業	一般	★	学校・家庭・地域連携推進事業、生涯学習推進事業、社会教育団体活動支援、成人のつどい式典実施など	10	10	0
2	社会教育施設整備事業	一般		市立図書館の大規模改修及び耐震化工事の基本設計	3	2	0
施策の計（一般会計 2事業）					13	12	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



・ 「この1年間に生涯学習をした」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

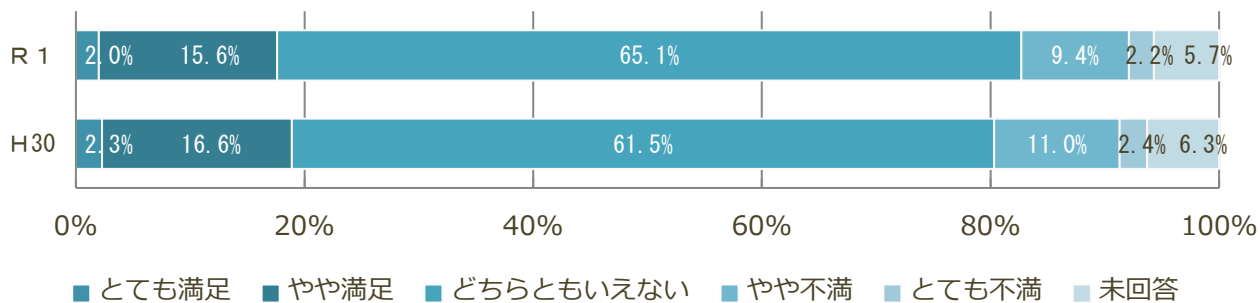
社会教育施設における学習講座は、多くの参加が期待できる市民が学びたいテーマだけでなく、防災や環境など社会の変化に応じて学んでほしいテーマとのバランスを図りながら実施する必要があること、また、講座開催が日中に偏っていることが、主催講座の参加者が伸びない要因と思われます。

学習活動の機会や時間の確保が難しい働き世代の講座参加者数が少ない状況にあります。

ライフスタイルの多様化、情報通信機器の発達等により、生涯学習に対する市民意識が変化していることが背景にあるものと考えています。

■ 施策に対する市民の実感

「いつでもどこでも学ぶことができる各種講座の開設や生涯学習環境が整っている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

社会教育の充実

（現状の成果、問題点）

学びの循環推進事業では、多彩な講座メニューを用意し、市民の継続的な学習活動に活用されていますが、依頼講師に偏りがあるほか、防災や環境など社会的な課題をテーマとする講座への講師派遣が減少しています。

家庭教育支援や青少年教育など社会教育事業の提供により、市民の学習機会の充実が図られるとともに、中学生リーダーや新成人のリーダーが育成されています。

（今後の方向性）

社会教育に関する事業の効果的な周知方法を検討するとともに、家庭教育支援や青少年教育など社会教育に係る学習機会の充実と団体の育成支援を継続します。

社会教育施設の整備・充実

（現状の成果、問題点）

講座により参加者数に偏りがあるほか、勤労青年層の参加が少ないです。

中央公民館の大規模改修工事（企画展示室を除く）、飯岡地区公民館の長寿命化修繕（20年目）及び市立図書館の耐震補強・大規模改修に係る基本設計が完了しました。

（仮称）南部公民館整備事業が総合計画に位置付けられました。

老朽化の進む社会教育施設の計画的な改修、及び新たな施設整備を進める必要があります。

（今後の方向性）

市民ニーズの把握に努め、学習テーマのバランスを図り、魅力ある講座を実施します。

老朽化した社会教育施設の計画的な改修、及び「公共施設保有の最適化と長寿命化のための基本方針」との整合を図りながら、市民ニーズに対応した新たな施設整備を推進します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

社会教育施設では、市民の生涯学習を支援するため、市民ニーズを捉え、多様な講座の開催に努めているところですが、受講者の年代や性別に偏りがあるほか、多様化するライフスタイルにも幅広く学習機会に接することができるよう、更なる創意工夫、改善が必要と考えています。

また、社会教育施設についても老朽化が進んでおり、市民が安全・安心に利用できる施設であることに加え、利便性の高い施設となるよう修繕・改修・整備を計画的に実施していきます。

今後も、市民の学習意欲を高め期待に応えられるよう、ソフト・ハード両面から、生涯学習推進のための環境づくりに努めます。

施策19 社会を担う人材の育成・支援

将来を担う若い世代や女性がライフスタイルに合わせ、社会のさまざまな場面で活動できるように、人材の育成や情報の提供などの支援に取り組みます。

■ 主要事業の実績

県が設置する「ジョブカフェいわて」に、市事業としてカウンセラーを配置し、若者の就業支援を行いました。

国が設置する「もりおか若者サポートステーション」において、市事業としてボランティア活動の場の提供や臨床心理士によるカウンセリングなどを実施し、若年無業者の就業に向けた支援を行いました。

市役所でのインターンシップを希望する大学生等の受入れを行いました。

高校生が市内の民間企業でのインターンシップを経験できるよう、参加企業の拡充を図るとともに、高校生とのマッチングを行いました。また、高校生を対象に、職業観の形成や地元定着の意識付けを図るための研修を行いました。さらに、地元企業で働く若手社員の仕事の様子や仕事を選んだきっかけなどを紹介し、地元で働き暮らすことをイメージしやすくすることで、将来の地元定着を目的とした冊子「モリオカシゴトカメラ」を作製し、盛岡広域管内の高校1年生に対して配布しました。

若者の地元定着を支援するため、就職後3年目までの若手社員を対象に、コミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修を実施しました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	若者の就業支援事業	一般		ジョブカフェいわて、若者サポートステーションの運營業務委託、新社会人就職定着支援など	17	17	0
施策の計 (一般会計 1事業)					17	17	0

■ まちづくり指標 (成果指標) の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
地域若者サポートステーションの支援を受けて就職を決定した人数*	↑	人	△	
ジョブカフェいわての利用者数	↑	人	◎	

* 厚生労働省への報告が義務付けられている対象者の人数を採用していますが、平成27年度から報告対象が変更されたため、指標も「進路を決定した人数」から「就職を決定した人数」に見直しました。当初値は27年度の実績値としています。

・ 地域若者サポートステーションの支援を受けて就職を決定した人数/△ 遅れが生じている

各関係機関や病院との連携が図られており、延べ利用者数、就職者数とも前年度よりも若干増加していますが、目標値の半分程度にとどまっています。

なお、就職者数は、新規登録者数に比例しますが、新規登録者数は雇用情勢に大きく影響を受けることから、令和2年度以降は新規登録者数に影響を受けにくい「もりおか若者サポートステーションに新規登録した盛岡市民のうち就職決定したものの割合」に指標を変更しています。

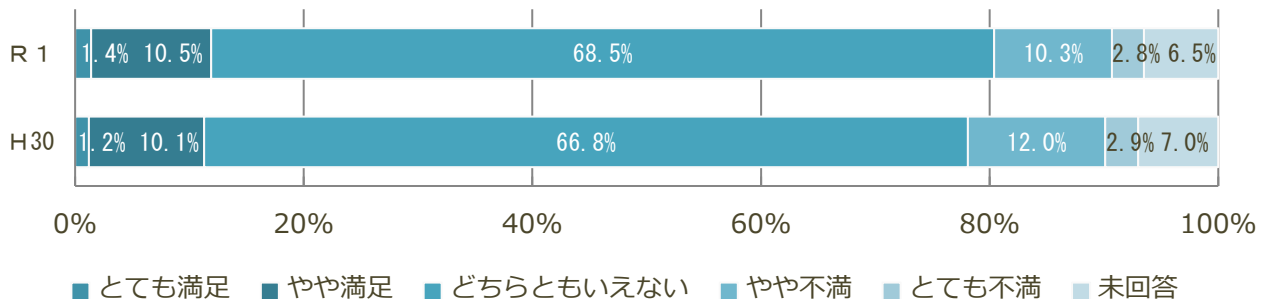
指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
【参考】 もりおか若者サポートステーションに年度内に新規登録した盛岡市民のうち、就職決定した者の割合	→	%	○	

・ ジョブカフェいわての利用者数／◎ 非常に順調に進捗

岩手県が設置する「ジョブカフェいわて」において、就職等に関するカウンセリング等の業務を行っています。県事業との連携により、きめ細やかなカウンセリングが実施できていることもあり、利用者は目標を大きく上回っています。令和元年度と比較しても利用者が大幅に増加しており、若い世代に十分認知されていると考えられます。

■ 施策に対する市民の実感

「ライフスタイルに合わせた、若い世代や女性の活躍を支援する取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

若い世代の活躍支援

(現状の成果、問題点)

若年無業者となる背景は、心身の健康上の理由や人間関係に関する不安など、多種多様で複雑な要因があり、家族が公にすることを避ける例も多いため、支援を必要とする若年無業者の全容把握は困難です。「もりおか若者サポートステーション」の延べ利用者数も前年以上を確保し一定の実績を上げていますが、利用者の抱える問題が複雑化していることから、一人の支援に対し、以前に比べて時間を要しています。継続的かつ丁寧な支援が求められる分野でもあり、臨床心理士によるカウンセリング、ジョブトレーニングやボランティア体験の実施など、様々な支援メニューにより、利用者の社会的自立につなげていく必要があります。

「ジョブカフェいわて」は、若年者の就労に関する相談の拠点として十分に認知されています。

(今後の方向性)

若年者は今後の社会を担う貴重な人材であり、就労や職場定着は重要な課題となっていることから、引き続き若年者や若年無業者の就労支援を行います。「もりおか若者サポートステーション」については、更なる利用促進のため、周知・PRに努めるとともに、本人の意向を尊重しながら丁寧な支援に努めていきます。

「ジョブカフェいわて」については、より利用者のニーズに沿った支援が展開できるよう、事業の振り返り等を通じた改善に努めていきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

「ジョブカフェいわて」や「もりおか若者サポートステーション」と連携を図りながら、若い世代や女性が活躍できるよう、今後も様々な支援を展開していきます。

施策20 地球環境の保全と自然との共生

地球環境や豊かな自然を次世代に引き継ぐため、地球温暖化対策やごみの減量化・資源化の推進、水や緑の保全などに取り組み、地球環境の保全と自然との共生を推進します。

■ 主要事業の実績

近郊自然歩道9路線について、ガイドマップを配布及び環境部ホームページに詳細なコースマップや花暦などを掲載し、また、適切な維持管理を行い、利用者の安全確保に努めました。

環境学習講座を23回開催したほか、環境部ホームページを活用し環境啓発を行いました。

全てのコミュニティ地区ごとの家庭ごみ排出状況を把握するとともに、タイプ類型と取組例を示しきれいなまち推進懇談会を実施するなど廃棄物の発生抑制、資源の再使用・再利用などに取り組みました。ごみ減量資源再利用の推進のため、各地区で開催される懇談会や、ニーズに応じた分別説明会へ出席し周知啓発を行うとともに、広報・ホームページや環境イベント開催等を通じた情報発信に取り組みました。

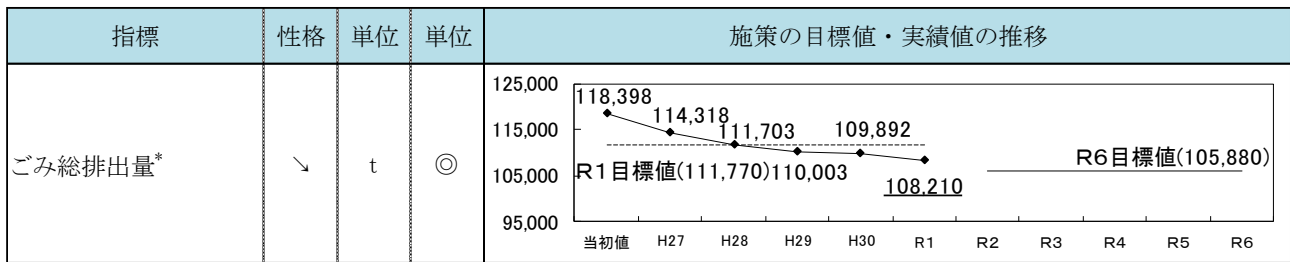
「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置補助事業」を実施し、住宅への太陽光発電システム等の普及を図りました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	地球環境啓発事業	一般		環境啓発イベント及び環境学習講座の開催、環境部ウェブサイト保守管理・新規コンテンツ作成委託など	6	6	0
2	資源集団回収報奨金交付事業	一般		資源集団回収を行う団体に対する報奨金の交付など	31	29	0
3	地域循環型生ごみ処理推進事業	一般		集合住宅等における地域循環型生ごみ処理機維持管理など	1	1	0
4	地球温暖化対策実行計画推進事業	一般		太陽光発電システム設置への補助、地球温暖化対策実行計画推進基金の積立てなど	17	16	0
5	生出地域エコタウン事業	一般	★	電気自動車のリース、LED照明のリース	2	2	0
施策の計（一般会計 5事業）					56	54	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																								
まちづくり評価アンケート調査「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合	↑	%	△	<table border="1"> <caption>指標1: 自然が守られていると思う市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>80.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>82.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>82.7</td> <td>R1目標値(83.0)</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>80.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>81.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>80.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>R6目標値(86.0)</td> </tr> </tbody> </table>	時期	実績値	目標値	当初値	80.8		H27	82.6		H28	82.7	R1目標値(83.0)	H29	80.4		H30	81.1		R1	80.4		R6		R6目標値(86.0)
時期	実績値	目標値																										
当初値	80.8																											
H27	82.6																											
H28	82.7	R1目標値(83.0)																										
H29	80.4																											
H30	81.1																											
R1	80.4																											
R6		R6目標値(86.0)																										
まちづくり評価アンケート調査「CO ₂ の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合	↑	%	△	<table border="1"> <caption>指標2: CO2発生抑制やごみ減量に心がけている市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>80.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>78.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>79.2</td> <td>R1目標値(83.0)</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>77.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>79.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>77.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>R6目標値(86.0)</td> </tr> </tbody> </table>	時期	実績値	目標値	当初値	80.7		H27	78.4		H28	79.2	R1目標値(83.0)	H29	77.1		H30	79.6		R1	77.2		R6		R6目標値(86.0)
時期	実績値	目標値																										
当初値	80.7																											
H27	78.4																											
H28	79.2	R1目標値(83.0)																										
H29	77.1																											
H30	79.6																											
R1	77.2																											
R6		R6目標値(86.0)																										



* 盛岡市一般廃棄物処理基本計画の改訂にあわせ、平成28年度に目標値を変更しました。

・ 「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

平成28年度まではほぼ目標値を達成していましたが、29年度以降は実績値が目標値を下回っています。近郊自然歩道で一部崩落により現在通行できないルートや、公共交通機関で行けないルートがあるなど、自然環境の保全と活用の周知が不十分であったと考えられます。

今後は、近郊自然歩道にもっと親しんでもらえるよう、玉山地域への新しいルートの設定や、環境部ホームページにおいて情報を掲載するなど、身近な自然に触れ合う機会の情報発信が必要です。

・ 「CO₂の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている

前年度より実績値が減少しましたが、実績値は増減を繰り返しています。近年気候変動による自然災害が頻発していることや、環境の変化に関する報道も多かったですが、当市では現在まで大規模な自然災害を受けていないことなどから、関心が低い市民も一定程度いると考えられます。

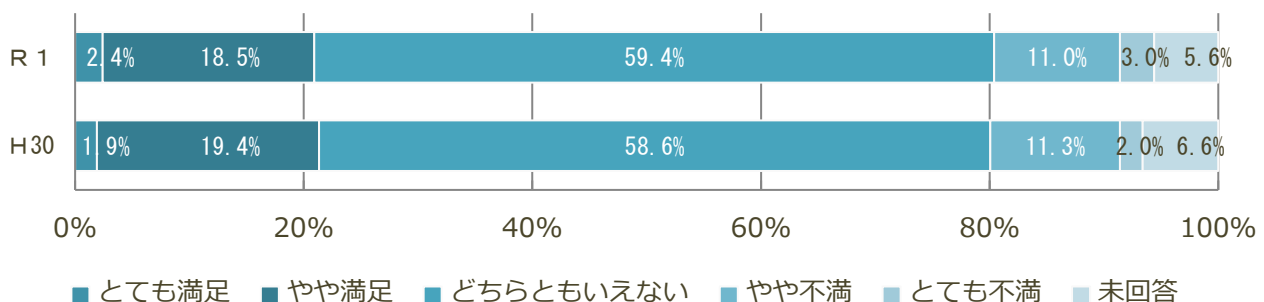
令和元年度目標値に達していないことから、今後も地球温暖化対策としてのCO₂削減の重要性や再生可能エネルギーの導入促進、ごみの減量など取り組みやすい内容を分かりやすく市民に情報発信し、「地球環境にやさしい生活」について市民の意識をより高めていく必要があります。

・ ごみ総排出量／◎ 非常に順調に進捗

当初値より年々ごみ総排出量が減少し令和元年度の目標を達成しており、ごみの発生抑制やリサイクルの取組が成果として現れています。

■ 施策に対する市民の実感

「エネルギーの有効利用や廃棄物の発生抑制など、環境への負荷を軽減する取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

自然の保護と活用

(現状の成果、問題点)

近郊自然歩道や登山道の情報を提供するとともに適切な管理を行い、市民が自然に親しむ場所を提供することができました。

玉山地域の近郊自然歩道の設置について検討中ではありますが、関係者との協議に時間を要しています。

（今後の方向性）

森林や河川などのかけがえのない自然や多様な生物が生息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの市民が自然を感じられる環境づくりを進めます。

環境を大切に作る心の育成

（現状の成果、問題点）

環境学習講座やエコライフ推進イベントの参加者数、環境部ホームページの閲覧者数が増加傾向にあります。

地球環境にやさしい生活を常に心がけている市民の割合が目標値に達しておらず、更なる環境啓発を行わなければなりません。

（今後の方向性）

市民や事業者に環境保全に向けた取り組みやすい情報を分かりやすく提供するとともに、環境学習講座の開催や環境啓発の周知を行い、環境を大切に作る市民・事業者を育成します。

資源循環型社会の形成

（現状の成果、問題点）

家庭ごみ（資源を除く）の減量に向けての各種事業の実施により、分別排出及び資源化に対する市民の意識は高まっており、ごみ総排出量、1人1日当たりの排出量とも着実に減少しています。

令和2年度からの事業系ごみの搬入規制実施に当たり、事業者に対し周知啓発を行い、搬入規制実施の準備を進めました。

（今後の方向性）

新型コロナウイルスの影響と思われませんが、令和2年3月以降、家庭ごみの排出量が増加傾向にあることから、動向を注視します。

コミュニティ地区ごとの排出量や組成分析データ等により得られた特徴や実態について、更に分析を進め、地区の特徴に合わせた取組を推進することにより、家庭系ごみ減量施策を推進します。また、新型コロナウイルス感染対策として、ごみ減量・分別の徹底につながる「新しい生活様式」について、懇談会を通じ提案するとともに、定着に向け周知啓発を行います。

事業系ごみの搬入規制の実施及び廃棄物の適正排出について、事業者向けごみ分別辞典を活用し説明会を行うなど、事業者へ十分な周知を行い、資源化の推進及びごみ総排出量の一層の削減を目指します。

地球温暖化対策の推進

（現状の成果、問題点）

住宅用太陽光発電システム等への補助により、108件の太陽光発電システムが設置されました。一方で、事業の財源である地球温暖化対策実行計画推進基金の残高が減少しており、事業の優先度の検討が必要です。

（今後の方向性）

温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及促進を図るとともに、市民の省エネ行動の周知啓発などを進めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

3Rの推進により、ごみの排出量は減少していますが、特に事業系ごみについては、令和2年度から実施する古紙搬入規制など、着実に施策を展開する必要があります。

地球温暖化対策、自然環境保全について、多様な講座を開催するなど施策の推進に努めているところであり、今後も、再生可能エネルギー活用の拡大、市民の省エネ行動の実践啓発など効果的に進めます。

基本目標4 人が集い活力を生むまちづくり

施策21 農林業の振興

生産地であり、かつ、消費地である地域特性をいかし、都市部との交流を図りながら、地産地消をベースとした付加価値の増大につながる農林業を推進するとともに、山林農地の有する国土保全・水源かん養などの多面的機能を維持・発揮するため、農林業者の経営力の向上や後継者の育成などの支援に取り組めます。

■ 主要事業の実績

安全・安心な農畜産物の安定供給のため、米やりんごの減農薬・減化学肥料による栽培を促進するほか、「盛岡市農業まつり」などを通じ、特産物である短角牛、りんご、行者にんにくを含めた盛岡産農畜産物の魅力を発信するとともに販売促進に努めました。

地域で作成した「地域農業マスタープラン」を推進するため、実質化に取り組むとともに、「農地調整支援員」を配置し、担い手への農地の利用集積、集約化の支援を行いました。また、「農業経営改善支援員」の配置や3年目となる「親元就農給付金事業」の取組により、新規就農者及び担い手の育成・確保に努めました。

農業用水路などの農業施設の維持管理のほか、農村地域の生活環境の保全に向けた地域一体となった取組を推進しました。また、国の中山間地域等直接支払事業を活用し、耕作放棄の防止と農地の多面的機能の維持・確保に努めました。

「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に基づき、多様な主体が参画できる「美食王国もりおか」ウェブサイト運営や食と農体験・応援プログラムの取組、6次産業化等スタートアップ支援事業などを実施し、異業種連携の促進と盛岡産農畜産物の認知度向上を図るとともに、海外市場も視野に入れた販路開拓について「盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針」を定めました。

健全な森林の育成を促進するとともに、市産材の利用拡大と地域林業の支援に取り組めました。

アカマツを枯死させる松くい虫被害の拡大抑止のため、県や近隣市町等と連携し、監視体制の強化や被害木の早期駆除に努めました。

森林環境譲与税を活用し、市内民有林の一部において、航空レーザ計測等による森林資源の現況調査を実施しました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	水田農業構造改革事業	一般		米の計画的生産と水田を有効に活用した麦、大豆等の生産の定着と拡大に係る助成	14	14	0
2	いわて地域農業マスタープラン実践支援事業	一般		農業者が組織する団体等に対する農業機械導入・施設整備等に係る経費の補助	6	4	0
3	盛岡りんご担い手バックアップ事業	一般		早期多収及び省力化を図ることができるりんごの「わい化栽培」のための苗木、支柱などの購入経費補助	1	1	0
4	食と農の連携推進事業	一般		6次産業化・地産地消の推進に資する戦略づくりとそれに基づく事業者育成や販路開拓支援の展開、盛岡の食の魅力発信など	28	29	0
5	中山間地域等直接支払事業	一般		中山間地域で耕作放棄防止を内容とする協定に基づき継続して農業生産活動を行う農業者などを支援するための交付金の支給	55	54	0
6	環境保全型農業直接支払交付金事業	一般		農地・農業用水等の資源や環境の良好な保存に有用な、生物多様性の保全に効果の高い営農活動や有機農業に取り組む団体への補助	22	18	0

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
7	畜産振興事業	一般		畜産農家に対する高能力素牛の導入や畜産技術の指導・普及に係る支援など	13	11	0
8	有害鳥獣対策事業	一般		市鳥獣被害防止計画に掲げる有害鳥獣の捕獲及び被害防除の実施	13	13	0
9	木材需要拡大推進事業	一般	(★)	市産材利用住宅の新築等への補助や町内会等による公共的な施設整備への市産材提供	5	2	0
10	多面的機能支払交付金事業	一般		水路や農道等の管理、軽微な補修及び長寿命化等の活動への交付金支出	244	225	0
11	農業基盤整備事業	一般	(★)	農業者などが組織する団体が行う農道整備や土地改良への助成を行い、農業生産基盤の整備を支援	45	78	0
12	森林適正管理推進事業	一般	★	森林の造林や除間伐、林内作業道の開設などに対する助成など	7	6	0
13	森林経営管理事業	一般		森林の造林や除間伐、林内作業道の開設などに対する助成など	24	23	0
14	市有林造成事業	一般	★	市有林の造成と公益的機能の充実のために行う森林の保育、間伐、作業道改良など	61	50	7
15	地籍調査事業	一般		根田茂地区の境界の立会及び測量並びに28年度に調査した砂子沢及び梁川地区の測量成果の閲覧及び地籍図の作成	16	16	0
施策の計（一般会計 15事業）					553	543	7

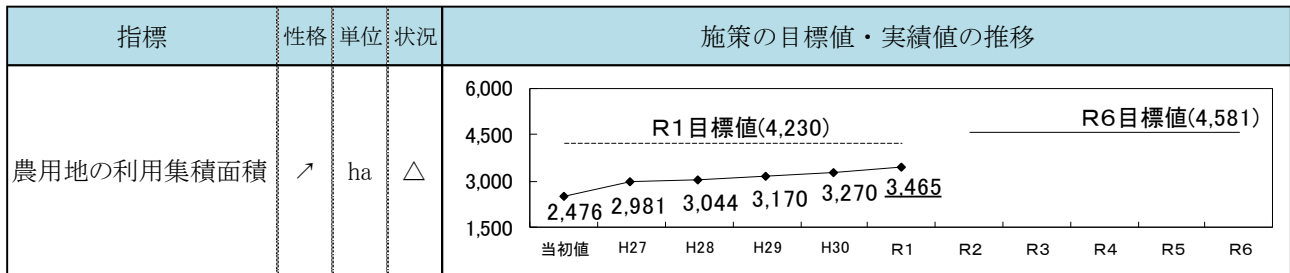
・ 農業基盤整備事業

国の二次補正予算による県営事業の実施に伴い、市の負担額も増額となり、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
農業総生産額*	↑	百万円	◎	<p>10,000 9,000 8,000 7,000</p> <p>9,411 9,548 8,832 7,697</p> <p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(8,876) R6目標値(9,053)</p>
林業総生産額*	↑	百万円	○	<p>1,200 1,000 800 600 400</p> <p>960 833 889</p> <p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(922) R6目標値(966)</p>
新規就農者数	↑	人	◎	<p>200 150 100 50</p> <p>150 161 126 111 97 71</p> <p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(121) R6目標値(171)</p>

* 推計方法の変更や新しい統計結果等により遡及改訂をしており、過去の公表値と異なっています。



・ 農業総生産額／◎ 非常に順調に進捗

最新値である平成29年度の農業生産額は、野菜や果樹において減少しましたが、基幹農作物である米の増加、特に養鶏業の増加により、全体として増加しています。

米については、平成30年度から生産数量目標が廃止され、国が策定する需給見通し等を踏まえ需要に応じた生産を推進するため、農業再生協議会と連携しながら米政策を推進する必要があります。

野菜等園芸作物については、気象条件に左右されやすい面があるが、引き続き産地化と生産施設整備による生産性の向上を推進する必要があります。

果樹については、「盛岡りんご」を中心に、市場での競争力を高めるための戦略的な取組を推進する必要があります。

・ 林業総生産額／○ 順調に進捗

最新値である平成29年度の林業総生産額は、素材生産量の増加に伴い回復に転じています。

目標値の達成に向けては、森林施業の集約化・生産基盤の整備など、生産性の向上を図ることが重要であり、今後、より効率的な森林施業や素材生産に繋げていくために、林業の川上から川下までが連携した取組を、林業経営体との協働のもと進めていく必要があります。

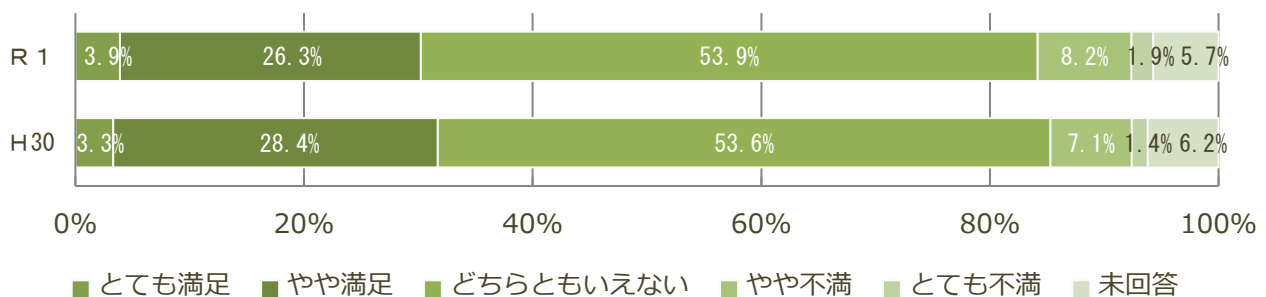
・ 新規就農者数／◎ 非常に順調に進捗

国の「農業次世代人材投資事業」による支援に加え、平成29年度に市単独の「親元就農給付金事業」を創設したほか、「農業経営改善支援員」によるきめ細かな相談業務により、25年度から令和元年度までの7か年で90人、元年度は11人の新規就農者を確保しました。

農業者の高齢化、担い手不足に対応するため、引き続き新規就農者の育成・確保に努めるとともに、新規就農者の収入の安定化や農業技術の習得等について、関係機関と連携したきめ細やかな支援を継続する必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「地域特性を生かした、地産地消の取組が進んでいる」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

経営力・生産意欲の向上と後継者の育成

(現状の成果、問題点)

「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」を策定し、盛岡産農畜産物の高付加価値化と販路拡大を目指し、本市の農畜産物の魅力発信や生産者と消費者等の交流事業を通じて、農畜産物の認知度の向上や地産地消の気運の醸成につながりました。

盛岡産農畜産物の販路拡大に向けて「盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針」を策定しましたが、生産者の輸出に対する意識の向上に努める必要があります。

新規就農者については、着実に増加していますが、引き続き掘り起こしを行う必要があります。

カラス、ニホンジカ、ツキノワグマ等有害鳥獣による農作物被害額は増加傾向にあり、ここ数年3千万円を超える状況となっています。また、近年は、イノシシやハクビシンなどの新たな鳥獣による被害も拡大しており、対策の強化が必要です。

市産材利用の意識が向上したため、公共施設等への活用が広がりました。一方で、木材価格の低迷などにより、森林経営に対する森林所有者の意欲が低下しています。

(今後の方向性)

引き続き、盛岡への来訪者・新規就農者・食に関わる担い手の増加に向け、多様な主体による交流のさらなる拡大と継続的成長の実現を目指しながら、本市の農業や食産業が潤い地域経済の活性化につながるよう取組を進めます。

海外市場も視野に入れた販路開拓について「盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針」に基づき取組を進めます。

新規就農者は、収入の安定や技術習得、資金、労働力など就農期間や個々の実情に応じて課題が変化しており、課題に応じた支援を継続します。また、スマート農業や輸出支援など、新たな担い手の掘り起こしにつなげる取組を行います。

猟友会等関係機関と連携しながら、鳥獣被害対策実施隊員の育成・確保に努めるとともに、研修会等を通じて、害鳥獣被害対策を強化します。

森林資源の循環利用のため、森林環境譲与税を有効に活用し、市産材の需要拡大の推進、適切な経営管理が行われていない森林における施業の促進、林業労働力の確保に係る取組を進めます。また、森林施業の集約化等により、森林所有者の経営意欲を向上させるとともに、林業経営体の経営基盤の強化を支援します。

生産基盤の整備

(現状の成果、問題点)

水田、畑、樹園地の面積は、いずれも横ばい傾向にあり、農家の労働力不足に起因する耕作放棄地の増加、公共事業に伴う農地の減少が要因となり、増加に転じ難い状況にあります。中山間地域においては、過疎化や高齢化の進展により集落内の農地を維持していくことが困難な状況にあり、耕作放棄地の再生、農地の利用集積を一層推進する必要があります。

林業については、松くい虫被害防止対策や間伐等保育作業への支援に取り組み、森林の適正管理に努めました。一方で、利用期を迎えているにも関わらず放置される人工林が増加していることから、森林資源の循環利用を促進する必要があります。

(今後の方向性)

地域特性に応じた土地改良事業、老朽化した水路の更新・改修を推進するほか、地域共同による農用地保全活動への支援を行います。また、担い手に対する農地の集積・集約化を推進するほか、スマート農業の導入を推進し、生産性の向上を図ります。さらに、消費者から選ばれる産地を目指し、消費者と市場のニーズに対応できる生産体制の構築を推進します。

商業店舗や公共施設等における市産材利用を推進し、市民に市産材の魅力を発信することにより市内の森林資源の循環利用を促進します。

森林資源の詳細な現況調査のデータを活用し、林業経営体との連携による森林の適正管理を推進します。また、再造林や保育・間伐作業への支援を安定的かつ継続的に行い、森林所有者の経営意欲の低下を防ぎます。林業生産の基盤となる「林業専用道」、「森林作業道」の整備等を支援し、森林資源の循環を進めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

「農林業の振興」における重要課題のひとつは、農林業従事者の高齢化、後継者不足に伴う労働力不足であり、担い手農家、新規就農者、林業経営体、林業就業者の育成・確保が急務となっています。このことに対応するため、「農業分野」においては、引き続き関係機関と連携し、親元就農や新規就農者への継続的な支援や経営の安定化に向けた担い手への農用地の集積化・集約化を推進する必要があります。

「林業分野」においては、森林資源の循環利用と、森林の有する公益的機能の高度発揮を図るために、森林資源の調査結果の活用等により、林業経営体との連携を強化しながら取り組みを進めることとしています。

また、生産性を向上させ、儲かる農林業の実現のため、生産基盤、生産施設の整備を推進するとともに、ICTやロボット技術を活用したいわゆるスマート農業、スマート林業の導入、普及に向けた取組を推進します。

戦略プロジェクトである「食と農」・「ものづくり」応援プロジェクトは令和元年度で終了となりましたが、引き続き盛岡産農畜産物の高付加価値化と販路拡大に向け、令和元年度に改定した「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」（平成29年度策定）のアクションプランを着実に実施するとともに、国外への販路拡大に向け、令和元年度に策定した「盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針」に基づき取組を推進します。

施策22 商業・サービス業の振興

商業の活発な事業活動を展開させるため、地域特性をいかしたにぎわいのある商店街の形成や、生産者、消費者、商業者等の連携の促進、多様なサービス業の育成・活性化の支援など、商業・サービス業の振興を図ります。

■ 主要事業の実績

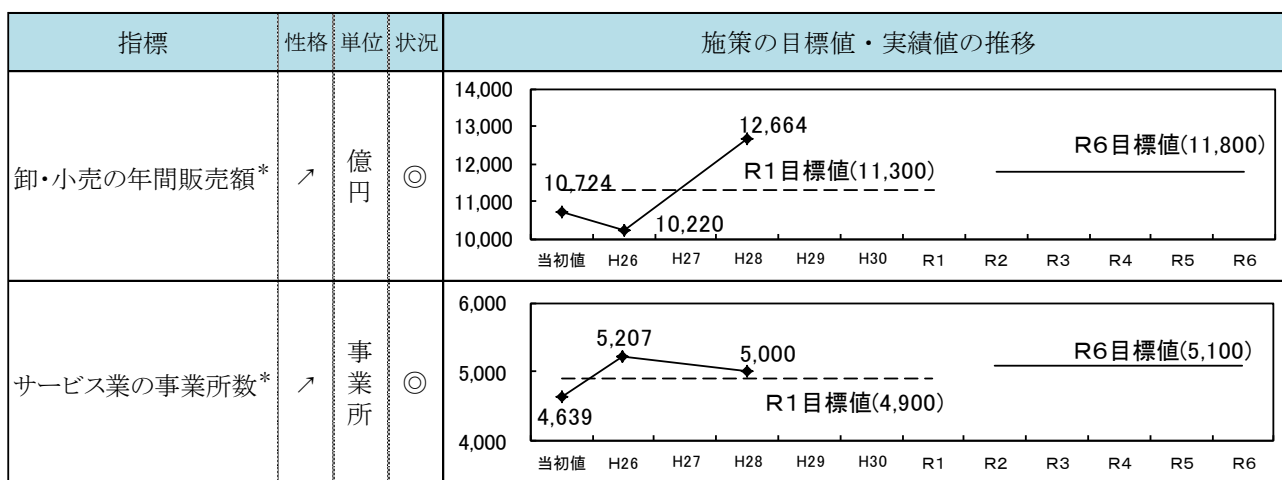
盛岡商工会議所等と連携し、各商店街に対し、盛岡市商店街連合会を通じたイベント開催等への補助などを行ったほか、商店街等の活性化に資する研修への講師派遣を支援するなど、商店街・個店の魅力向上を図りました。

また、中心市街地の商店街の活性化を図るため、空き店舗出店費補助金（空き店舗への新規出店者に対する改装費の一部を助成する制度）による空き店舗の活用を促進したほか、「MORIO-Jカード」を活用した地域ポイントカード事業の実施により、中心市街地の回遊性の維持に取り組みました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	商店街活性化支援事業	一般	(★)	商店街のイベント、商店街からの情報発信、個店の魅力アップ、空き店舗対策などの支援	14	15	0
2	商工団体育成事業	一般		商工団体に対する事業費補助などの活動支援	40	40	0
3	商店街等指導事業	一般		商店街や業界団体等に対する経営指導、商店街の組織強化に対する支援	1	1	0
4	中央卸売市場活性化事業	市場		市場活性化ビジョンの推進（活性化アクションプランへの助言指導業務委託、卸売市場開放デー開催など）	1	1	0
施策の計（一般会計 3事業）					54	54	0
施策の計（一般会計以外 1事業）					1	1	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



* 経済センサスにより数年に一度調査している項目であるため、調査がない年度の数値は掲載していません。

・ 卸・小売の年間販売額／◎ 非常に順調に進捗

卸・小売の年間販売額は、最新値が令和元年度の目標値を上回っており、岩手県内の経済情勢において緩やかな回復の動きが継続していたことから、本市においても同様の傾向にあることが要因であるものと思料されます。

他方、平成26年度に比べ、平成28年度の小売の年間販売額は増加していましたが、令和元年度は中

心市街地大型店舗の閉店などもあり、中心市街地における小売業は厳しい状況にあります。また、新型コロナウイルス感染症が事業活動に大きな影響を及ぼしていることから、今後、更に厳しい状況におかれることが懸念されます。

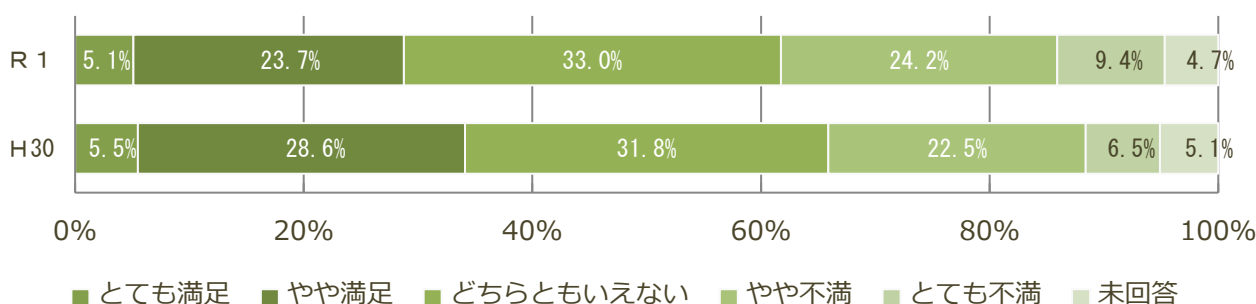
・ サービス業の事業所数／◎ 非常に順調に進捗

サービス業の事業所数は、最新値の平成28年度実績では、令和元年度の目標値を上回っています。平成26年度との比較では減少していますが、当初値に比べるとサービス業全般に上昇しています。特に医療、福祉部門の事業所数の増加が顕著であり、高齢者の増加による社会的ニーズの高まりが要因と史料されます。

一方で、新型コロナウイルス感染症が事業活動に大きな影響を及ぼしていることから、今後、厳しい状況におかれることが懸念されます。

■ 施策に対する市民の実感

「商店街で買い物がしやすい」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

魅力ある商店街の形成支援

(現状の成果、問題点)

中心市街地大型店舗の閉店などの影響で、中心市街地の年間小売販売額が減少する中で、商店街や起業家等への補助制度により、各種集客イベントが開催され、来街者の誘引や新規出店が図られたことにより、一部好転する兆しがありましたが、中心市街地の店舗が小売業から飲食・サービス業に業態変化しており、日中の通行量が減少する流れに歯止めがかかっていません。

観光客入込数は増加しており、交通の利便性に繋がる基盤整備事業やソフト事業の実施による一定の効果は見られますが、年間を通した通行量の増加に至っていません。

(今後の方向性)

平成29年度に策定した「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していくとともに、令和元年度末に運用開始となった「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に沿って、関係団体が相互に連携し、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成に取り組みます。

各種事業を推進していくにあたって、市の補助金、負担金は重要な財源となっていることから、補助制度は必要と考えられますが、市としても各事業の内容について十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要があります。

商店街の個別の課題やニーズに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえた「新しい生活様式」への対応などについての研修会等の開催を支援し、商店街の活性化と魅力強化を図るほか、これまであまり研修会等を開催していない商店街に対して補助の活用を促します。

ロジスティクス機能の充実

（現状の成果，問題点）

平成29年3月に作成した「市場活性化ビジョン2017」により，場内業者と開設者が一体となって活性化等に取り組むことにより，卸売市場の役割や魅力の発信を行うことができました。また，子ども食堂への食材の提供を通じ食育の推進を図ることができました。

卸売・運輸・通信事業者数は，基準年と比べて増加傾向にあるものの，卸売市場の年間取扱高は減少しており，生鮮食料品の安定供給，効率的な物流に対する市場の役割が相対的に低下してきています。

（今後の方向性）

改正市場法の施行に伴う生鮮食料品等の流通構造や流通環境の変化を注視しながら，市場活性化ビジョン2017の見直しに着手します。

盛岡市公共施設総合管理計画による個別計画に基づき，市場機能の維持及び適正化を図ります。

多様なサービス業の振興

（現状の成果，問題点）

観光客やインバウンドが増加したことや盛岡三大麺の認知度が向上したことなどにより，それらをターゲットにしたサービス業の新規出店や人員増を行う事業者が増え，サービス業の新規求人数の増加に寄与しました。

補助金の活用が個店の魅力向上や売上増など直接の成果につながるよう取り組む必要があります。

（今後の方向性）

各種事業を推進するに当たり，市の財政的支援は重要であり，補助制度は必要であると考えられます。

平成29年度に策定した「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき，商業振興施策を体系的，計画的に推進していきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

卸・小売の年間販売額とサービス業の事業所数は，令和元年度の目標値を上回っていますが，中心市街地においては，令和元年度に入り，中心市街地の中核商業施設が閉鎖した影響も踏まえ，魅力ある商店街や個店づくり，集客イベントの開催支援など，関係団体と連携を図りながら，中心市街地の活性化への取組を強化します。

また，卸売市場における生鮮食料品の流通については，出荷団体や小売店などのニーズに対応した品揃えの充実と集荷力の向上に努めながら，活発な市場取引のほか，改正市場法に対応した取組を推進する必要があります。

今後においては，新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれることから，新たな生活様式の中で，経済活動を維持継続できるよう支援策を講じながら取り組みます。

施策23 工業の振興

製造業等の活発な事業活動を展開させるため、大学や公的研究機関などとの連携を進めるとともに、企業の新技術や商品開発、海外展開を支援するほか、新事業創出や起業の支援、産業集積基盤の整備、ものづくり人材の育成など、工業の振興を図ります。

■ 主要事業の実績

企業サポート専門員を配置し、企業訪問を引き続き実施する体制を整え、160件の企業訪問を行いました。

令和元年度は、計画していた企業数である2社より多い3社が、補助事業を活用し大学等と共同研究を実施しました。また、新たに固定資産を投下した6社を含む24社に対して、63件・61,816,760円の固定資産税相当額の補助を行いました。

周辺市町と連携して実施した起業家塾@もりおかの卒塾生による2件の新規創業がありました。

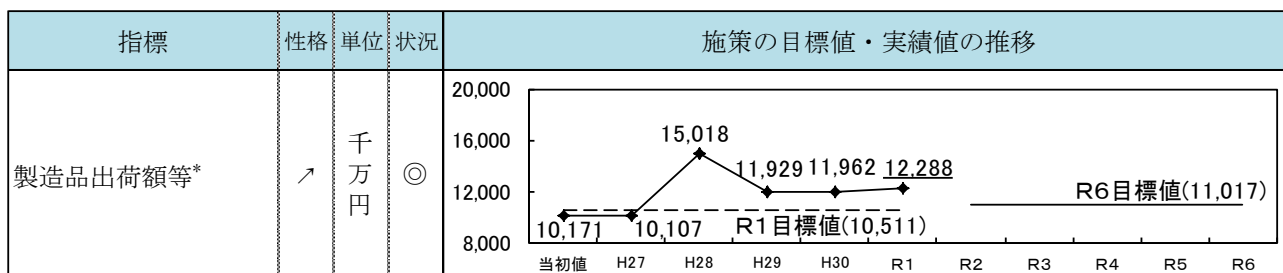
(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	工業振興事業	一般		製造業者や事業者に対する助成制度の運用、企業訪問による企業経営課題への助言・指導支援、浜民運動場測量など	53	14	39
2	新産業等用地整備事業	新産		道明地区の産業等用地整備	496	185	0
3	地場・伝統産業振興事業	一般	(★)	盛岡市産業まつり、いわての物産展等の開催支援	15	15	0
4	産業支援事業	一般		経営相談窓口の設置及び専門家派遣、新分野進出企業の支援	2	2	0
5	成長分野拠点形成支援事業	一般		海外展開を目指す新事業に対する助成、ヘルスケア産業協議会の活動や企業集積の誘引力となるクラスター形成への支援	22	20	0
6	産学官連携研究センター管理運営事業	一般		産学官連携研究センターの管理運営	19	18	0
7	新事業創出支援センター管理運営事業	一般		新事業創出支援センターの管理運営	8	9	0
8	産業支援センター管理運営事業	一般		産業支援センターの管理運営	16	16	0
施策の計（一般会計 7事業）					135	94	39
施策の計（一般会計以外 1事業）					496	185	0

・ 新産業等用地整備事業

契約差金による土砂運搬業務委託料の減額があったほか、工事工程の見直しにより基盤整備工事請負費が減額となったことにより、実績額が小さくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



* 計画策定時は、速報値を当初値に用いて目標値を設定していましたが、確定値が目標値を超えたため、28年度に目標値を変更しています。

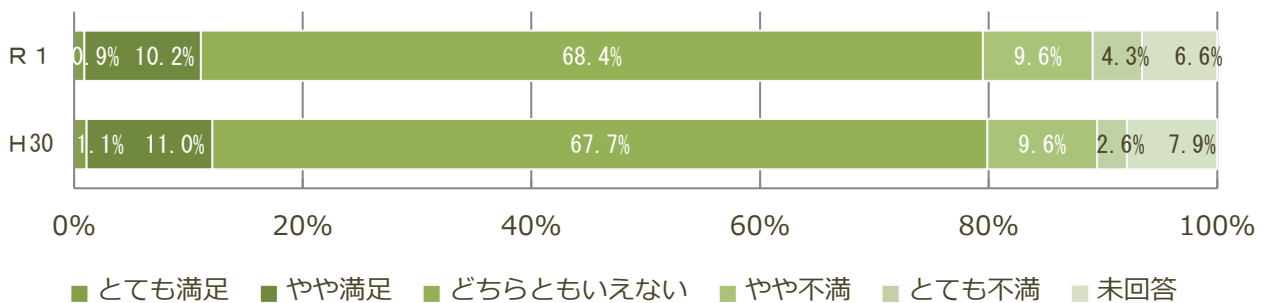
・ 製造品出荷額等／◎ 非常に順調に進捗

製造品出荷額等の実績値が平成28年度は増加し、29年度は減少していますが、これは個別企業の特例によるものと想定され、全体的には企業の設備投資に対する補助事業も活用されていることから、市のリーディング産業である金属製品製造業などの業績が好調であることが指標に表れたものと認められます。

新技術の製品化・事業化の支援など、企業に寄り添った支援が必要なことから、企業サポート専門員や共同研究員を中心に、事業者ごとの課題等の把握に努め、情報提供や助言・指導を行います。

■ 施策に対する市民の実感

「大学や公的研究機関などとの連携や、新事業創出や起業の支援など、工業の振興への取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

地場企業の経営力の強化

(現状の成果、問題点)

経営改善等研修会について、市の研修事業として開催するものがありましたが、研修会等の開催数が減少しています。ただし、参加者は平成30年度より増加しています。

企業サポート専門員を配置し、企業訪問を引き続き実施する体制をとり、年間100件を目標に実施していますが、目標を大きく上回る 160件の企業訪問を行い、事業者の意向や課題把握に努め、情報提供や助言指導を行いました。

国内外を対象とした販路開拓支援事業の内、国外の出展が2件ありました。

(今後の方向性)

企業訪問により事業者の意向を把握し、事業者の共通する課題の解決が図られるような研修会を実施します。

企業訪問を通じて、事業者の意向や個別課題等の把握に努め、情報提供や助言・指導を行います。また、一層計画的・効率的な企業訪問ができるよう努めます。

販路開拓支援事業については、一層の周知に取り組みます。

盛岡テクノパーク及び道明地区新産業等用地への企業誘導に一層取り組みます。

産学官金連携と新事業育成の支援

(現状の成果、問題点)

令和元年度は、計画していた企業数である2社より多い3社が、補助事業を活用し大学等と共同研究を実施しましたが、製品化には更に研究が必要な状況にあります。

産+学+官+金+民による新事業育成の支援体制が有効に機能するように取り組む必要があります。

（今後の方向性）

補助事業等の周知を実施します。

インキュベーションマネージャー等と情報交換を実施し、インキュベーション施設の活用と有効な支援策について研究します。

高等教育機関、産業従事者等と連携し、人材の育成にかかる支援策について検討します。

新技術の製品化・事業化につなげるため、産学官金の関係者と緊密に情報交換を行い、交付金の活用も検討しながら、実効性のある支援策について研究します。

上記研究、検討を進め、社会経済情勢や事業内容に即した支援を実施します。

企業集積と生産基盤の拡充促進

（現状の成果、問題点）

製造業等は新たな企業立地が進んでいませんが、盛岡テクノパーク入居企業から事業用地拡張の引合いがあり、令和2年度に一区画売却予定となっています。

盛岡テクノパークの残地や整備中の道明地区新産業等用地に工場の集積が図られるよう補助制度の見直しを行いました。

（今後の方向性）

盛岡テクノパークの残地について、引き続きPRに努めるとともに入居企業の用地拡充の方向性をあわせて検討します。

道明地区新産業等用地において新たな産業等用地の整備に取り組みます。また、PRに努め、企業の誘致に取り組みます。

創業・起業の支援

（現状の成果、問題点）

周辺市町と連携して実施した起業家塾@もりおかの卒業生による2件の新規創業がありました。

起業家塾を受講した創業者または創業希望者がインキュベーション施設へ入居し、インキュベーションマネージャー等の支援を受けるといった流れの創業が少ない状況にあります。

（今後の方向性）

同様の創業者向け施策の周知を実施します。

インキュベーション施設連絡会議の実施により起業家情報を共有します。

インキュベーション施設への入居メリットなどの情報を、起業家塾で周知するとともに、アフターフォローやホームページ等により創業者に周知します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

製造品出荷額は、令和元年度の目標値を上回っていますが、引き続き、積極的な企業訪問に努め、地場企業の経営力強化や産学官連携、新事業育成支援、創業・起業支援の取組を推進するとともに、道明地区新産業等用地の整備を進め、企業の集積と生産基盤の拡充促進を図ります。

また、成長分野である医療機器製造、ライフサイエンス、ヘルスケア関連産業の集積を進めるため、関係企業の海外展開やクラスター形成の支援を進めるほか、県、TOLIC、盛岡ヘルスケア産業協議会など、関係団体との連携強化を図ります。

今後においては、新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれることから、新たな生活様式の中で、経済活動を維持継続できるよう支援策を講じながら取り組んでいくとともに、国内回帰や拠点の分散化などの動向も的確に捉えて取り組みます。

施策24 観光の振興

盛岡に多くの人を訪れるようにするため、地域資源を活用した観光地域づくりと広域的な観光交流の促進に努め、積極的な情報発信により、国内外の旅行者やコンベンションの誘致を推進するとともに、祭り・イベントの充実や特産品などの物産の振興、おもてなしの心の醸成や受入態勢の整備など、観光の振興を図ります。

■ 主要事業の実績

首都圏や友好都市提携を生かした沖縄県うるま市などでの盛岡デーや札幌などでの観光と物産展の開催を通じて、市の特産品や魅力を発信するほか、東北の県庁所在6市との連携による「東北絆まつり」の開催や、首都圏や海外でのプロモーションなどの誘客宣伝により、観光客入込数は過去最高の519万人回となり、令和元年度の目標値を達成しています。

MICE*の開催支援件数についても前年を上回っており、関係団体と連携した誘致推進の取組みの成果が見られます。

外国人観光客については、いわて花巻空港の台湾定期便に加えた中国定期便の就航によるインバウンドの利便性の向上を生かし、東北6市連携による海外プロモーションのほか、盛岡山車との交流をきっかけとした台湾花蓮縣花蓮市との友好都市締結など、盛岡の魅力在海外に発信し、誘客の増加につなげることができました。

*MICE…企業の会議・研修や報奨旅行、国際会議や学会、展示会・イベントの総称(Meeting, Incentive tour, Convention/Conference, Exhibition/Event)

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	盛岡デー等観光PR事業	一般	(★)	盛岡デー、東北絆まつりなどの開催による総合的な観光PR活動	40	43	0
2	祭り・イベント振興事業	一般		伝統行事・祭り支援(盛岡さんさ踊り、チャグチャグ馬コ、盛岡秋まつり山車など)、イベント開催支援(盛岡花火の祭典など)	54	57	0
3	MICE(マイス)誘致推進事業	一般		盛岡広域圏内を主会場として開催する一定規模以上の会議やコンベンションなどに対する補助	24	14	0
4	広域観光推進事業	一般		関係団体(岩手県観光協会、八幡平国立公園協会、盛岡駅観光案内所など)への支援・補助	21	15	0
5	道の駅設置事業	一般	★	整備方針の検討	55	6	0
施策の計(一般会計 5事業)					194	136	0

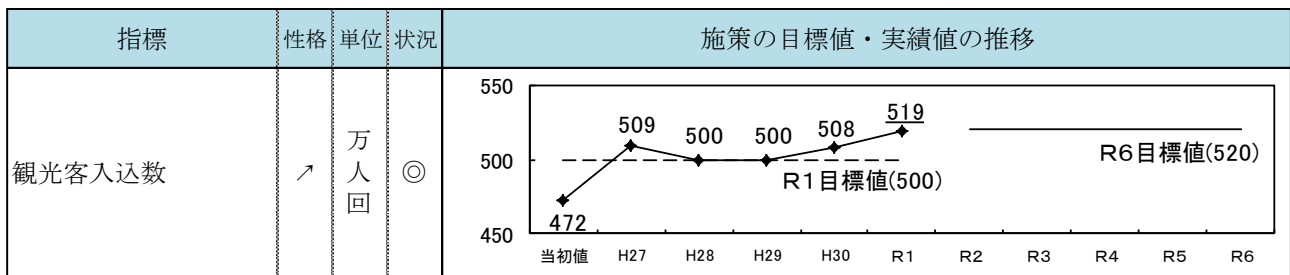
・ MICE(マイス)誘致推進事業

国際会議や全国規模の大会等については、前年若しくは前々年に開催が決定されている場合が多く、助成の申請が想定を下回ったため、実績額が小さくなりました。

・ 道の駅設置事業

運営候補者の公募に係る諸条件の検討・整理に時間を要し、基本設計業務委託(一部は実施)及び道の駅プロデュース業務委託を実施できなかったため、実績額が小さくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



・ 観光客入込数／◎ 非常に順調に進捗

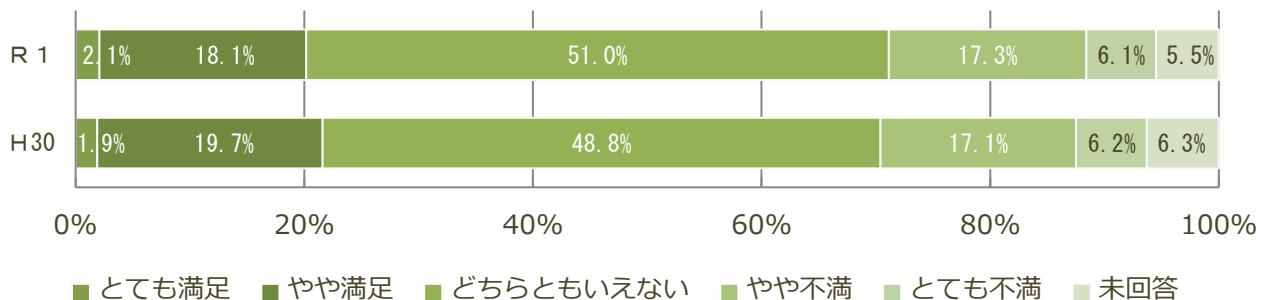
盛岡デーや各種物産展等の開催を通じた誘客宣伝，特産品PRのほか，平成29年からの「東北絆まつり」の開催や東北県庁所在6市との連携による首都圏プロモーションにより誘客促進が図られているものと考えられます。

広域振興局の枠組みによる国際旅行博への出展による海外プロモーションでの誘客宣伝効果，また，台湾に加えて，中国定期便の就航開始など花巻空港の国際定期便がインバウンドの利便性向上による誘客促進につながっているものと考えられます。

国内の各地域間でのインバウンドへの誘客競争が激化していることから，単なる旅行博への出展によるプロモーションのみでは，効果が限定されることから，エージェントとの商談会など，より効果的なプロモーションを検討して実施する必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「観光地としての魅力が溢れている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

観光情報の発信と観光客誘致の推進

（現状の成果，問題点）

観光客入込数は令和元年度目標値（500万人回）を達成し，交流人口が拡大しました。盛岡デーや各種物産展等の開催を通じた誘客宣伝，特産品PRが，盛岡の認知度向上や目的地としての選択につながったことによるものと考えられます。

観光客の動向として団体旅行が減少し，個人旅行が増加する傾向があります。

（今後の方向性）

個人旅行者を含めた，つなぎ温泉地域への誘客促進を図るため，独自の魅力向上に向けた取組とともに，新型コロナウイルス感染症の影響により宿泊施設をはじめとする観光事業者への経済的影響が大きいことから，観光基盤となる事業者への支援や国内旅行者向けの誘客促進につながる事業を優先して実施します。

国内外からの観光客の更なる誘客促進に向けて，入込数の多い台湾や中国をターゲットにした海外，首都圏における国内でのプロモーションによる宣伝誘客の取組を推進します。

観光地域づくりと滞在型観光の推進

（現状の成果，問題点）

前年比で宿泊観光客数が微増（99万人泊⇒107万人泊）しましたが，地域別の観光客入込数において，つなぎ地区の入込数が前年比で減少するなど，県外からの宿泊客数が伸び悩んでいます。

関係団体や民間事業者等と連携した誘致推進の取組により，コンベンション開催支援件数の前年からの増加（75件⇒87件）につながったものと考えられます。

（今後の方向性）

選ばれる都市として関係団体や民間事業者等と連携して誘致促進に取り組むとともに，都市の魅力や利便性をPRする宣伝誘致の取組を推進します。

助成対象となる一定規模以上のコンベンション等については，開催年の5～6年前には開催地決定の準備が進められていることから，更なる誘致につなげられるようコンベンション会場の優先予約による早期確保策を検討，推進します。

国際観光の推進

（現状の成果，問題点）

外国人観光客入込（宿泊）数が前年比1.2倍（5.3万人回⇒6.5万人回）に増加しました。

Wi-Fi設備環境の整備や多言語表記による観光ツールの整備とともに，従来の国際旅行博への出展のみによる海外プロモーションに係る予算確保が困難になってきていることから，プロモーションの内容の検討が必要です。

（今後の方向性）

新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難な状況となっており，国際旅行博などの海外プロモーション事業の延期または中止が続いており，令和2年度中の海外プロモーションの実施は困難な状況であることから，Wi-Fi設備の整備など受入環境の整備を行い，新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた施策の検討を進めます。

新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた国内外からの観光客の誘客促進に向けて，入込数の多い台湾や中国をターゲットにした具体的な旅行商品や観光コンテンツの売込みを含めたより実践的な海外プロモーションの取組について検討します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

観光客入込数は，令和元年度の目標値を達成し，首都圏等での盛岡デーや物産と観光展の開催，東北絆まつりの東北県庁所在市の6市連携による首都圏や海外でのプロモーションなどが成果につながっているものと考えられます。

プロモーションでの「盛岡さんさ踊り」の出演も元年度の祭りの来場者数が過去最高の149万1千人を記録するなど，月別の観光客入込数が最も多くなる要因となっています。また，市内の宿泊施設の改装や新規開業なども，宿泊需要の向上に寄与しているものと考えられます。

外国人観光客についても，国内需要と平行して上昇傾向にあり，いわて花巻空港への国際定期便の就航や海外プロモーションのほか，盛岡山車をきっかけとする台湾花蓮縣花蓮市との友好都市提携の締結の実現など，台湾からの誘客促進につながる成果を上げています。

今後においては，新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれることから，国内観光客の誘客促進とともに，国際定期便の就航再開など訪日観光需要の回復時期を見据えながら，より実践的な海外プロモーションに取り組めます。

施策25 雇用の創出

若い世代を中心とした市民の多様な働く場を確保するため、商工団体等との連携を図るとともに、積極的な企業誘致を展開するほか、創業支援などにより、多様な雇用の創出を図ります。

また、勤労者が安心して働くことができるように、労働環境の向上を促進します。

■ 主要事業の実績

(一社)岩手県経営者協会ほか6つの商工関係団体に対し、岩手労働局、岩手県と合同で要請活動を行い、雇用の拡大を図りました。また、若年層の地元定着を図るため、ハローワークや県等との連携による就職面談会を実施したほか、就職を希望する高校生を対象とした研修会や地元企業の協力によるインターンシップを実施しました。

地元企業を対象に、採用力向上に向けた新しい採用手法に関するセミナーや、自社の魅力を伝えるプレゼンテーションの方法、学生を振り向かせる採用イベント作りの方法に関する研修会を実施しました。

企業誘致については、県と連携した誘致を推進するとともに、「在京盛岡広域産業人会」を通じた首都圏企業の情報収集のほか、「立地セミナー」の開催に取り組みました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	盛岡広域企業誘致推進事業	一般	(★)	情報関連・研究開発・食料品製造系企業などの誘致	1	1	0
2	雇用対策推進事業	一般		もりおか就職面接会の開催、正規雇用など雇用拡大に向けた取組	2	2	0
3	勤労者対策事業	一般		勤労者福祉団体への補助、勤労者向け融資制度の預託	75	75	0
施策の計 (一般会計 3事業)					77	78	0

■ まちづくり指標 (成果指標) の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
盛岡公共職業安定所管内の有効求人倍率	↑	倍	◎	<p>当初値 0.94 H27 1.13 H28 1.19 H29 1.29 H30 1.38 R1 1.29 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(1.00) R6目標値(1.00)</p>
盛岡公共職業安定所管内の就職率*	↑	%	○	<p>当初値 37.4 H27 37.6 H28 38.1 H29 39.1 H30 38.3 R1 38.5 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(40.0) R6目標値(42.5)</p>

* 就職率=就職件数÷新規求職申込件数

・ 盛岡公共職業安定所管内の有効求人倍率/◎ 非常に順調に進捗

好調な景気動向を背景に、高い求人倍率を維持しています。しかし、今後新型コロナウイルス感染症の影響により、企業の求人意欲が低下することが懸念されます。

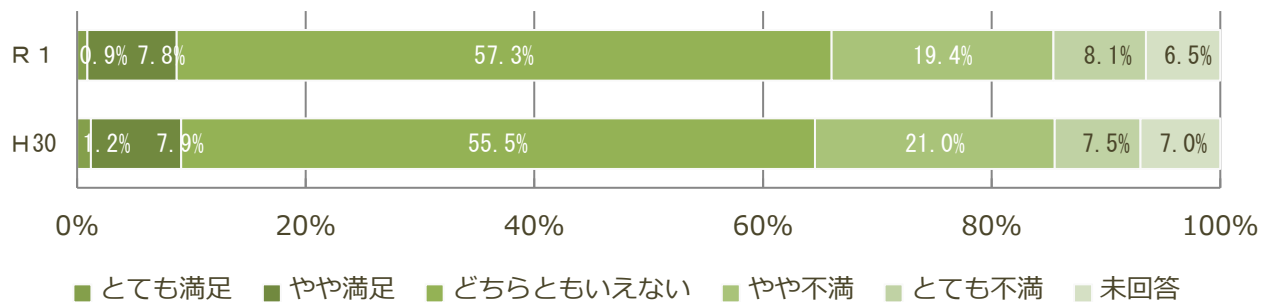
・ 盛岡公共職業安定所管内の就職率/○ 順調に進捗

平成30年度より数値は上がっており、この5年間では2番目に高い数字となっています。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響により企業の求人が減少することが懸念されることから、動向を注視する必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「企業の誘致や雇用対策の取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

企業の誘致

（現状の成果、問題点）

誘致実績はありませんでした。

企業の立地に適当な産業等用地や空きオフィスが限られています。また、関係機関と連携した首都圏等の企業の情報収集や、盛岡地域の優位性などの情報発信が不足しています。

（今後の方向性）

首都圏等の企業に対し、訪問等による情報収集を行うとともに、補助制度や盛岡市の優位点などの情報提供を行うほか、県や広域市町と連携し、企業立地セミナーを開催するなど、盛岡地域への立地のメリット等の発信を継続的に行います。また、道明地区新産業等用地の整備を進め、企業の意向調査を行うほか、産学官金の関係者との連携により、ヘルステック分野や製造業の誘致に努めます。加えて、国内回帰や拠点の分散化などの動向を注視し、将来を見据えた対応を検討します。

雇用対策の推進

（現状の成果、問題点）

高い求人倍率を背景に、職を求めやすい状況となっていますが、人員を充足できない企業の人材確保や雇用のミスマッチが課題となっています。

首都圏企業と比較し、管内企業の知名度が低い傾向にあるほか、賃金水準が低く、若者の首都圏流出に歯止めがかからない状況が継続しています。

（今後の方向性）

企業の採用力向上や若者の企業定着を図るための研修会、地元企業を知る機会となるインターンシップ事業を実施するほか、ジョブカフェ等と連携した支援により、企業の人材確保及び雇用のミスマッチを防ぐための取組を行います。また、新型コロナウイルス感染症の影響により雇用情勢が大幅に変化した場合、その変化に対応した取組を適宜実施します。

勤労者福祉の充実

（現状の成果、問題点）

勤労者福祉については、勤労者福祉サービスセンターの会員数の減少に歯止めがかからず、平成26年度から6年連続して年度末会員数 4,000人を下回っており、目標数に届いていません。一方、会員数の減少による会費収入の減少を、チケット販売等による企画事業収益が補っており、会員の需要に応じた事業を行うことができています。

勤労者融資については、自動車購入融資は30年度に引き続き多く利用されているほか、そのほかの融資も30年度より利用されており、勤労者の生活支援につながっています。

(今後の方向性)

勤労者福祉サービスセンターについては、会員の増加を図るため、積極的な加入促進活動を継続実施します。

勤労者融資については、令和元年度から協調倍率を3倍とし、融資枠を拡大したことで、平成30年度より若干貸出利率が上昇したものの、利用は好調であることから、引き続き、勤労者のニーズに応じていくこととします。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

企業の採用意欲は引き続き高い状況が続いており、盛岡公共職業安定所管内の有効求人倍率は、令和元年度の目標値を大きく上回っています。一方、企業側では、必要な人員を確保できない状況が見られるほか、若者の首都圏への流出が続いており、若者の地元定着につながる取組を継続的に推進します。

また、企業誘致については、道明地区新産業等用地への誘致を見据え、産学官連携関係者のほか、金融機関や友好都市である東京都文京区など、多様なネットワークを最大限に活用するとともに、県及び広域市町と連携した取組を推進します。

今後においては、新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれることから、新たな生活様式の中で、経済活動を維持継続できるよう支援策を講じながら取り組んでいくとともに、国内回帰や拠点の分散化などの動向も的確に捉えて取り組みます。

施策26 都市基盤施設の維持・強化

快適な市民生活と活発な産業活動を支えるため、道路や橋りょう、公園、上下水道施設などの都市基盤施設の適切な維持管理と機能強化を図ります。

■ 主要事業の実績

良好な住宅地の誘導については、建築物等の確認申請・完了検査や、旧耐震木造住宅の耐震診断、耐震改修等により、建築物の適正化を図りました。

安全・快適な道路環境の向上については、市道改良率の向上、除雪指定路線の延長及び橋梁修繕工事の実施により、道路利用者の安全で快適な通行を確保しました。

都市公園の整備と利用促進については、公園等の整備による一人当たりの公園面積の増加と、イベントの開催等により、公園の魅力向上を図りました。

都市緑化の推進については、花苗配布や企業や住民の協力によるハンギングバスケット設置数日本一など、私的空間の緑化を図りました。

安定給水の確保については、耐震管の採用や計画的な経年管更新事業により耐震化率が向上し、安全でおいしい水を安定供給しました。

汚水処理の充実については、汚水管整備や浄化槽補助金により汚水処理人口普及率が向上し、衛生的な水環境を確保しました。

雨水浸水対策の推進については、雨水排水施設整備により下水道雨水施設整備率が向上し、浸水被害の解消と都市機能を確保しました。

既成市街地の再整備については、土地区画整理事業及び生活環境整備事業の実施により生活環境整備率が向上し、定住人口の増加が図られました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	建築指導事務	一般		建築指導・確認審査、中間検査、完了検査に係る事務など	11	10	0
2	耐震診断・改修促進事業	一般		木造住宅の耐震診断及び耐震改修に対する補助、要緊急安全確認大規模建築物に対する耐震改修工事費の補助	38	18	19
3	道路橋りょう維持管理事業	一般		市道舗装補修、点検や道路照明灯電気料など	626	626	15
4	橋りょう維持補修事業	一般		毘沙門橋、246-1号橋、鹿島前橋、稲荷前橋、202-1号橋、片岡橋の橋梁修繕工事及び谷地跨線橋外2橋の橋梁定期点検負担金など	310	100	182
5-1	道路除排雪事業（除排雪委託ほか）	一般		バス路線及び通学路等の除排雪、主要交差点及び急坂部への凍結防止剤の散布など	656	690	0
5-2	道路除排雪事業（除雪車両等購入費）	一般		町内会等へ貸し出す小型除雪機の購入	2	2	0
6	身近な暮らしを支える道路事業	一般	(★)	みたけ4号線、三本柳線、新幹線側道2号線、下田生出線、津志田白沢線など	1,695	768	820
7	都市公園整備事業	一般		中央公園・高松公園・太田地区3号公園、木伏緑地の整備など	298	191	91
8	盛岡市動物公園整備事業	一般		盛岡市動物公園再生事業計画による施設設計（ランドスケープデザイン設計）、測量業務、盛岡市と再生事業代理人による協定締結	55	55	0
9	お城を中心としたまちづくり事業	一般		盛岡城跡石垣変異調査、石垣養生、樹木伐採、遺構等測量図化など	77	21	0

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
10	公園等維持管理事業	一般		公園施設の修繕, トイレ環境整備, 街路樹の維持管理など	201	192	0
11	花と緑のまちづくり事業	一般		ハンギングバスケット設置補助, 地域緑化支援など	18	18	0
12	上水道安全対策事業	水道		重要給水施設配水管の整備	384	153	187
13	配水管整備事業	水道		配水能力増強事業, 経年管対策事業, 未給水地域解消事業, 配水調整ブロック整備事業など	1,730	1,001	569
14	水道水源水質保全促進事業	水道		水源かん養林植栽地下刈り	3	3	0
15	浄配水場施設整備事業	水道		浄水場(米内, 沢田, 新庄, 生出など)の設備更新, 工事など	943	352	518
16	鉛製給水管解消事業	水道		鉛製給水管の布設替工事に対する補助	3	2	0
17	公共下水道汚水施設整備事業	下水		汚水管渠の整備など	498	525	287
18	流域下水道建設負担金事業	下水		北上川上流流域下水道都南処理区の整備(流域幹線及び処理場施設整備への負担金)	49	48	0
19	公共下水道改築更新事業	下水		資材単価調査, 計画書作成業務委託, 管更生工事	134	1	193
20	浄化槽整備事業	一般	★	浄化槽設置整備に対する補助	27	16	0
21	公共下水道雨水施設整備事業	下水		雨水管渠の整備など	785	341	431
22	太田地区整備事業	一般		建物等移転補償, 道路築造, 宅地造成など	1,895	1,584	772
23	都南中央地区整備事業	一般		建物等移転補償, 道路築造, 宅地造成など	663	342	526
24	道明・下飯岡地区整備事業	一般		建物等移転補償, 道路築造, 宅地造成など	807	527	693
25	優良建築物等整備事業	一般		優良建築物等整備事業への補助(中央通三丁目地区)	63	60	0
施策の計(一般会計 17事業)					7,444	5,220	3,118
施策の計(一般会計以外 9事業)					4,529	2,426	2,186

- ・ 身近な暮らしを支える道路事業

交付金の内示額に伴い事業を見直したため, 実績額が小さくなりました。

- ・ お城を中心としたまちづくり事業

文化財保存事業費補助金の交付額が当初の見込みを下回ったことに加え, 石垣修復工事の不調・不
落により事業費を減額したため, 実績額が小さくなりました。

- ・ 配水管整備事業

請負差金及び事業延期, 入札不調等に伴う年度内施工の中止により, 実績額が小さくなりました。
た。

- ・ 浄配水場施設整備事業

工事の不調, 不落により次年度以降に実施時期を変更したため, 実績額が小さくなりました。

- ・ 公共下水道汚水施設整備事業

事業進捗のため, 中長期計画の見直しを実施し, 見直し後の事業費により執行したため, 実績額

が大きくなりました。

- ・ **公共下水道改築更新事業**
ストックマネジメント計画策定業務委託を追加したため、実績額が大きくなりました。
- ・ **浄化槽整備事業**
補助申請件数が当初の見込みを下回ったため、実績額が小さくなりました。
- ・ **太田地区整備事業、都南中央地区整備事業、道明・下飯岡地区整備事業**
交付金の追加補正交付決定があったため、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																																				
市道改良率*	↑	%	◎	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>73.9</td><td>74.4</td><td>74.6</td><td>74.8</td><td>74.8</td><td>75.0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>74.8</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>75.7</td></tr> </table>	年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	73.9	74.4	74.6	74.8	74.8	75.0						目標値						74.8					75.7
年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	73.9	74.4	74.6	74.8	74.8	75.0																																		
目標値						74.8					75.7																													
まちづくり評価アンケート調査「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合	↑	%	△	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>74.2</td><td>74.7</td><td>78.1</td><td>78.9</td><td>77.8</td><td>77.2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>80.0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>80.0</td></tr> </table>	年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	74.2	74.7	78.1	78.9	77.8	77.2						目標値						80.0					80.0
年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	74.2	74.7	78.1	78.9	77.8	77.2																																		
目標値						80.0					80.0																													
水道管路の耐震化率	↑	%	△	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>23.3</td><td>24.9</td><td>25.5</td><td>26.4</td><td>27.4</td><td>28.1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>29.6</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>34.6</td></tr> </table>	年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	23.3	24.9	25.5	26.4	27.4	28.1						目標値						29.6					34.6
年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	23.3	24.9	25.5	26.4	27.4	28.1																																		
目標値						29.6					34.6																													
污水处理人口普及率（処理区域内人口／行政区域内人口）	↑	%	◎	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>95.0</td><td>95.2</td><td>95.3</td><td>95.7</td><td>95.9</td><td>96.1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>96.0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>97.8</td></tr> </table>	年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	95.0	95.2	95.3	95.7	95.9	96.1						目標値						96.0					97.8
年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	95.0	95.2	95.3	95.7	95.9	96.1																																		
目標値						96.0					97.8																													
面的整備による生活環境整備率（整備済路線延長／整備計画路線延長）	↑	%	△	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>当初値</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>29.0</td><td>30.5</td><td>31.7</td><td>33.7</td><td>38.1</td><td>42.4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>63.0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>97.0</td></tr> </table>	年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	29.0	30.5	31.7	33.7	38.1	42.4						目標値						63.0					97.0
年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	29.0	30.5	31.7	33.7	38.1	42.4																																		
目標値						63.0					97.0																													

* 平成28年度に新しく追加した指標です。

- ・ **市道改良率／◎ 非常に順調に進捗**
未舗装道路において舗装実績を積み重ねたことにより、令和元年度目標値を達成することができました。
令和元年度の道路改良実績は 6,054m であり、市道認定実績（3,833m）を大きく上回っています。ここ数年同様の傾向となっていることが改良率の向上に繋がっています。
- ・ **「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合／△ 遅れが生じている**
平成29年度までは順調に推移していたが、30年度より下降傾向となっています。
街路樹等の植栽管理に関する苦情も増えており、植栽施設の適正な維持管理ができていない実情が背景にあると考えられますが、街路樹等維持管理業務委託費が29年度をピークに、30年度以降は急激に減額となっていることが要因となっています。

- ・ 水道管路の耐震化率／△ 遅れが生じている

使用する全ての水道管に耐震管を採用することにより耐震化率の向上を目指しており、前年度比0.7ポイントの上昇となっています。

令和元年度は予定した工事の受注を促進するため、工事規模や発注時期を工夫し、概ね計画した工事を実施しています。しかし、計画期間内では発注工事の不調不落により、経年管対策事業等の遅れが生じているため、令和元年度目標値には未達となっています。

計画事業を確実に実施するため、工事規模や発注時期を調整し、状況に応じて繰越による発注も実施します。

- ・ 汚水処理人口普及率（処理区域内人口／行政区域内人口）／◎ 非常に順調に進捗

未整備地区や土地区画整理事業地区等の下水管渠の整備、浄化槽設置整備事業の推進により、汚水処理人口普及率は令和元年度目標値を上回っています。

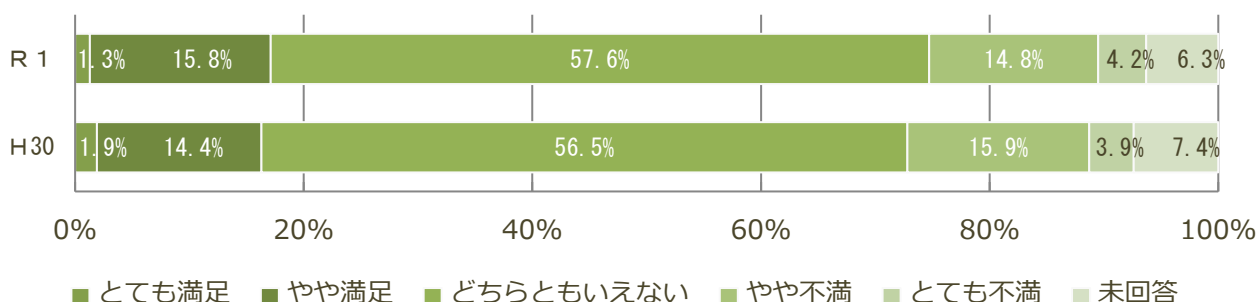
今後は、集落が点在する未整備地区が多数あり、管渠整備による汚水処理人口普及率の伸び幅が小さく、投資効果が低いことから、効率的で効果的な汚水管渠整備を実施する必要があります。また、整備済地区においても下水道への接続促進を図る必要があるほか、老朽化が進行している既存施設の修繕や改築を進める必要があります。

- ・ 面的整備による生活環境整備率（整備済路線延長/整備計画路線延長）／△ 遅れが生じている

必要とする予算の確保が十分にできていないため、令和元年度で42.4%と進捗が遅れており、目標値には未達となっています。

■ 施策に対する市民の実感

「快適で暮らしやすい居住環境が整っている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

良好な住宅地の誘導

（現状の成果、問題点）

建築確認申請に係る完了検査申請が未提出となっている物件に対して、未検査となった場合のリスク等を記載した督促状を送付したことから、完了検査率が平成30年度と比較し1.5ポイント減少したものの、高い割合で完了検査を受けています。

旧耐震木造住宅の耐震診断及び耐震改修の補助事業について、建物所有者の高齢化及び建物の経年劣化による改修工事費の増大等の理由により、応募者が減少し近年募集戸数を下回っています。

（今後の方向性）

完了検査申請の未提出物件に対しては、令和元年度に引き続き同内容の督促状を建築主に対して送付し、完了検査率の向上を図ります。

旧耐震木造住宅の耐震診断及び耐震改修補助事業の周知・啓発を目的とした戸別訪問を今後も実施するとともに、耐震改修工事については、過去に耐震診断を行った建築物の所有者に対し耐震改修の必要性について啓発を行い、耐震改修の推進を図ります。

安全・快適な道路環境の向上

(現状の成果, 問題点)

市道改良率が平成30年度に引き続き令和元年度の目標を達成しました。一方で、道路整備や橋りょう維持補修等の予算の安定的な確保が十分にできていません。

(今後の方向性)

市道の改良について、毎年舗装新設実績を積み重ねることにより、令和元年度目標値を達成することができており、事業は順調に推移していることから、このまま維持を図ります。

予算確保については、「道路橋梁整備促進同盟会」及び「道路対策協議会」等において、国への要望活動を行い、補助金や交付金の安定的な予算確保につなげます。

都市公園の整備と利用促進

(現状の成果, 問題点)

公園整備等により、一人当たりの公園面積が増加しました。また、公園活性化交流広場の開催によりイベントの開催を促したことにより、平成27年度以降、継続して利用件数の目標を達成しています。

公園整備後の適正な運営(維持)管理に必要な維持管理費用の絶対的な財源不足が課題となっています。

(今後の方向性)

公園整備の新たな手法である公募設置管理制度(Park-PFI)を活用し、民間事業者による公園施設整備や収益施設から利益の一部を公園運営(維持)管理に充てることにより魅力ある公園として持続的に機能の充実を図ります。

都市緑化の推進

(現状の成果, 問題点)

花苗の配布等により各町内の緑化が図られたとともに、地元のコミュニティ活動に大きく寄与しました。また、企業や住民の協力によりハンギングバスケット設置数が日本一を継続しています。

一方で、街路樹の老木化および大径木化により維持管理費が高み適正な維持管理が追い付かない状況にあり、景観を損ねるとともに道路交通の安全にも支障をきたす状態となっています。

(今後の方向性)

今後も市民・事業所・団体等の協働による花と緑のまちづくりが継続できる仕組みづくりを検討します。また、街路樹維持管理の組織体制の見直しと効率的な外部発注及び効果的な再整備について検討します。

安定給水の確保

(現状の成果, 問題点)

耐震管の採用による管路整備や老朽施設の計画的な更新により、管路耐震化率は28.1%、有効率は96.6%に達しており、災害に強い水道施設の構築が進捗しています。

水道施設工事の入札不調は改善傾向がみられますが、計画的な施設更新を阻む一因となっています。水道法の水質基準に適合した安全な水道水を給水区域内に安定的に供給しています。

(今後の方向性)

計画的に水道施設工事を実施するため、工事規模や発注時期の調整等を行い、継続して年間を通した工事発注を実施することにより、工事業者が受注しやすい発注方法等を検討し、工事実施に努めます。また、安全な水道水の安定供給を持続するため、水道事業に関する情報発信を図り、経営の健全化に努めます。

汚水処理の充実

(現状の成果, 問題点)

未整備地区や土地区画整理事業地区等の下水管渠の整備、浄化槽設置整備事業の推進により、汚水処理人口普及率は微増しており、汚水処理未整備地区の解消に向けて進捗しています。

未整備地区は、集落が点在する郊外部が多数あり、管渠整備による普及率の伸びが低調です。既存施設の老朽化が進行しています。

(今後の方向性)

未整備地区における投資効果等を検討し、整備計画等の見直しを進め、効果的で効率的な管渠整備を進めます。また、既存施設の定期点検や巡視の強化等による予防保全的な維持管理とともに、老朽施設の計画的な修繕や改築を進めます。

雨水浸水対策の推進

(現状の成果、問題点)

未整備地区や土地区画整理事業地区等の下水管渠の整備により、下水道雨水施設整備率は増加しており、大雨浸水の解消に向けて進捗しています。

ルートの見直し等により幹線整備の進捗が停滞している箇所があります。また、既存施設の老朽化が進行しています。

(今後の方向性)

他事業の担当部署との調整を図り、未整備地区の幹線整備と面的整備を計画的に推進します。

施設整備による浸水対策には長期間を要するため、短期的に対応できる浸水被害箇所の側溝整備や樹改良等のほか、既存施設の点検清掃や土のうステーションの設置等のソフト的な浸水防除対策を継続します。

既成市街地の再整備

(現状の成果、問題点)

土地区画整理事業及び生活環境整備事業により、住環境整備や宅地造成が進み住宅や店舗等が建設され定住人口が増加していますが、必要とする予算の安定確保が困難となっており進捗が遅れています。

(今後の方向性)

確実な予算確保のため、国や県への要望活動を行うとともに、工法や換地設計の見直しなどによる事業費の圧縮等による実効性のある事業計画へ変更します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

快適な市民生活と活発な産業活動を支える都市基盤施設である道路や橋りょう、公園、上下水道施設は、それぞれの整備事業や土地区画整理事業、生活環境整備事業の進捗により、確実に整備が進んでいます。また、施設の老朽化に対しても、維持管理計画や長寿命化計画により、維持更新が進められています。一方で、これらの事業を進める財源確保が課題となっており、より効果的・効率的な整備や、民間活力の活用を検討していきます。

近年、自然災害が多発しており、特にも地震への対策として、橋りょうや上下水道施設の耐震化の促進及び旧耐震木造住宅の耐震診断・耐震改修工事の周知・啓発を進めます。

施策27 交通環境の構築

幹線道路の整備や公共交通機関の利便性の向上を図るほか、自転車走行環境や歩行環境の整備などに取り組むことにより、総合的な交通体系を確立するとともに、マイカー利用の抑制と公共交通や自転車利用の促進を図り、環境にやさしく快適な交通環境を構築します。

■ 主要事業の実績

総合交通計画の推進については、これまでの交通施策の取り組みにより、快適に移動できると答えた市民の割合は増加傾向にあります。また、もりおか交通戦略の評価について総合交通施策懇話会の意見を聞き、国の新たな施策や社会情勢等の変化に対応するため次期もりおか交通戦略で検討することとしました。

公共交通機関の利便性向上と利用促進については、「まちなか・おでかけパス」の年間発売枚数が引き続き目標の10,000枚を超えており、利用状況調査を踏まえたバス事業者と協議により、令和2年度から制度を見直すこととしました。また、バスや鉄道利用者数は令和元年度目標値を超えています。一方で、自動車の交通分担率は減少の目標に対し増加傾向にあり課題となっています。

自転車、歩行者のための交通環境の充実については、自転車走行空間の整備や放置自転車対策事業により、自転車や徒歩で快適に移動できると答えた市民の割合が向上するなど、自転車の利用促進と歩行環境の向上を図りました。

都市活動を支える幹線道路の整備については、都市計画道路等の整備による幹線道路改良率の向上と公共交通の利用促進施策により、主要幹線道路の混雑度は1.0を下回っています。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1-1	公共交通利用促進対策事業（整備関連）	一般		バスの日イベント負担金、ノンステップバス導入補助	1	1	0
1-2	公共交通利用促進対策事業（ソフト事業）	一般		盛岡駅前広場誘導業務委託、まちなか・おでかけバス事業補助金、広域生活路線維持事業補助金など	63	62	0
2-1	自転車の安全と利用促進に関する事業（整備関連）	一般		自転車走行空間整備工事	13	13	0
2-2	自転車の安全と利用促進に関する事業（ソフト事業）	一般		自転車ネットワーク計画のパンフレット作成	1	1	0
3	都市の骨格を形成する街路事業	一般	(★)	明治橋大沢川原線(大通工区)、愛宕町三ツ割線(山岸工区)等の整備	88	16	54
施策の計（一般会計 3事業）					165	92	54

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																								
平日の主要幹線道路の混雑度	↓	割合	◎	<table border="1"> <caption>平日の主要幹線道路の混雑度の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>当初値</td><td>1.11</td></tr> <tr><td>H27</td><td>1.04</td></tr> <tr><td>H28</td><td>1.03</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1.02</td></tr> <tr><td>H30</td><td>0.95</td></tr> <tr><td>R1</td><td>0.99</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	値	当初値	1.11	H27	1.04	H28	1.03	H29	1.02	H30	0.95	R1	0.99	R2		R3		R4		R5		R6	
年度	値																											
当初値	1.11																											
H27	1.04																											
H28	1.03																											
H29	1.02																											
H30	0.95																											
R1	0.99																											
R2																												
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												
交通の手段分担率の変化(自動車)	↓	%	△	<table border="1"> <caption>交通の手段分担率の変化(自動車)の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>当初値</td><td>59.3</td></tr> <tr><td>H27</td><td>63.9</td></tr> <tr><td>H28</td><td>64.7</td></tr> <tr><td>H29</td><td>66.6</td></tr> <tr><td>H30</td><td>67.6</td></tr> <tr><td>R1</td><td>68.6</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	値	当初値	59.3	H27	63.9	H28	64.7	H29	66.6	H30	67.6	R1	68.6	R2		R3		R4		R5		R6	
年度	値																											
当初値	59.3																											
H27	63.9																											
H28	64.7																											
H29	66.6																											
H30	67.6																											
R1	68.6																											
R2																												
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																								
交通の手段分担率の変化(バス, 鉄道)	↗	%	△	<table border="1"> <caption>交通の手段分担率の変化(バス, 鉄道)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>14.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>12.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>12.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>14.0</td> <td>R1目標値(17.0)</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>13.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>13.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>R6目標値(19.0)</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	目標値	当初値	14.7		H27	12.5		H28	12.6		H29	14.0	R1目標値(17.0)	H30	13.0		R1	13.9		R6		R6目標値(19.0)
年度	実績値	目標値																										
当初値	14.7																											
H27	12.5																											
H28	12.6																											
H29	14.0	R1目標値(17.0)																										
H30	13.0																											
R1	13.9																											
R6		R6目標値(19.0)																										
交通の手段分担率の変化(徒歩, 自転車など)	↗	%	△	<table border="1"> <caption>交通の手段分担率の変化(徒歩, 自転車など)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>26.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>23.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>22.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>19.3</td> <td>R1目標値(27.0)</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>19.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>17.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>R6目標値(28.0)</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	目標値	当初値	26.0		H27	23.6		H28	22.7		H29	19.3	R1目標値(27.0)	H30	19.4		R1	17.6		R6		R6目標値(28.0)
年度	実績値	目標値																										
当初値	26.0																											
H27	23.6																											
H28	22.7																											
H29	19.3	R1目標値(27.0)																										
H30	19.4																											
R1	17.6																											
R6		R6目標値(28.0)																										
1日当たりのバス・鉄道利用者数	↗	人	◎	<table border="1"> <caption>1日当たりのバス・鉄道利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値</td> <td>71,962</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>75,191</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>75,309</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>75,827</td> <td>R1目標値(74,400)</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>74,863</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>74,863</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>R6目標値(74,600)</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績値	目標値	当初値	71,962		H27	75,191		H28	75,309		H29	75,827	R1目標値(74,400)	H30	74,863		R1	74,863		R6		R6目標値(74,600)
年度	実績値	目標値																										
当初値	71,962																											
H27	75,191																											
H28	75,309																											
H29	75,827	R1目標値(74,400)																										
H30	74,863																											
R1	74,863																											
R6		R6目標値(74,600)																										

・ 平日の主要幹線道路の混雑度／◎ 非常に順調に進捗

平日の主要幹線道路の混雑度は、令和元年度において前年より0.04ポイント増加しましたが、平成27年度以降令和元年度目標値を下回っています。幹線道路の整備が着実に進んでいることと、「まちなか・おでかけパス」事業の推進により、マイカーから公共交通への転換が図られていることが、混雑度を下げている要因と考えます。

・ 交通の手段分担率の変化(自動車)／△ 遅れが生じている

通勤時における自動車の交通手段分担率は増加傾向にあります。

「まちなか・おでかけパス」による高齢者のバス利用が増加している一方、通勤者の「マイカーから公共交通への転換」の取組が十分に浸透していない可能性があり、更なる検証が必要です。

・ 交通の手段分担率の変化(バス, 鉄道)／△ 遅れが生じている

通勤時におけるバスや鉄道の交通手段分担率は増加傾向にありましたが、平成30年度において1.0ポイントの下降、令和元年度は0.9ポイントの上昇で令和元年度目標値以下の横ばい状況となりました。モビリティーマネジメントなどの利用促進策を浸透させる必要があります。

・ 交通の手段分担率の変化(徒歩, 自転車など)／△ 遅れが生じている

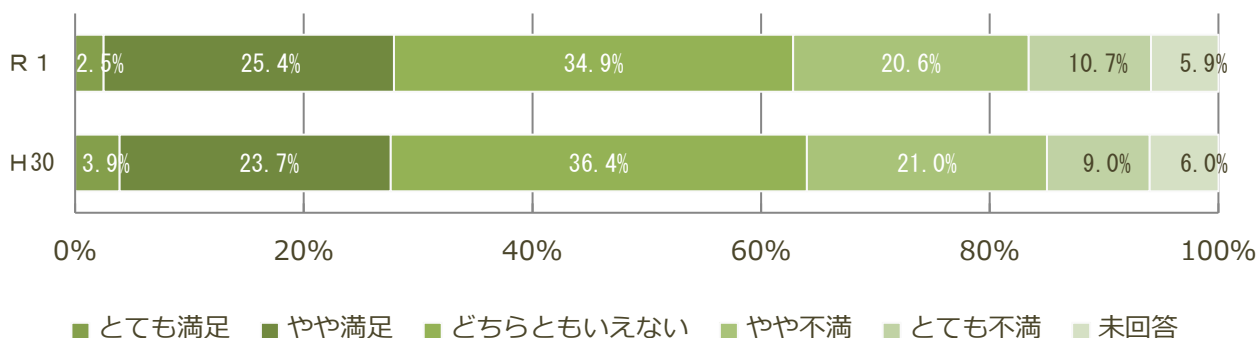
通勤時における徒歩や自転車などの交通手段分担率は減少傾向にあります。これは自転車走行空間ネットワークの形成に長期間を要するためであり、効果発現には時間がかかるものと考えます。

・ 1日当たりのバス・鉄道利用者数／◎ 非常に順調に進捗

1日当たりのバス・鉄道利用者数は、近年は横ばい傾向ですが、令和元年度目標値を超えています。「まちなか・おでかけパス」により高齢者のバス利用が増加していることが要因と考えます。

■ 施策に対する市民の実感

「幹線道路や公共交通機関が利用しやすい」と感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

総合交通計画の推進

（現状の成果，問題点）

盛岡市総合交通計画やもりおか交通戦略の各種施策の取組により，成果指標の「快適に移動できる」と答えた市民の割合が増加傾向にあります。

社会情勢の変化に合わせ，各種計画の見直しや策定を行う必要があります。

岩手県交通の好摩直通線の廃止に伴って当該地域が公共交通空白地とならないよう検討を重ね，岩手県北バスによる代替の路線バス運行することとなりました。

（今後の方向性）

国に対し財源確保を引き続き要望するほか，厳しい財源の状況にあって効果的・効率的な整備が図られるプログラムの策定に取り組みます。

社会情勢の変化に対応した都市計画道路ネットワークを検討し，関連計画との整合性を踏まえた，盛岡交通戦略の次期計画の策定に取り組みます。

盛岡市地域公共交通網形成計画に位置づけた「公共交通空白地区を解消する移動手段の確保・導入」事業について，市民や交通事業者と連携・協力しながら取り組みます。

公共交通機関の利便性向上と利用促進

（現状の成果，問題点）

高齢者対象の「まちなか・おでかけパス」利用者は増加しているとともに，1日当たりのバス・鉄道利用者も目標値を達成しています。しかし，市内バス対象の「まちなか・おでかけパス」の販売枚数が目標である年間10,000枚を超え，バス事業者への補助金の上限を緩和したものの，まだバス事業者の負担が大きいことから，バス事業者と協議を重ね令和2年度から制度を見直すこととしました。

公共交通については，持続を図るためにも，利便性向上により利用者を増やすとともに，効率化が求められています。

（今後の方向性）

引き続き，公共交通利用促進についてPRを実施していくほか，「まちなか・おでかけパス」については，新制度の検証を行います。また，盛岡市地域公共交通網形成計画に基づき，利便性の向上を図るためバスロケーションシステムの更新整備や交通系ICカードの導入に取り組むほか，路線バス運行の効率化を図るため，路線網の見直し・再編について検討します。

自転車、歩行者のための交通環境の充実

（現状の成果、問題点）

盛岡市自転車ネットワーク計画に基づき、市道高松二丁目高松四丁目線及び都市計画道路梨木町上米内線において自転車走行空間の整備を実施しましたが、財源の関係から整備区間が十分ではなく、市民アンケートにおいても「自転車で快適に移動できる」と答えた割合が目標値に達していません。

放置自転車対策については、様々な情報発信等の取組により、盛岡駅周辺での放置数は減少傾向にあります。盛岡駅から駐輪場まで遠いとの理由で、未だに放置自転車がある状況です。

（今後の方向性）

国、県と連携した自転車走行空間のネットワークの推進について、整備時期の調整を行いながら国の補助制度を活用し整備に取り組みます。

幅広い分野での自転車の活用推進やネットワーク整備の財源確保に向け、自転車活用推進計画の策定に取り組みます。

放置自転車対策について、情報発信等を強化するとともに、利便性の高い駐輪場に関する検討を行います。

都市活動を支える幹線道路の整備

（現状の成果、問題点）

都市計画道路等の整備において、区間毎の完成や供用を行うことにより、幹線道路改良率が増加しました。

電線事業者等の工事着手遅延により、事業全体が遅れるケースが多いことから、綿密な工程調整によるスケジュール管理が必要です。

（今後の方向性）

予算確保については、「道路橋梁整備促進同盟会」及び「道路対策協議会」等において、国への要望活動を行い、補助金や交付金の安定的な予算確保につなげます。

もりおか交通戦略に基づき、歩いて楽しむ中心市街地の形成を図るため、エリアを囲む都心環状道路（盛岡駅南大通線（大沢川原Ⅱ工区））の整備着手を目指します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

平日の主要幹線道路の混雑度は減少傾向にあり、幹線道路の事業進捗により、着実にネットワーク形成が進んでいます。一方で、事業を進める財源確保が課題となっており、より効果的・効率的な整備により、早期に効果が発揮できるネットワークの形成を図ります。

バス・鉄道利用者数は令和元年度目標値を超え、ほぼ横ばいで推移していますが、自動車の交通分担率は増加しています。一方で、「まちなか・おでかけパス」の利用者が増加していることから、更なる検証が必要です。また、通勤時におけるバス・鉄道の交通分担率が目標に届かないまま横ばいで推移しているため、更なる利用促進策を進める必要があります。

「盛岡市地域公共交通網形成計画」に位置付けた施策の1つである公共交通の利便性向上に取り組みます。

施策28 国際化の推進

産業や教育，文化，スポーツなど幅広い分野において，諸外国との交流を促進し，市民の国際感覚の醸成を図るとともに，外国人が訪れやすく，暮らしやすい環境の整備を進めます。

また，企業の国際競争力向上への支援や国際的に活躍できる人材の育成など，国際化の推進を図ります。

■ 主要事業の実績

（公財）盛岡国際交流協会と連携し，中学生ビクトリア市研修の参加者がビクトリア市での学校体験やホームステイ体験を通して姉妹都市交流への理解を深めることにより，国際交流の次代を担う人材育成に取り組みました。また，市民や外国籍市民を対象とした各種講座を開催し，異文化への相互理解に取り組みました。

ホストタウン交流事業において，カナダナショナルチームの事前キャンプ実施やマリ共和国とのホストタウン登録に伴う交流について，スポーツ担当部門と連携し取り組みました。

令和2年度の盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年に向けて実行委員会を設立し，記念事業実施に取り組みました。

国際リニアコライダーの誘致実現に向け，市民の機運醸成及び理解の促進を図ったほか，関係団体と連携し，国際リニアコライダーの誘致推進に努めました。

（単位 百万円）

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	姉妹都市等国際交流事業	一般	★	姉妹都市カナダ・ビクトリア市との交流や諸外国との各種交流事業	18	24	0
2	国際交流関係事業	一般		アールラム大学からの短期留学生の受入れ，教師・生徒のインディアナ州への派遣	2	2	0
施策の計（一般会計 2事業）					20	26	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

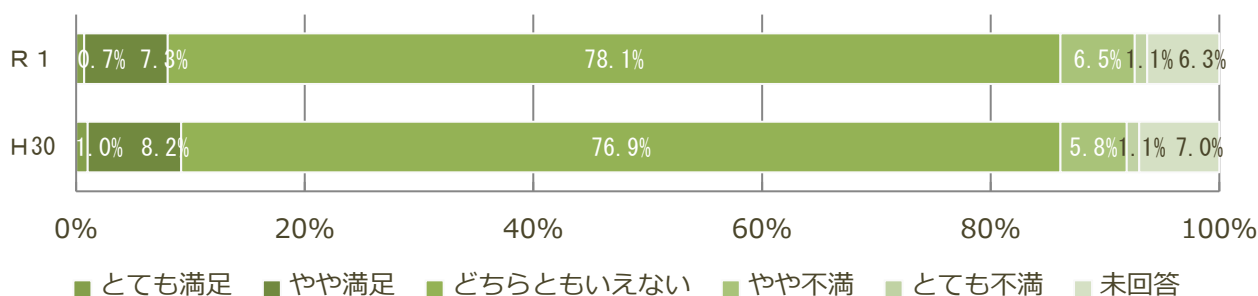
指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「この一年間に国際交流に参加したことがある」と答えた市民の割合	↑	%	○	

・ 「この一年間に国際交流に参加したことがある」市民の割合／○ 順調に進捗

まちづくり評価アンケート調査「国際交流に参加したことがある」と答えた市民の割合は前年度と比べ微増となり，スポーツ部門と連携して取り組んだカナダやマリ共和国とのホストタウン事業で市民交流を実施するなど工夫した取組の成果が表れています。

■ 施策に対する市民の実感

「異文化にふれ国際交流に参加する機会が充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

国際交流の推進

（現状の成果、問題点）

市と（公財）盛岡国際交流協会が連携しながら各種講座・イベントを開催し、市民の国際交流への理解及び関心を深めることができました。今後においても、多くの市民が参加でき、国際交流を体感できるイベントや活動の充実が必要であり、より魅力ある事業展開と情報発信に努めるとともに、低迷する賛助会員の増加に向けた取組についても検討する必要があります。

町内会、自治会を対象に実施したアンケート結果を踏まえ、今後の取組を検討する必要があります。

事業の経費に即した適切な補助金が交付されたことにより、「アールム大学留学生研修事業」においては、留学生を市内中学校に配置し、市内中学生の英語力向上と国際交流を深める機会になりました。さらに、「盛岡ーインディアナ州交流派遣事業」においては、市内中高生及び引率教員による、現地教育機関視察や学校・生活体験を通して、国際理解教育の推進を図ることができました。

（今後の方向性）

スポーツや観光など多岐にわたる分野と連携し、活動団体の支援を進めます。

市と連携し活動する（公財）盛岡国際交流協会のリニューアル後のホームページの活用や、フェイスブック等のSNSを通じた情報発信の強化による協会の活動周知の充実に取り組みます。

地域における多文化共生の充実に向けた検討を進めます。

コロナ禍における国際交流推進の方向性について検討を進めます。

「盛岡ーインディアナ州交流派遣事業」については、令和2年度中止を受け、3年度は実施、4年度以降は国際交流の観点からホームステイが可能である場合実施の方向で計画を推進します。

「アールム大学留学生研修事業」「盛岡ーインディアナ州交流派遣事業」とともに、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大とその終息の見通しが立たないこと等を考慮し、参加者の安全面を考慮し、関係機関と協議の上、今後の実施の在り方について検討していきます。

国際都市づくりの推進

（現状の成果、問題点）

“世界につながるまち盛岡”市民会議と共催で「ILCで世界につながるまち盛岡市民大会」を開催し、ILCに関する市民意識の醸成を図ることができました。

まちづくり評価アンケート調査「国際リニアコライダーを知っている」と答えた市民の割合が減少しました。

（今後の方向性）

誘致決定までのプロセスを注視しながら、引き続き、県、関係市町が一丸となって周知活動を進めます。

国際リニアコライダーの誘致が決定した場合は、外国人研究者が居住、訪問する機会の増加が想定

されることから、平成29年度に外部有識者で構成される「ILC誘致実現を見据えた国際化まちづくりアドバイザーボード」から提出された「国際化に向けたまちづくりに対する提言書」を参考に、国際化のまちづくりを積極的に進めていきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

市民の国際感覚の醸成について、スポーツ部門と連携したホストタウン交流事業の実施、更にはこれらの取組を広く周知したことが、市民の国際交流への理解の促進につながったものと捉えており、今後においても産業や教育、文化など様々な切り口での国際交流の推進を図ります。

地域に暮らす外国人への支援について、本人や地域への対応など外国人が暮らしやすい環境整備を進めます。

直接の往来による交流が困難となる中で、国際交流推進の今後のあり方を検討します。

姉妹都市等を提携した都市との交流について、産業や教育、文化など多分野にわたる交流を市民レベルで促進します。

施策29 都市間交流の促進

にぎわいのあるまちを創出するとともに、市民生活の質を高めるため、市民とさまざまな都市や地域の人々との交流を促進します。

■ 主要事業の実績

文京区で開催されている「啄木学級文の京講座」や友好都市を提携した記念事業として、盛岡国際俳句大会や小学生農村体験交流事業を実施し相互交流を図ったほか、記念碑の設置や記念植樹を実施しました。

令和・南部藩交流事業について、構成市町とこれまでの取組を振り返るとともに、令和元年5月1日から、元号が改元されたことから、名称を「令和・南部藩」と改め、交流事業を進めました。

平成31年2月20日に、これまでの交流を踏まえ、東京都文京区と友好都市を提携しました。

盛岡広域8市町の一体的な発展を目的に策定した「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」を着実に推進するため、盛岡広域首長懇談会などを通じて、広域市町間で進捗管理を行うとともに、新規事業の予算化に向けた調整を進めました。

(単位 百万円)

No.	主要事業	会計区分	新市	事業の内容	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	都市間交流事業	一般		秋田岩手地域連携軸推進協議会負担金、文京区との友好都市提携など	1	1	0
2	広域連携推進事業	一般		盛岡広域連携中枢都市圏ビジョンの進行管理	1	1	0
施策の計（一般会計 2事業）					1	1	0

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
都市間交流を促進するための協定等の締結数	↑	件	◎	<p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(4) R6目標値(5)</p>
みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数*	↑	件	◎	<p>当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6</p> <p>R1目標値(47) R6目標値(64)</p>

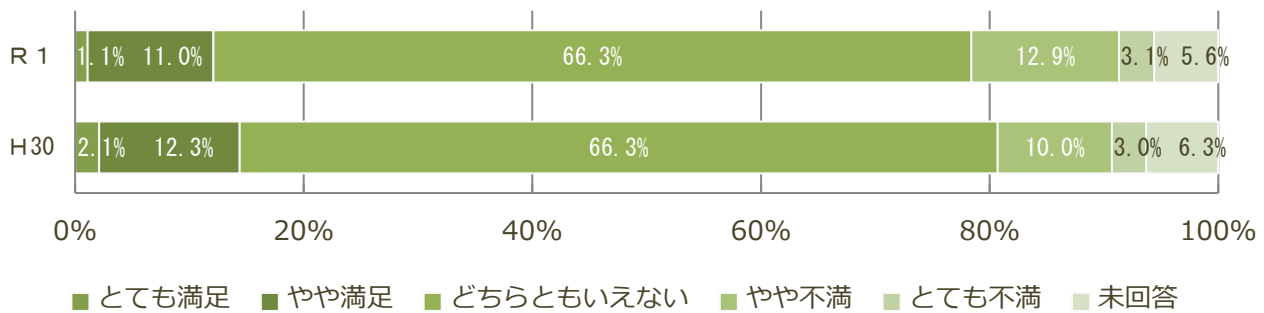
* 平成28年度に指標を「にぎわいや産業振興につながる自治体連携の取組数」から「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数」に変更しています。

- 都市間交流を促進するための協定等の締結数／◎ 非常に順調に進捗
進捗状況としては順調ですが、都市間交流の機会がイベントの参加など限定的でした。
- みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数／◎ 非常に順調に進捗

平成28年度に都市圏ビジョンに掲げる新規・拡充事業を推進するに当たり、広域市町間において、事業実施決定のプロセスや予算編成の調整を行うなどの事業化に向けたルール作りを確立し、それに基づいて調整することができました。

■ 施策に対する市民の実感

「都市間の交流が盛んになり、まちのにぎわい」を感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

都市間交流の促進

（現状の成果，問題点）

沖縄県うるま市や東京都文京区と、友好都市として相互に交流を図ったほか、令和・南部藩交流事業や秋田岩手地域連携軸推進協議会において、構成市町間の交流を図りました。

市民レベルでの交流をさらに促進する必要があり、今後の課題となっています。

（今後の方向性）

うるま市や文京区、函館市、あるいは南部氏ゆかりの市町など、既に交流のある都市との交流を深めるため、従来からの交流を踏まえつつ、教育や文化、経済など多角的側面からの交流へと更に取組を広げ、市民レベルでの交流を促進します。

地域間連携の推進

（現状の成果，問題点）

都市圏ビジョンに新たに2件の事業を計画事業として位置付けることができました。

都市圏ビジョンで「今後事業化を検討する事業」と位置付けていた事業において、事業化に向けた検討を行い、関係課の意見を受け、事業の改廃を決定しました。

新たに広域圏で連携して取り組む事業の検討が進んでいません。

（今後の方向性）

都市圏ビジョンの取組期間が令和2年度までとなっていることから、令和3年度以降の広域連携事業の取組に係る検討を行います。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

いずれの成果指標も目標値を達成していますが、「都市間交流の推進」については、施策目的を達成するにあたり、友好都市との市民レベルの交流事業を更に促進させる必要があります。

「地域間連携の推進」については、次期都市圏ビジョンの策定に取り組むとともに、広域連携にて推進する新規事業の事業化に向けた検討・調整を行います。

(2) 主要事業の実績額一覧（基本目標・施策別）

まちづくりの取組では、盛岡市総合計画の基本構想に掲げる「目指す将来像」の実現に向け、4つの基本目標のもと、29の施策の中に、91の小施策、約1,000の事業を位置づけ、毎年度改革改善しながら事業を進めています。

その中でも、各施策において、優先的かつ重点的に実施する事業を「主要事業」に位置づけて施策の推進を図っています。

また、施策の推進に当たっては、「まちづくり指標」として目標を定めて進捗を図っているほか、施策の取組状況などについて、市民の皆さんがどのように感じているか毎年アンケート調査を行い、その結果を「市民の実感」として把握しながら進捗を図っています。

■ 主要事業の実績（基本目標別）

令和元年度は、166事業を主要事業に位置づけながら施策の推進を図り、主要事業の実績額は、全会計合計で106,943百万円となりました。

内訳は下の表のとおりです。

(単位 百万円)

基本目標	会計区分	計画額	実績額	翌年度 繰越額
1 人がいきいきと暮らすまちづくり (66事業)	一般会計	41,954	42,047	420
	一般会計以外	53,825	55,170	0
2 盛岡の魅力があふれるまちづくり (16事業)	一般会計	286	230	0
	一般会計以外	0	0	0
3 人を育み未来につなぐまちづくり (17事業)	一般会計	1,007	641	851
	一般会計以外	0	0	0
4 人が集い活力を生むまちづくり (67事業)	一般会計	8,643	6,244	3,218
	一般会計以外	5,025	2,611	2,186
計 (166事業)	一般会計	51,890	49,162	4,489
	一般会計以外	58,851	57,781	2,186
	合計	110,740	106,943	6,675

(備考) 1 計画額は年度当初予算額です。

2 計画額、実績額とも、四捨五入しているため、計と合致しない場合があります。

3 計画額及び実績額が100万円未満の場合は、切り上げています。

基本目標1 人がいきいきと暮らすまちづくり（施策1～10）

盛岡に定住する人口を保ち、活力ある社会を築いていくため、若い世代や子育て世代が住みたい、住み続けたいと思うとともに、豊富な経験を持つ高齢者が社会のさまざまな分野で活躍できるまちづくりを進めました。

また、誰もが、心身ともに健やかで自分らしさを発揮しながら、人がつながり、互いに支え合う共生社会の中で、充実感を持っていきいきと安全に暮らすことのできるまちづくりを進めました。

■ 主要事業の実績（施策別）

（単位 百万円）

施策	会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
1 地域福祉の推進	一般会計	189	182	0
2 子ども・子育て、若者への支援	一般会計	10,570	10,770	0
3 高齢者福祉の充実	一般会計	3,716	3,905	8
	一般会計以外	25,293	26,233	0
4 健康づくり・医療の充実	一般会計	6,585	6,538	0
	一般会計以外	28,532	28,937	0
5 障がい者福祉の充実	一般会計	6,743	7,068	0
6 生活困窮者への支援	一般会計	8,582	8,395	134
7 人権尊重・男女共同参画の推進	一般会計	5	5	0
8 安全・安心な暮らしの確保	一般会計	5,040	4,694	278
9 地域コミュニティの維持・活性化	一般会計	214	204	0
10 生活環境の保全	一般会計	310	287	0
計	一般会計	41,954	42,047	420
	一般会計以外	53,825	55,170	0

※ 各施策の詳細については、「(1) 施策別（P 4～35）」に掲載しています。

基本目標2 盛岡の魅力があふれるまちづくり (施策11~16)

盛岡を行き交う交流人口を増やし、にぎわいを創出していくため、雄大な自然や美しい景観、城下町の歴史、芸術文化、スポーツ、温かい人情など、盛岡の魅力を守り育てるとともに、まちづくりにいかし、盛岡らしさが光る、魅力あふれるまちづくりを進めました。

■ 主要事業の実績 (施策別)

(単位 百万円)

施策	会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
11 歴史・文化の継承	一般会計	12	10	0
12 芸術文化の振興	一般会計	38	37	0
13 スポーツの推進	一般会計	194	148	0
14 「盛岡ブランド」の展開	一般会計	4	3	0
15 良好な景観の形成	一般会計	35	30	0
16 計画的な土地利用の推進	一般会計	4	2	0
計	一般会計	286	230	0

※ 各施策の詳細については、「(1) 施策別 (P36~51)」に掲載しています。

基本目標3 人を育み未来につなぐまちづくり (施策17~20)

長い歴史とともに築いてきた文化や環境などを次世代に引き継ぐため、未来の盛岡を支え、創り、つなぐことのできる人を育むまちづくりを進めました。

また、環境への意識が高まる中、豊かな自然環境と快適な都市機能との調和が続く、持続可能なまちづくりを進めました。

■ 主要事業の実績 (施策別)

(単位 百万円)

施策	会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
17 子どもの教育の充実	一般会計	921	557	851
18 生涯学習の推進	一般会計	13	12	0
19 社会を担う人材の育成・支援	一般会計	17	17	0
20 地球環境の保全と自然との共生	一般会計	56	54	0
計	一般会計	1,007	641	851

※ 各施策の詳細については、「(1) 施策別 (P52~63)」に掲載しています。

基本目標4 人が集い活力を生むまちづくり (施策21~29)

人口減少、少子高齢社会の進行とともに、地方の衰退が懸念されている中であっても、活力を生み出し、拠点都市としての役割を十分に果たしていくため、産業の振興や中心市街地の活性化を図るとともに、高次の都市機能の集積を推進し、求心力のあるまちづくりを進めました。

また、国際化が進展する中で、世界に通用する優れた人材を育むとともに、多文化共生のまちづくりを進め、世界に開かれた、活力を生むまちづくりを進めました。

■ 主要事業の実績（施策別）

(単位 百万円)

施策	会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
21 農林業の振興	一般会計	553	543	7
22 商業・サービス業の振興	一般会計	54	54	0
	一般会計以外	1	1	0
23 工業の振興	一般会計	135	94	39
23 工業の振興	一般会計以外	496	185	0
24 観光の振興	一般会計	194	136	0
25 雇用の創出	一般会計	77	78	0
26 都市基盤施設の維持・強化	一般会計	7,444	5,220	3,118
	一般会計以外	4,529	2,426	2,186
27 交通環境の構築	一般会計	165	92	54
28 国際化の推進	一般会計	20	26	0
29 都市間交流の促進	一般会計	1	1	0
計	一般会計	8,643	6,244	3,218
	一般会計以外	5,025	2,611	2,186

※ 各施策の詳細については、「(1) 施策別 (P64~95)」に掲載しています。

3 計画額と実績額の差が1億円以上となった主要事業

計画額との差が1億円以上となった主要事業（16事業）と、その主な増減理由は、次のとおりです。

（単位 百万円）

No.	基本目標 施策 主要事業名	計画額 A	実績額 (R2繰越 含む) B	増減額 B-A	主な増減理由
1	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 2 子ども・子育て、若者への支援 認定子ども園等運営費給付事業	3,042	3,335	293	小規模保育事業所の新設により入園者数が増加したほか、保育料無償化に伴い新しい加算が新設されたため。
2	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 3 高齢者福祉の充実 介護保険事業（繰出金）	3,576	3,813	237	医療の高度化、被保険者の高齢層の増加等の影響により、保険給付費が増加し、一般会計による負担分も増加したため。
3	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 3 高齢者福祉の充実 介護保険事業（特別会計）	24,371	25,323	952	医療の高度化、被保険者の高齢層の増加等の影響により、保険給付費が増加したため。
4	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 4 健康づくり・医療の充実 国民健康保険事業（特別会計）	25,430	25,772	342	医療の高度化・被保険者の高齢層の増加等の影響により、保健給付費が増加したため。
5	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 5 障がい者福祉の充実 介護給付等給付事業	3,152	3,350	198	利用実績が当初の見込みより増加したため。
6	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 5 障がい者福祉の充実 訓練等給付事業	2,295	2,411	116	利用実績が当初の見込みより増加したため。
7	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 6 生活困窮者への支援 公営住宅整備事業	1,014	889	△125	入札差金により、事業費の減額が生じたため。
8	3 人を育み未来につなぐまちづくり 17 子どもの教育の充実 小学校整備事業	546	751	205	国庫補助の追加決定に合わせて、トイレ改修工事に係る令和元年度3月補正予算措置を行い、令和2年度予算に繰り越したため。
9	3 人を育み未来につなぐまちづくり 17 子どもの教育の充実 小中学施設防災対策事業	96	210	114	国庫補助の追加決定に合わせて、玉山小学校、生出小学校、巻堀小学校及び玉山中学校の屋内運動場等非構造部材地震対策工事に係る令和元年度3月補正予算措置を行い、令和2年度予算に繰り越したため。
10	4 人が集い活力を生むまちづくり 23 工業の振興 新産業等用地整備事業	496	185	△311	契約差金による土砂運搬業務委託料の減額があったほか、工事工程の見直しにより基盤整備工事請負費が減額となったため。

(単位 百万円)

No.	基本目標 施策 主要事業名	計画額 A	実績額 (R2繰越 含む) B	増減額 B-A	主な増減理由
11	4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤施設の維持・強化 身近な暮らしを支える道路事業	1,695	1,588	△107	交付金の内示に伴い、事業費が減少したため。
12	4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤施設の維持・強化 配水管整備事業	1,730	1,570	△160	請負差金及び事業延期、入札不調等に伴う年度内施工中止のため。
13	4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤施設の維持・強化 公共下水道汚水施設整備事業	498	812	314	事業進捗の為に、中長期計画の見直しを実施し、見直し後の事業費により執行したため。
14	4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤施設の維持・強化 太田地区整備事業	1,895	2,357	462	社会資本整備総合交付金の補正及び防災安全交付金（住宅市街地総合整備事業）の追加配分があったため。
15	4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤施設の維持・強化 都南中央地区整備事業	663	868	205	交付金の追加補正交付決定があったため。
16	4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤施設の維持・強化 道明・下飯岡地区整備事業	807	1,220	413	交付金の追加補正交付決定があったため。

4 令和元年度完了事業

令和元年度をもって事業が完了した主要事業は、次のとおりです。

■ 事業自体が完了したもの（3事業）

(単位 百万円)

No.	施策の柱 施策 主要事業名	事業内容	全 体 事業費	R 1 実績額	備考 (繰越内訳等)
1	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 1 地域福祉の推進 地域福祉人材等育成事業	地域福祉活動の中核的な担い手の育成。	21	6	
2	2 盛岡の魅力があふれるまちづくり 11 歴史・文化の継承 志波城跡保存整備事業	国民共有の財産である国指定史跡志波城跡の適切な保存管理や整備	1,011	0	
3	3 人を育み未来につなぐまちづくり 17 子どもの教育の充実 小中学施設防災対策事業	地震発生時の事故発生や致命的な被害を未然に防ぐことを目的とした屋内運動場等非構造部材地震対策工事及び耐震指標Is値0.7未満（Iw値1.1未満）と判定された小中学校の建物に係る耐震補強工事	6,994	85	玉山小，生出小，巻堀小及び玉山中に係る屋内運動場等非構造部材地震対策工事

■ 事業は継続するが、構成事業が完了したもの（8事業）

(単位 百万円)

No.	施策の柱 施策 主要事業名	事業内容	全 体 事業費	R 1 実績額	備考 (繰越内訳等)
1	1 人がいきいきと暮らすまちづくり 8 安全・安心な暮らしの確保 消防施設整備事業				
	大ヶ生消防屯所建設事業	現屯所（乙部20地割84番地3）を解体し，跡地に新屯所を建設	40	35	
2	3 人を育み未来につなぐまちづくり 17 子どもの教育の充実 学校プール整備事業				
	見前小学校プール耐震改修	老朽化した見前小学校プールの長寿命化改修工事	118	112	
3	4 人が集い活力を生むまちづくり 21 農林業の振興 農業基盤整備事業				
	【太田堰】 県営集落基盤整備	築造後30年以上経過し，漏水や施設崩落が見られた太田堰の改修	98	6	

(単位 百万円)

No.	施策の柱 施策 主要事業名	事業内容	全 体 事業費	R 1 実績額	備考 (繰越内訳等)	
4	4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤施設の維持・強化 身近なくらしを支える道路事業					
		南大橋明治橋線	南大橋袂と明治橋袂を結ぶ路線の路肩改良による車道2車線の確保と全区間の歩道拡幅整備 総延長800m, 幅員9.0m	675	141	道路改良工事, 登記等
		南仙北一丁目道明線	向中野と県道盛岡環状線に接続する路線の歩道整備 総延長350m, 幅員8.0m	220	20	
6	新幹線側道2号線外1路線	南仙北地区と津志田地区との相互を連絡する路線の拡幅改良 総延長1,020m, 幅員8.0m	330	15		
7	4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤施設の維持・強化 都市公園整備事業					
		木伏緑地	都市公園の整備, 管理において新たに創設された公募設置管理制度を活用し, 飲食店等の民間収益施設とトイレを一体的に整備	30	30	
8	4 人が集い活力を生むまちづくり 27 交通環境の構築 都市の骨格を形成する街路事業					
		(都)盛岡駅南大通線(大沢川原)	JR盛岡駅から中心市街地を横断し南大通までの約2kmの主要幹線道路の街路築造, 電線地中化 総延長220.0m, 幅員28.0m	2,107	37	街路築造工事, 道路台帳作成